

●原田 歌子氏提供の写真資料●



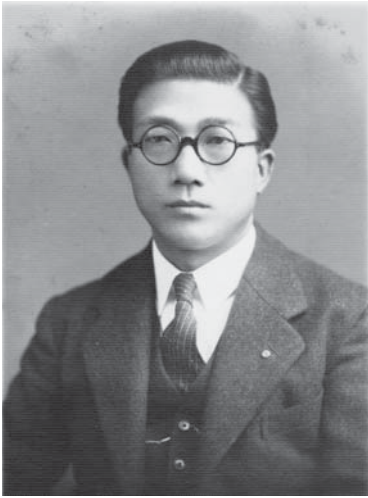
口絵1 1923年頃の安部一家
安部 正義 (左)・安部 雨柳 (中央)・原田 歌子氏 (右)



口絵2 安部 正義と原田 歌子氏



口絵3 原田 歌子氏と幼少期のアメリカの友人たち



口絵4 安部 正義



口絵5 自宅の書斎



口絵6 安部夫妻と女子学生たち



口絵7 安部 正義と子供たち



口絵8 安部 正義



口絵9 冷洋会講堂における独唱会（伴奏は原田 歌子氏）



口絵10 明治学院礼拝堂のリードオルガンを弾く安部 正義



口絵11 普聯士女学校（現、普連士学園）大講堂における明治学院音楽礼拝（1939年12月）



口絵12 安部一家（1949年3月撮影）
（左から雨柳・歌子・宏・正春・正義）



口絵13 キリスト教音楽学校（現、キリスト教音楽院）のおさらい会（1962年10月）
（伴奏は原田 歌子氏）



口絵14 1967年 オラトリオ《ヨブ》全曲初演演奏会での安部夫妻（明治学院礼拝堂）



口絵15 安部夫妻

●明治学院の卒業アルバムより●



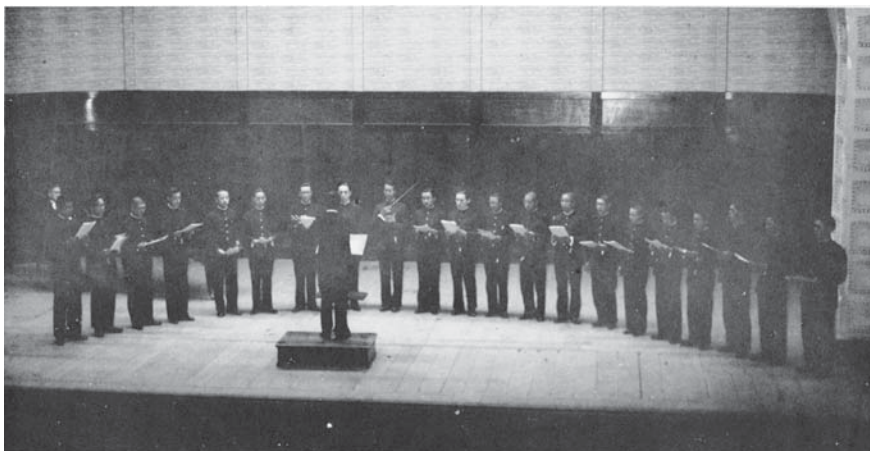
口絵16 1935年の明治学院のクリスマス
礼拝で《歡喜の音信》を歌うYMCAコーラス



口絵17 安部 正義 (1937年)



口絵18 グリークラブと安部 正義による讃美歌歌唱 (1937年)



口絵19 1937年の「音楽と舞蹈と映画の夕べ」で歌うグリークラブ



口絵20 1938年の「音楽と映画の夕べ」で歌う
グリークラブ



口絵21 少年合唱の団員を交えたグリークラブ(1938年)



口絵22 1939年の「音楽・舞踏・映画の夕べ」に出演するグリークラブ
(男声4部合唱)



口絵23 安部 正義とグリークラブ (1939年)



口絵24 普聯土女学校（現、普連土学園）大講堂における明治学院音楽礼拝（1939年）



口絵25 明治学院礼拝堂でマンドリンクラブとグリーククラブの合同演奏を指揮する安部 正義（1941年）



口絵26 安部 正義と報告団音楽班の学生たち（1941年）

明治学院歴史資料館資料集

第11集

明治学院歴史資料館資料集第11集刊行の辞

明治学院歴史資料館館長 長谷川 一

(明治学院大学文学部芸術学科教授)

ここに刊行する明治学院歴史資料館資料集第11集は、オラトリオ《ヨブ》を扱っている。旧約聖書「ヨブ記」を題材にしたこの曲は、日本人の手による最初のオラトリオだ。作曲者は讚美歌「まぶねのなかに」の作曲者として知られ、本学でも長年教鞭をとった安部正義。この曲は、日本の近代音楽史において重要な意義をもつだけでなく、本学にとってきわめて貴重な宝物であるといえる。

当館ではこれまでも《ヨブ》にかんする調査研究を継続的におこなってきた。資料集第9集（2012年3月刊行）では特集を組み、2012年11月にはレクチャー・コンサートを開催した。また、堀内貴晃氏に依頼して、《ヨブ》を室内楽編成で演奏可能な形に編曲していただいた。その編曲にもとづいて、2015年2月15日（日）には明治学院礼拝堂において本館主催のコンサートを開催し、展示演奏を実施した。この日の礼拝堂には、用意した座席が足りなくなるほど多くの観客が参集し、40年ぶりに初演の場所で演奏される《ヨブ》の響きに熱心に耳を傾けてくださった。コンサートの実行責任者は、長く埋もれていたこの曲を発掘し、地道な研究を重ねてきた加藤拓未本館研究調査員である。

今号では、そのコンサートと連動する形で、加藤研究調査員による仔細な解説論文や、編曲された楽譜などを中心に、この間の研究活動の成果がまとめられている。今後の研究の進展と《ヨブ》のいっそうの普及の一助となればさいわいである。

なお2015年年末には、安部正義の息女・歌子氏からあらたな資料提供をいただき、インタビューを受けていただいた。また、令孫・沖本まや氏がこの機会を与えてくださった。記して感謝したい。

最後に、編集実務の労をとってくださった歴史資料館職員、同館スタッフに謝意を申しあげる。

明治学院歴史資料館資料集 第11集

安部 正義とオラトリオ《ヨブ》

目 次

口 絵

原田 歌子氏提供の写真資料

明治学院の卒業アルバムより

刊行の辞

明治学院歴史資料館館長 長谷川 一

論文 安部 正義の生涯	1
解説 安部 正義の作品	11
論文 安部 正義のオラトリオ《ヨブ》——その成立史と演奏史	15
解説 オラトリオ《ヨブ》の聴き方——ウィリアム・ブレイクの『ヨブ記』の挿絵とともに	27
上記論文・解説 著者 加藤 拓未	
安部 正義 オラトリオ《ヨブ》室内楽版（堀内貴晃編曲） 総譜	35

論文 安部正義の生涯

加藤 拓未

安部正義（あべ・せいぎ 1891～1974）は、主に戦前の日本で活躍した教会音楽家である。戦前の教会音楽家は、欧米各国で一般に演奏されている芸術的な礼拝音楽や宗教曲を、日本でも実現することを目指していた。そのためには（1）演奏の場となる「教会」ないし「礼拝堂」、（2）合唱を歌える「聖歌隊」、（3）「パイプオルガン」、（4）自国の作曲家による「曲づくり」の、4つの条件をそろえる必要があった。なかでも安部正義は、主に（4）の礼拝音楽や芸術的な宗教曲などの「曲づくり」の面で、重要な貢献をはたしている。

安部正義の生涯をまとめた文献は、事典項目なども含めていくつかあるが、もっとも新しいものは2012年3月刊行の『明治学院歴史資料館資料集』第9集に掲載された手代木俊一氏の「安部正義の生涯 作品を中心に」である⁽¹⁾。しかし、その後も安部正義に関する新しい伝記的な資料が見つかっており、以下がその主なものである。

- ①安部正義から木岡英三郎へ宛てた1920年のクリスマス・カード

- ②1926年10月30日に帝国ホテルで開催された安部正義独唱会のプログラム（現物）
③原田歌子（安部正義の息女）氏へのインタビューによって得た情報
④原田歌子（安部正義の息女）氏が提供された写真資料（口絵参照）
⑤明治学院の『卒業アルバム』に掲載されていた写真資料（口絵参照）
⑥『明治学院高商時報』及び『明治学院時報』に掲載されていた安部正義に関する情報
⑦『東北文学』創立満二十五年記念特別号（東北学院文学会、1911年）、83-89頁。
⑧鈴木市次郎「会員の面影（其四）——安部正義氏」『東北学院時報』1927年11月20日、3面。
⑨『東京朝日新聞』に掲載されていた安部正義に関する情報
⑩『読売新聞』に掲載されていた安部正義に関する情報

本稿は、新たに得られたこれらの新資料をもとに、安部正義の生涯をあらためて提示することを目的とする。

*本稿をまとめるにあたって、多くの方々からご教示と資料の提供を受けた。特に、安部正義の息女・原田歌子氏は筆者のインタビューを快く引き受けていただいただけでなく、貴重な写真資料もご提供いただいた。そして、安部正義の令孫・沖本まや氏には、このインタビューの機会をつくっていただいた。また、東北学院史資料センターの日野哲氏には『東北文学』と『東北学院時報』の資料をご教示いただいた。各氏のご協力に感謝を申し上げます。

(1)安部正義に関する事典項目は、次の3点がある。「安部正義」『昭和前期音楽家総覧—『現代音楽大観』—』全3巻（日本名鑑協会、1927年；ゆまに書房、2008年）、下巻、225-226頁。「安部正義」『日本キリスト教歴史大事典』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編（教文館、1988年）、51頁。「安部正義」『日本の作曲家——近現代音楽人名事典』細川周平・片山杜秀監修（日外アソシエーツ株式会社、2008年）、23-24頁。ほかに安部正義の伝記記事として園部順夫「安部正義——『まぶねのなかに』とオラトリオ『ヨブ』」『礼拝と音楽』第53号（1987年）、22-27頁がある。

■生い立ち

安部正義は1891（明治24）年5月18日に仙台で、訓導（学校教諭）の父・清柔、母・きしとの間に5男として生まれた⁽²⁾。一家はクリスチャンの家庭であった。1895（明治28）年、安部正義が4歳のとき、父が北海道の尋常高等小学校に転任したことで、一家は仙台より北海道の北見国紋別郡薄鰐村へと移住した⁽³⁾。安部正義自身は同地を「寒村」と表現しており、当時は熊が出没するなど、自然の厳しさを身近に感じる生活環境であった⁽⁴⁾。

家庭は経済的に厳しい状況にあったが、そのなかで、幼少期の安部正義にとって音楽的な「原風景」となったのが、母が愛唱していた讃美歌《花散りうせてはたきぎにうられ》（558番）と、7～8歳頃に父が土産に買ってきたハーモニカ、このふたつだと回顧している⁽⁵⁾。はじめてハーモニカを見た安部正義は大いに興味を持ち、独学で習得し、すぐに《君が代》を演奏できるようになって、家族を驚かせたという⁽⁶⁾。

■東北学院の学生時代

1906（明治39）年3月に北海道の紋別小学校を卒業した安部正義は、父親の勤務校であった仙台的東北学院中学部へ入学した。そして同校で、はじめてピアノという楽器と男声四部合唱の存在に出合った。彼はそのときの感想を次のように述べている。

入学しての最初の印象は西洋人が弾くピアノという楽器であった。実に不思議な感覚を与

えられた。次に上級生の男声四部合唱を聴いた時は何とも言えない感激を受けた。其当時の合唱団は（中略）、団員の推薦と西洋人教師の試験をパスした者のみが加入を許可され、従って団員の練習は自発的に猛烈であった。（中略）夜遅くまで西洋人の宅で練習をして帰る途すがら、四部合唱をしながら通るのが常であったが、当時は実に愉快なものであった⁽⁷⁾。

明治30年代といえば、リードオルガンの国産化が実現し、まさに全国レベルでの普及が進展している時期にあたる。したがって、リードオルガンよりも、ずっと高価なピアノの存在は、ほとんど庶民の間では知られていなかった⁽⁸⁾。当時の安部正義も、はじめてその音を聴いて「不思議な感覚」を覚えたというのは、無理からぬ話であった。また、随筆家の生方敏郎（1882～1967）は著書『明治大正見聞史』のなかで「日露戦争（1904〔明治37〕年）前の学生は、四部合唱ということすら知っている者は稀だった⁽⁹⁾」と指摘していることから、日露戦争の2年後にあたる1906（明治39）年に、安部正義が4声部のハーモニーからなる「四部合唱」の存在を知らず、聴いて「何とも言えない感激を受けた」と思い返しているのも、当然の反応と言える。

合唱の指導は「西洋人教師」が行っていたとあるが、東北学院大学グリークラブOB会のホームページに掲載されている「グリーのあゆみ」によると、次のような記述がある。

グリーの前身である合唱団は、明治35年当

(2) 安部正春（安部正義の子息）氏から提供いただいた安部家所蔵の記録資料をもとに記載した。『明治学院歴史資料館資料集』第9集（明治学院歴史資料館、2012年）、1頁では、安部正義の父は「牧師」とされているが、これは誤りで、正しくは「訓導（教諭）」である。
 (3) 安部正義「慈愛の母」『白金乃丘』（明治学院中学部報国団）第84号（1944年）、28-29頁。園部は注2の文献のなかで、安部家の北海道移住は、安部正義が「3歳」のときと記述しているが、それは「4歳」の誤りである。

(4) 安部正義「或方面の連中は」『白金乃丘』（明治学院中学部報国団）第83号（1943年）、37-39頁。
 (5) 安部正義、前掲「慈愛の母」、29頁。
 (6) 安部正義、前掲「或方面の連中は」、38頁。
 (7) 安部正義「北海道北見の山奥から」『白金乃丘』（明治学院中学部報国団）第82号（1942年）、49-50頁。
 (8) 赤井励『オルガンの文化史』（青弓社、1995年）、51-52頁。
 (9) 生方敏郎『明治大正見聞史』（春秋社、1926年；中央公論社、1978年）、78頁。

時兄弟校であった宮城女学校（現、宮城学院女子大学）との混声合唱の男声部として発足しました。グリークラブという名称が学院で使われるようになったのは、明治30年代の後半になります。クラスの有志4名が申し合わせてグリークラブを組織しました。指導は、校歌を作曲された神学部教授ザウグ（ゾーグ）氏御夫妻で活動としては文学会の折に歌う程度でした。練習は週一回で後にメンバーが増えダブル・カルテットを構成するようになり、それ以後のグリークラブの詳しい事は定かではありませんが、いろいろな会合で合唱を行っていたようです⁽¹⁰⁾。

この記述と、安部正義の回顧を照らし合わせてみると、合唱の指導は神学部教授のE.H.ゾーグ（Elmer H. Zaugg）が担当していたと推定される。彼は音楽科を兼任するほど、音楽に堪能であったと言われている。また、安部正義の息女・原田歌子氏によると、安部正義は東北学院時代に、のちに妻となる秋保雨柳（あきほ・うりゅう 1896～1972）と出会っていたという。そのきっかけは、安部正義が教会のリードオルガンを弾いていると、いつのまにか秋保雨柳がかたわらに座って耳を傾けていたというものである。上述のように東北学院のグリークラブは、創設時から宮城女学校と交流があった。したがって宮城女学校の学生であった秋保雨柳と、安部正義との間に交流が芽生えた背景に、グリークラブの活動があったことは想像に難くない。

合唱に惹かれた安部正義はグリークラブに入部し、活動にのめり込んでいった。そして、卒業

直後の1911（明治44）年5月16日に行われた東北学院創立25周年記念式の記念音楽会への出演もはたした。この会は、のちに安部正義が明治学院で再会する笹尾糸太郎（1871～1941）教授による「開会の辞」で幕を開けた⁽¹¹⁾。その一節に「この音楽会には一つの抱負がある、其れは、諸君に純西洋音楽……而かもそは欧米に於て定評ある、傑作を紹介しようとの是れである、で（中略）、今宵の演奏会は純西洋式にやる積である」とあり、この「純西洋式」の会に安部正義が選ばれたということは、彼が西洋音楽の愛好家として、学院を代表する存在と目されていたことを意味している。当日、安部正義は高橋潔・赤石義明・秋保孝次らとともに男声四部合唱で《プログレッシング・マーチ》とゴート作曲《木霊》の2曲を演奏した⁽¹²⁾。また明治学院のH.M.ランディス教授（Henry Mohr Landis, 1857～1921）の娘パウラ・ランディス（Paula Landis）も、この記念演奏会にピアノとヴァイオリンの独奏で出演している⁽¹³⁾。



図1 東北学院卒業当時の安部正義
(1911年撮影、東北学院資料センター所蔵)

(10) 東北学院大学グリークラブOB会ホームページ (http://music.geocities.jp/tgglee_ob/#)。

(11) 笹尾糸太郎に関しては、『日本キリスト教歴史大事典』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編（教文館、1988年）、570-571頁を参照。

(12) 『東北文学』創立満二十五年記念特別号（東北学院文学会、1911年）、83-89頁。および、東北学院創立七十年史編纂委員会『東北学院創立七十年史』（東

北学院同窓会、1959年）、337頁。

(13) パウラ・ランディスに関しては、園部不二夫「明治学院音楽史——明治学院における戦前戦後の音楽活動」、江藤敏明他編集責任『管弦楽団創立10周年記念誌』（明治学院大学管弦楽団、1976年）40-48頁、および郷司慥爾「私の学院時代」、鷺山第三郎『明治学院五十年史』（明治学院、1927年）、350-358頁を参照。

■ボストン留学時代

1911(明治44)年に東北学院普通科を卒業した安部正義は、音楽の道に進むことを決意し、すぐにアメリカへ留学するが、その際に宣教師の勧めがあったという。この宣教師は、おそらくグリーククラブを指導していたゾーク教授であろう。

渡米した安部正義は、まずオハイオ州の高等学校に入学し、2年間の在籍を経て、1913(大正2)年、ボストンのニューイングランド音楽院に入学した⁽¹⁴⁾。ピアノをF.S.メーソン(F.Stuart Mason)、声楽をC.ベネット(Charles Bennett)に師事し、和声法、和声分析、音楽史、対位法、作曲、音楽鑑賞、声楽教育、イタリア語、フランス語、ドイツ語などを履修した⁽¹⁵⁾。

のちに日本のパイプオルガンの草分けとして活躍する木岡英三郎(1895~1982)は、パイプオルガンを学ぶために東京音楽学校(現、東京藝術大学)を中退してアメリカへ留学し、1920(大正9)年10月にイエール大学に入学した。そして間もなく、先にアメリカに来ていた安部正義と交流を持ったようである。同年12月に安部正義から木岡英三郎宛てにクリスマス・カードが送られており、その現物が東京都杉並区南荻窪のオルガニスト

ト木岡英三郎・梅子記念資料室に保管されている(図2参照)。そのカードの下方に、安部正義の作曲による簡単なクリスマス・ソング(歌とピアノ伴奏)と署名と日付が手書きで添えられている。このカードの存在は、在米中の両者の間に交流があったことを示している。

安部正義は留学中に、仙台から秋保雨柳を迎えて結婚し、1921(大正10)年6月2日に長女の原田歌子氏(旧姓、安部)が誕生した(口絵1、2)。原田歌子氏によると、当時一家は、ニューハンプシャー州のコンコード(Concord)にある裕福なアメリカ人の一家のところで、住み込みの奉公人として働いていたそうである。両親は、台所仕事から、草刈、薪割り、釜焚き、畑仕事と、労働は時に一日12~13時間におよぶこともあり、安部正義は残りの僅かな時間を勉強にあてるとい生活だった。居住空間としては、屋敷の地下の部屋が割り当てられ、部屋にはピアノおよびそれに類する楽器は無かったそうである。これは、原田歌子氏が生まれてからの話であることから、1921(大正10)年以降の安部一家の様子であり、安部正義が1911(明治44)年に渡米してから10年以上が経過した状況であった。原田歌子氏によれば、当時の生活は子供の目から見ても、とても「貧しい」ものであったという。

安部正義は声楽専攻であったが、在学中、作曲も積極的に学び、F.S.メーソン(F.Stuart Mason)、F.コンヴァース(Frederick Converse, 1871~1940)とG.W.チャドウィック(George Whitefield Chadwick, 1854~1931)らに師事した⁽¹⁶⁾。10年以上におよぶ苦学の成果は、作曲の面で現れた。1924(大正13)年、オーケストラ組曲《小川のほとりに》と《橋の上にて》、1925(大正14)年、オーケストラ序曲《あけぼの》、1926(大正15)

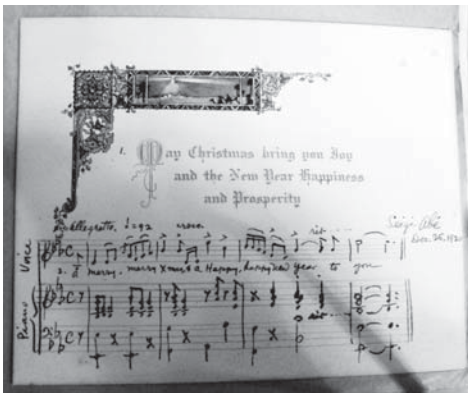


図2 安部正義から木岡英三郎宛のクリスマス・カード(オルガニスト木岡英三郎・梅子記念資料室)

(14) 鈴木市次郎「会員の面影(其四)——安部正義氏」『東北学院時報』1927年11月20日、3面。
 (15) 筆者によるニューイングランド音楽院への問い合わせに対する、M.パーリン＝モーア(Maryalice

Perrin-Mohr)氏によるe-mail回答(2010年5月13日付)。
 (16) 安部正義『"JOB" ORATORIO』(基督教音楽学校、初版、1965年)、巻末の略歴を参照。

年、交響詩《ボストン生活の思い出》と、3年連続で同校作曲科のエンドカット賞コンクールに入選、優等賞を授与された(図3参照)。特に《小川のほとりに》と《橋の上にて》は、当時、ボストン・ポップス・オーケストラによって演奏された⁽¹⁷⁾。そして、1926(大正15)年6月に教育科声楽専攻のディプロマを取得して卒業、同年8月に帰国した。



図3 エンドカット賞の記念グラス
(安部正春氏所蔵)

■帰国後の活躍

安部正義は1926(大正15)年8月28日午後5時に横浜港に到着した。日本の各新聞紙は期待の新人の帰国を紙面で取り上げ、東京朝日新聞は「安部正義氏帰る 欧州に知られた作曲家十七年振りて故国へ」と報じ⁽¹⁸⁾、読売新聞は「米國仕込の天才 始めて放送の安部正義さん」と紹介している⁽¹⁹⁾。

帰国後の安部正義は、バリトン歌手として活動しながら、積極的に自作品を広めようとつとめた。最初の公の独唱会は1926(大正15)年10月30日に帝国ホテル演芸場で開催された「安部正義バリトン独唱会」である。伴奏をつとめたのはポーランド人ピアニストのL.コハンスキー(Leonid Kochanski, 1893~1980)で、当時、東京音楽学校(現、東京藝術大学)の教授をつとめていた。

当時のプログラムが明治学院歴史資料館に所蔵されている(図4参照)。



図4 安部正義バリトン独唱会(1926年10月30日)

同年10月25日の午前中に、コハンスキー邸で行われた事前リハーサルを取材した朝日新聞の音楽評論家・牛山充(1884~1963)は「安部正義氏の芸術」と題した記事を同紙に寄稿し、安部正義を次のように高く評価した。

氏は音楽的のよい耳と、曲の内容、形式両方面に対する優れた理解と、高雅な表現法とを兼備している。英、独、仏、伊語の歌詞を立派に歌い生かす語学的教養の高さが我国には珍しい。誇張とげん気とがない、理智と感情との正しい協力をもってする唱法は氏の芸術家としての天分の高い事を示す。声量も豊かで、力強い多くの我声楽家が陥るヴィブラート使用の弊を脱している。三十日の(中略)独唱会は注目すべきものであることを確信する⁽²⁰⁾。

その後、1926(大正15)年11月18、19日に母校の東北学院で独唱会を開き⁽²¹⁾、同年12月3日のラジオ番組でバリトンの独唱を披露している⁽²²⁾。1927(昭和2)年6月3日にはラジオ番組で自ら指揮を執り、JOAKシンフォニーオーケス

(17)同前。

(18)『東京朝日新聞』1926年8月29日朝刊、7面。

(19)『読売新聞』1926年12月3日朝刊、9面。

(20)『東京朝日新聞』1926年10月29日朝刊、8面。

(21)鈴木市次郎、前掲。

(22)『読売新聞』1926年12月3日朝刊、9面。

トラの演奏で安部正義《ボストン生活の思い出》を紹介し⁽²³⁾、同年9月21日には「放送オペラ第8回」でヴェルディ《アイダ》(伊庭孝訳)のアモナスロ役で出演している⁽²⁴⁾。また1930(昭和5)年1月21日にもラジオ番組に出演し、JOAKシンフォニーオーケストラの伴奏にのって、ワーグナー《タンホイザー》より「夕星の歌」、モーツァルト《フィガロの結婚》よりフィガロのアリア「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」を歌っている⁽²⁵⁾。

■明治学院時代

安部正義は1928(昭和3)年4月から木岡英三郎の後任として、明治学院講師となり、同時に音楽主任をつとめ、毎日の礼拝の奏楽を行った(口絵10)。

原田歌子氏によると、安部正義の明治学院着任には、当時、同学院の高等学部部長をつとめていた笹尾衆太郎教授の尽力があったという。笹尾は東北学院で教授をしていた頃、まだ学生だった安部正義のことを知っていた(前述の東北学院創立25周年記念音楽会を参照)だけでなく、安部正義の姉・やすが笹尾夫人となっていたため、両家は近い関係にあったからである。

明治学院で教をはじめた安部正義は、当時の学院生たちに対して「すごく野生気味の連中が居て、野球のバットを股の間に、又は肩にして教室に入る者など珍しくなかった。私はアメリカから

帰ったばかりの頃なので、すっかり当惑してしまった」と振り返っており、腕白な学生に手を焼いた様子を伝えている⁽²⁶⁾。

明治学院での教育活動のかたわら、安部正義は学校行事のために演奏も行った。記録のうえで確認できる最初の出演は、1927(昭和2)年11月4日の「明治学院創立五十年記念音楽会」で、当日、安部正義はバリトンの歌声を披露している⁽²⁷⁾。1933(昭和8)年2月に発売された明治学院校歌《人の世の》と明治学院高等商業部部歌《こころの宿の》のレコード録音で、安部正義は両曲の編曲を担当し、さらに独唱者として参加している⁽²⁸⁾。そのほかクリスマス礼拝や同祝会、同年11月の「明治学院高等商業部設立15周年記念演奏会」、卒業生を送り出す送別会などでも独唱を歌っている⁽²⁹⁾。



図5 明治学院礼拝堂のクリスマス会で歌う
安部正義、伴奏はルーベン夫人

安部正義の活動の重点は、次第に学生の合唱指導へと移っていった。ただし、1930年代半ばの明

(23) 『読売新聞』1927年6月3日朝刊、9面。

(24) 内山惣一郎『浅草オペラの生活——明治・大正から昭和への日本歌劇の歩み』(雄山閣出版、1967年)、125頁。

(25) 『読売新聞』1930年1月21日朝刊、9面。

(26) 安部正義「グリーンクラブによせて」都留和夫・榊田恒編集『明治学院大学グリーン・クラブ二〇年史』(明治学院大学グリーン・クラブ、1969年)、18-19頁、および安部正義「我が思出」『明治学院歴史資料館資料集』(『明治学院九十年史』のための回想録)第2集(明治学院歴史資料館、2005年)、3-5頁。

(27) 「明治学院創立五十年記念音楽会」、1927(昭和2)年11月4日、明治学院講堂、プログラム資料(明治

学院歴史資料館所蔵)。

(28) 『明治学院高商時報』1933年2月4日(第17号)、2面。

(29) 「明治学院高等商業部設立15周年記念演奏会」(1933年11月11日、明治学院大講堂)、「クリスマス・イブ祝会」(1934年12月21日、明治学院大講堂)、「明治学院高等商業部第15回送別会」(1935年1月31日、明治学院大講堂)に、安部正義がバリトン独唱で出演している。以上の行事についてはプログラム資料が現存している(明治学院歴史資料館所蔵)。また『明治学院高商時報』1934年12月19日(第30号)、3面、1935年12月20日(第41号)、3面にも、独唱出演の記事がある。

治学院には正式な合唱団はなく、1934（昭和9）年から1936（昭和11）年にかけて、学院内の行事では、YMCA有志が臨時に合唱を担当していた。彼らは毎年のクリスマス祝会で、安部正義の《歓喜の音信》を歌っていたので、安部作品の普及に一役買ってはいたが、それはささやかなものにすぎなかった⁽³⁰⁾（口絵16）。

そうした状況のなか、安部正義は本格的な合唱団の新設に乗り出し、1936（昭和11）年度から学友会（学内クラブの連盟で、各部の部長教授と主将で組織された）の非公認団体として「グリークラブ」を立ち上げた⁽³¹⁾。そして早くもその年の6月に行われた「音楽と舞踊の夕べ」に出演をはたしている⁽³²⁾。その後も、毎年の恒例である「音楽と舞踊と映画の夕べ」（6月）や、懇親会（11月）、クリスマス礼拝・祝会（12月）、卒業式（3月）と、学院内の行事に継続的に参加し⁽³³⁾、1937（昭和12）年12月の『明治学院高商時報』には「吾がグリークラブは昨今の進展は目ざましき物があり」という記事が現れ、「昨今は聖歌隊として教会学校等各方面に活躍」し、「好評を博している」と、好意的な評価を獲得した⁽³⁴⁾（口絵18、19、20、22、23）。

グリークラブの活動は、1938（昭和13）年12月4日に目黒駅近傍の白金教会で行われた明治学院クリスマス音楽礼拝をきっかけに新たな段階へと進んだ（口絵21）。このとき安部正義は、変声期前の中学部生をメンバーに加えて、彼らにソ

プラノとアルト・パートを歌わせることで、グリークラブを「ボーイ・コワイア（少年合唱団）」へと拡大させたのである⁽³⁵⁾。当日の様子は「合唱中高音部は中学部生徒が歌い、昨年にまさる美わしき礼拝を恵まれた」と報告されている⁽³⁶⁾。

翌1939（昭和14）年12月10日には、普聯士女学校（現、普連土学園）の大講堂で音楽礼拝を行っている（口絵11、24）。出演者は三枝喜美子（ソプラノ）、安部正義（指揮、バリトン）、石丸創造（ピアノ）、黄永足（オルガン、高商部3年）、そして90名からなる少年合唱団であった。参列者は200余名にのぼり、当日の礼拝で演奏された曲目は、以下のようにフランスの宗教曲を中心にまとめられたものであった⁽³⁷⁾。

1939（昭和14）年12月10日の明治学院音楽礼拝（於：普聯士女学校大講堂）の曲目

讃美歌67番（一同）

《主の祈り》（聖歌隊）

グノー作曲《グローリア・パトリ》（聖歌隊）
バッハ＝グノー作曲《アヴェ・マリア》（ソプラノ独唱）

バッハ作曲《イギリス組曲》（ピアノ独奏）
讃美歌288番（一同）

デュボワ作曲《キリストの最後の7つのことば》より（バリトン独唱）

グノー作曲《アヴェ・ヴェルム・コルプス》（聖歌隊）

(30) 『明治学院高商時報』1934年1月26日（第22号）、1面、1934年12月19日（第30号）、3面、1935年1月22日（第31号）、1面、1935年12月20日（第41号）、3面、1936年1月20日（第42号）、3面。

(31) 『明治学院高商時報』1936年6月20日（第47号）、3面に、はじめて「グリークラブ」の団体名が確認される。また『明治学院時報』1939年4月20日（第82号）、4面にグリークラブが非公認団体であると明記されている。

(32) 『明治学院高商時報』1936年6月20日（第47号）、3面。

(33) 『明治学院高商時報』1936年11月20日（第52号）、3面、1936年12月20日（第53号）、3面、1937年1月20日（第55号）、3面、1937年3月20日（第56号）、1面、1938年2月20日（第68号）、3面、1938年4月20日（第70号）、3面、『明治学院時報』1939年5月20日（第83号）、5面。

(34) 「グリークラブ」『明治学院高商時報』1937年12月20日（第65号）、3面。

(35) 安部正義、前掲「我が思出」。

(36) 『明治学院時報』1938年12月20日（第78号）、3面。

(37) 『明治学院時報』1939年10月20日（第88号）、4面、1939年12月20日（第90号）、1面。

安部正義作曲《歓喜の音信》（聖歌隊）
讃美歌112番（一同）

木岡英三郎はアメリカに留学したとき、はじめて少年合唱団の演奏に接し、驚きとともに非常に感動したという⁽³⁸⁾。同時期にアメリカへ留学していた安部正義も、木岡と同じような体験をしたとみて間違いはないだろう。木岡が日本にパイプオルガンを導入し、欧米の教会音楽と同様な環境の実現を目指したように、安部正義は欧米で一般的に活動している少年合唱団を日本で、それも明治学院で実現させたのである。

しかし、こうした学生を中心に育まれた音楽活動や文化は、ファシズムの台頭によって、次第に戦争という暗い時代に飲み込まれてゆく。1941（昭和16）年4月から、学友会は「明治学院報国団」へと解消し、音楽部は「報国団文化部音楽班」となった⁽³⁹⁾。時勢から学生たちの音楽活動は自粛の傾向を強め、そのなかで安部正義は1945（昭和20）年3月に明治学院を退職した（口絵26）。

安部正義は明治学院以外にも1928（昭和3）年4月から週に一度、母校東北学院の音楽科の授業も持った（2年間のみ）。また同年4月から、トキワ松学園でも英語と音楽の科目を担当した。そのほか、自由学園、尚絅女学校などでも教鞭を執っている。また校務のかたわら、讃美歌委員会に参加し、新作の讃美歌を提供するなど、5つの讃美歌集の編集にも携わった。

■戦後と晩年

戦後になって、安部正義は主にキリスト教音楽学校（現、キリスト教音楽院）で授業を持ち、ま

たトキワ松学園でも戦前から引き続き、英語と音楽を1972（昭和47）年3月まで教えた（口絵13）。

1965（昭和40）年12月には、すでに完成していた日本最初のオラトリオ作品である《ヨブ》のピアノ・ヴォーカル・スコアを出版している。そして1967（昭和42）年5月、明治学院礼拝堂で《ヨブ》は、はじめて全曲が演奏された（ただし、伴奏は本来の管弦楽ではなく、礼拝堂のパイプオルガンで行われた）⁽⁴⁰⁾（口絵14）。オリジナルの管弦楽編成による全曲演奏は、1969（昭和44）年5月に東京文化会館の大ホールで行われている⁽⁴¹⁾。

1967（昭和42）年11月、安部正義はこれまでの功績が認められ、木岡英三郎・津川圭一・中田羽後らとともに日本キリスト教文化協会より第四回キリスト教功労者に選ばれた。そして1971（昭和46）年には、これまで書き溜めた歌曲作品を集大成し、『歌曲集世俗・宗教』を出版している。

安部正義は1974（昭和49）年6月4日に死去し、葬儀は6月9日に日本基督教団碑文谷教会において行われた。享年83。葬儀では、安部正義の讃美歌《馬槽のなかに》が列席者によって歌われ、さらに《ヨブ》の合唱曲「ああ過ぎにし年月の」を明治学院大学グリークラブの学生たちが演奏して捧げた⁽⁴²⁾。

弟子の園部順夫（1935～2000）によれば、晩年の安部正義は「万年青年の如く若々しくて、いつも慈悲深いまなざしをもって人々に接せられ、好々爺の面目躍如たるころがあった」と伝えているが⁽⁴³⁾、娘の原田歌子氏によれば、安部正義は、近所の子供が自宅周辺で騒いでいると、怒鳴って怒る「カミナリオヤジ」の典型だったとい

(38) 森田真理子「木岡英三郎 日本におけるオルガン開拓者 その伝記と揺るぎない遺産」『オルガン研究』XXXVIII号（日本オルガン研究会、2010年）、1-27頁、9頁。

(39) 『明治学院時報』1941年4月20日（第105号）、1面。

(40) 安部正義作曲オラトリオ《ヨブ》演奏会プログラム（1967年5月21日、明治学院チャペル、明治学院大学グリークラブ主催）。

(41) オラトリオ《ヨブ》（管弦楽版初演）演奏会プログラム（1969年5月25日、東京文化会館、主催：日本基督教文化協会、後援：朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団、キリスト新聞）。

(42) 園部、前掲、26-27頁。

(43) 同前。

う。しかしクリスマスの晩餐となると、当時の安部家では、七面鳥の丸焼きを食べる習慣があり、安部正義自身が家族のために七面鳥を切り分ける役をかってでるなど、アメリカの良き父の姿を思わせる一面もあったそうである。かと思えば、安部正義はテレビでのプロレス中継に目が無く、周囲が呆れてしまうほど、熱心に画面にむかって興奮して叫びながら観戦を楽しんでいたというエピソードもある。

「日本の教会音楽の開拓者」という立場は、ともすれば堅苦しいイメージで塗り固められてしまうこともある。しかし、こうした安部正義の素顔を伝えるエピソードから窺えるように、彼はやはりひとりの人間として喜び、怒り、悲しみ、そして楽しみながら、日本の教会音楽の導入・普及に尽力した生涯を生き抜いたのである。

■まとめ

本稿は、新たに見つかった安部正義の伝記的資料をもとに、その生涯をあらためてまとめたものである。新しい資料によって、判明したことは以下である。

- ① 笹尾条太郎と安部正義の関係。安部正義が明治学院に着任した理由が解明された。
- ② 東北学院創立25周年記念音楽会で、安部正義らの男声四部合唱が歌った曲目が判明したこと(《プログレッシング・マーチ》と《木霊》)。
- ③ 安部正義と木岡英三郎が、すでに1920(大正9)年から知り合いであったこと。
- ④ 安部正義と雨柳夫人の出会いから、海を越えたロマンス、そして結婚にいたった事実。海外に行くことが容易でなかった時代に、女性が男性を追って渡米したことは珍しいケースと思われる。これによって安部正義の交響

詩《ボストン生活の思い出》のプロットが理解される。

- ⑤ 安部正義のボストンでの生活の様子。奉公人として、かなり貧しい生活を送っていたことが明らかになり、代表作オラトリオ《ヨブ》の創作背景が垣間見られた。
- ⑥ 安部正義の歌唱に対する牛山充の評論が見つかり、牛山が安部の歌唱を高く評価していたことが判明した。
- ⑦ 安部正義がボーイ・コワイア(少年合唱団)の先駆をなしたこと。
- ⑧ 晩年の安部正義は単なる「好々爺」ではなく、実は「カミナリおやじ」で、それでいて「アメリカの良き父」を理想視し、そのわりには「プロレス観戦好き」であったこと。

以上、今回の新しい資料や情報によって、今まであまり様子がわからなかった安部正義の東北学院時代とボストン留学時代について、より具体的な情報を得ることができた点で、成果があげられた。これは、ひとえに安部正義の息女・原田歌子氏へのインタビューが実現したことによるもので、あらためて原田歌子氏のご協力に御礼申し上げたい。また、安部正義が先駆的にボーイ・コワイア(少年合唱団)を創設したことは、日本のキリスト教音楽史において、注目すべき重要な事例である。今回、その具体的な演奏曲も判明したことは貴重な情報になるだろう。

安部正義の伝記研究に関して今後の課題となるのは、やはり10年以上におよんだ安部正義の留学時代に関する情報である。今回は原田歌子氏の記憶から留学時代の最後の数年間(1921~26年)の一部の様子が判明したが、それ以前の1911~21年の約10年に関しては、まったくの謎のままとなっているからである。

解説 安部 正義の作品

加藤 拓未

1913（大正2）年にニューイングランド音楽院に入学した安部正義は、ピアノをF.S.メーソンに、声乐をC.ベネットに師事するかたわら、1915（大正14）年頃からは作曲の勉強も開始したようである。

安部正義が最初に取り組みだしたのは歌曲で、現存する作品数から判断すると、この頃は年に1～2曲のペースで創作を行っていたようである。日本歌曲を書く場合は《秋夜》（1915年）、《谷の百合》（1916年）、《おお、ほととぎす》（1917年）などの作品のように自ら作詞も行った。また英詩の作曲にも挑戦しており、《悲歌（A Lament）》（1916年）、《忘れな君よ（Forget me not）》（1920年）などの作品が残っている。1921（大正10）年の歌曲《子守唄》は、長女・歌子の誕生を記念して作曲されたものである。ほぼ同時期に、ピアノ独奏曲の作曲も行っているが、数が限られているうえに、いずれも習作の段階にとどまっている。

留学時代の創作活動の頂点は、学内の作曲コンクールであるエンドカット賞を3年連続で受賞した4つの管弦楽作品（1924、25、26年）にあったと見て間違いはない。残念ながらいずれも現存していないが、なかでも卒業作品となった交響詩《ボストン生活の思い出》（1926年）は、当時の安部正義の代表作であったと思われる。なぜならば、帰国した安部正義が1927（昭和2）年にラジオ番組で自作品のライヴ演奏を披露する機会に恵まれた際、この作品を選んでいるからである。放送当日の新聞に掲載された番組内容の紹介欄に曲目解説があり、そこからこの交響詩が安部正義と秋保雨柳の再会・結婚から留学を終えて帰国するまでの物語を表現したものであることがわ

かる。全4楽章からなり、第1楽章は主人公がボストンで作曲家になろうと決意するところから、独身生活、そして恋人が太平洋およびアメリカを横断してボストンにやってくることを持ち望む様子が描かれ、第2楽章は楽しい結婚生活を表現している。第3楽章はボストンでの血の滲むような生活苦を讃美歌の旋律とともに描写し、第4楽章では音楽院を修了し、作曲家となれたことの喜びをフーガ形式で作曲しているという⁽¹⁾。

安部正義が帰国して最初に作曲したのは、歌曲《アムンゼンを迎ふ》である。この曲は、人類初の南極点到達をはたしたノルウェーの探検家R.アムンゼン（Roald Amundsen, 1872～1928）が、報知新聞の招きで1927（昭和2）年に来日するのを記念し、委嘱を受けて1926（大正15）年に作曲されたものである。

その後も、折につけ、安部正義は歌曲の創作をつづけたが、1928（昭和3）年に明治学院に奉職し、特に1930年代に入ると、学生の合唱指導を担当するようになったことから、合唱曲の作曲が増えてゆく。明治学院の卒業生である島崎藤村の詩に付曲した合唱曲《婚姻の祝の歌》（1932年）や《春やいづこに》（作曲年不詳）は、明治学院を意識した作品と言えるだろう。

明治学院の同僚に児童文学者として著名だった小出正吾（1897～1990）がおり、安部正義は公私ともに仲が良かっただけでなく、彼の文学的才能から大いに創作意欲を触発されたようである。小出正吾の詩による作品には、宗教合唱曲《歓喜の音信》（1935年）と《詩篇第42篇》（1936年）があるほか、歌曲作品としては《雪の夜》（1930年）、

(1)『読売新聞』1927年6月3日、朝刊、9面。

《小馬》(1936年)、《りんご》(1936年)、《栗の実》(1936年)、《コスモスの花》(1936年)などがある。特に《歓喜の音信》はクリスマス・シーズンになると、毎年、明治学院の学生たちによって演奏され、当時の学院の風物詩的存在であった。

安部正義は、童謡詩人の島田忠夫(1904~44)の詩も好んでいたようで、彼の詩による《圍呂裡》(1935年)、《夜話》(1935年)、《榎の実》(1936年)などの歌曲がある。また安部正義は、その生前に尾張徳川家20代当主・徳川義知(1911~92)とも交流があったようである(図1)。息女の前田歌子氏によれば「ちょっと徳川さんのところに行ってくる」と言っては出かけてゆく姿を良く見たという。徳川義知は自らも指揮を行うなど、かなりの音楽家愛好家であったことから、音楽が両者の接点となったのかもしれない。1935(昭和10)年に作曲された歌曲《元二の安価に使用するを送る——徳川義親侯に捧ぐ》は、徳川義知の父・

徳川義親(1886~1976)に捧げた作品であることから、安部正義と徳川家との交流のなかから生まれたものと思われる。こうした創作・演奏活動の背後で、安部正義は1930(昭和5)年から日本最初のオラトリオ作品である《ヨブ》の作曲を粛々と進め、1945(昭和20)年に完成させたのである。

戦後になると安部正義は、教育活動こそ精力的につづけたものの、作曲に関しては積極的に行わなくなった。確認できるのは、1960(昭和35)年に作曲された宗教歌曲《主の祈り》くらいである。そして1972(昭和47)年12月1日に雨柳夫人に先立たれた安部正義は、亡き妻への感謝を綴った歌曲《別れ——我が信愛の妻雨柳の霊に献ぐ》を1973(昭和48)年3月21日(雨柳夫人の誕生日)に作曲した。本人もその翌年6月4日にあとを追うように逝去し、この歌曲が安部正義の「白鳥の歌」となった。



図1 徳川義知夫妻(原田歌子氏所蔵)

(写真右下に「To Mr. Abe / Yoshitomo Tokugawa / 5. 12. 1934」の筆記がある)

〔作品*〕

*安部正義の現存する作品はすべて、現物ないし複写のかたちで明治学院歴史資料館に所蔵されている。

【出版譜】

『詩篇第四十二篇』日本洋楽研究会、1936年
『ホームソング I』日本洋楽研究会、1936年
『“JOB” AN ORATORIO』基督教音楽学校、1965年（初版）、1968年（再版）
『歌曲集世俗・宗教』自費出版、1971年

【オラトリオ】

《ヨブ》1945年

【管弦楽】

組曲《小川のほとりに》1924年、所在不明
組曲《橋の上にて》1924年、所在不明
序曲《あけぼの》1925年、所在不明
交響詩《ボストン生活の思い出》1926年、所在不明

【室内楽】

《凍れる星》（ヴァイオリン独奏曲）1932年、所在不明

【ピアノ作品】

Recollection 1919年
Under the Moonlight (The Japanese Boat Song) 1919年
Sonatina No.2 1921年
《たそがれ (Twilight)》作曲年不詳
Andante appassionato 作曲年不詳
Allegro non troppo 作曲年不詳

【讃美歌】

『讃美歌』（1931年）所収の《まぶねのなかに》、
《すなにたてたる》、《こがねもたまも》
『青年讃美歌』（1941年）所収の《まぶねのなか

に》、《身にせまる》、《きたりぬ、きたりぬ》、《あ
ないとひろしや》、《むらさきいろだつ》、《すがすがしき
このあさ》、《あさひのほりて》、《そらはは
はれ》

『興亜少年讃美歌』（1943年）所収の《皇国》、《興
亜の子供》、《父母》、《童謡家庭礼拝》、《愛の蕾》、
《幼児と自然》、《いざ歌へ》、《望》、《今夜のよう
に》、《聖子降誕》

『興亜讃美歌』（1943年）所収の《大東亜共栄圏の
歌》、《傷痕軍人の対する感謝》、《興亜祈願》、《神
と偕》（編曲担当）、《宣戦の》（編曲担当）

【合唱】

《婚姻の祝の歌》（作詞：島崎藤村）1932年
《華巖の瀧》（作詞：高橋箒庵）1934年
《歓喜の音信》（作詞：小出正吾）1935年
《詩篇第42篇》（作詞：小出正吾）1936年
《春やいづこに》（作詞：島崎藤村）作曲年不詳
《ハイキング》（作詞：塩野幸子）作曲年不詳
《キャンプ》（作詞：小河原虎三）作曲年不詳

【歌曲】

《秋夜》（作詞：安部正義）1915年
《谷の百合》（作詞：安部正義）1916年
《悲歌 (A Lament)》（作詞：P.B.Shelley）1916年
《おお、ほととぎす》（作詞：安部正義）1917年
《忘れな君よ (Forget me not)》（作詞：A.H.Chandler）1920年
《子守唄》（作詞：安部正義）1921年
《The Dance of Mars》（作詞：Robert B.Pike）作曲年不詳
《Remembrance》（作詞：Lord Byron）作曲年不詳
《Bird's Nest Song》（作詞：安部歌子）作曲年不詳
《あほうどりの歎き、人魚の歎き》（作詞：近藤英次郎／小栗房子）1925年
《アムンゼンを迎ふ》（作詞：報知新聞社編集局編）1926年

《久方の》(作詞：紀友則) 1927年
 《ほととぎす》(作詞：百人一首) 1927年
 《かもめ》(作詞：島崎藤村) 1930年
 《雪の夜》(作詞：小出正吾) 1930年
 《クリスマスの鐘》(作詞：小出正吾) 1932年、所在不明
 《おお逝きぬ我がいとし子》(作詞：安部正義) 1933年
 《詩篇第二十三篇》1933年
 《元二の安価に使用するを送る——徳川義親侯に捧ぐ》(作詞：王維) 1935年
 《園呂裡》(作詞：島田忠夫) 1935年
 《夜話》(作詞：島田忠夫) 1935年
 《櫃の実》(作詞：島田忠夫) 1936年
 《小馬》(作詞：小出正吾) 1936年
 《りんご》(作詞：小出正吾) 1936年
 《栗の実》(作詞：小出正吾) 1936年
 《コスモスの花》(作詞：小出正吾) 1936年
 《あや取り》(作詞：島田芳文) 1938年
 《フランス人形》(作詞：島田芳文) 1938年
 《あたらしきうたをエホバにむかいてうたえ (詩篇第96篇)》1942年
 《主の祈り》1960年
 《家路へ》(作詞：作曲年不詳) 作曲年不詳
 《夜》(作詞：土岐善麿) 作曲年不詳
 《別れ——我が信愛の妻雨柳の霊に献ぐ》(作詞：安部正義) 1973年

【校歌など】

明治学院中学部部歌《白金の丘》(作詞：小出正吾) 1930年頃
 東北学院五十年記念歌(作詞：長谷部俊一郎) 1936年
 日本洋楽学園園歌(作詞：安部正義) 作曲年不詳
 聖路加讃歌(作詞：石山修平) 1940年
 トキワ松学園校歌(作詞：校友会) 1951年

【編曲*】

*編曲年の多くは不明、判明したもののみ記載

校歌など

明治学院校歌(独唱、マンドリン・オーケストラ) 1933年、明治学院高等商業部部歌(独唱、マンドリン・オーケストラ) 1933年、トキワ松学園校歌幻想曲(混声合唱、管弦楽、エレクトーン、ピアノ) 1967年

合唱編曲

《きよしこの夜》(混声四部合唱)、《荒城の月》(混声四部合唱、女声六部合唱)、讃美歌32(混声四部合唱、リードオルガン)、《たへなる道標の》(混声四部合唱)、Longfellow 《The Arrow and the Song》(混声四部合唱) 1948年

独唱歌の編曲

《おもえばむかしイエスキミ》(独唱、鍵盤楽器伴奏)、Godfrey Marks 《Sailing》(独唱、鍵盤楽器伴奏)、《ダビデの村》(独唱、鍵盤楽器伴奏)、《植生の宿 (Home, Sweet Home)》(独唱、鍵盤楽器伴奏)、《庭の千草 (The Last Rose of Summer)》(独唱、鍵盤楽器伴奏)

二重唱への編曲

シューベルト 《セレナーデ》(二重唱)、ハイドン 《はてしもしられぬ (詩篇63)》(二重唱)、讃美歌435 《はにふのやど》(二重唱)

鍵盤楽器用編曲

Sonatine No. 24 (鍵盤楽器4手用)、《ヨブ》の序曲(鍵盤楽器4手用)、《ヨブ》の間奏曲I(鍵盤楽器6手用)、《ヨブ》の間奏曲III(鍵盤楽器独奏用)

論文 安部正義のオラトリオ《ヨブ》
——その成立史と演奏史

加藤 拓未

安部正義がはたした日本キリスト教音楽史における貢献のうち、最も重要と言えるのは、教会の礼拝や公開コンサートなどで演奏される、日本独自の宗教合唱曲の創作にいち早く取り組んだことである。特に彼の代表作オラトリオ《ヨブ》は、日本人の手によって初めて作曲された「オラトリオ」であり、歴史を画する重要な作品である。

「オラトリオ」とは17～18世紀に主としてヨーロッパで発展した宗教的・道徳的な内容を題材とした劇音楽である。特にキリスト教と密接に発展したことから、欧米では受難週・復活祭・クリスマスなど、暦の節目にあわせて教会やコンサートホールでオラトリオが演奏され、優雅な音楽とともに信仰を育む習慣が人びとの生活に根付いている。日本でもヘンデルの《メサイア》やハイドンの《天地創造》などがよく知られており、バッハの受難曲なども、本来のジャンルとしての出自は違うが、今日では大規模な宗教合唱曲という広義の意味でオラトリオに数えられている。このように欧米では伝統的なジャンルであるオラトリオだが、日本における独自の作品が誕生するためには、アメリカ留学から帰国した安部正義の創作を待たねばならなかった。

本稿では、第一に日本の洋楽受容史において、ひとつのマイルストーンとなった、日本最初のオラトリオ作品である《ヨブ》の成立史の解明を目的とする。そのうえで、《ヨブ》の演奏史の素描も試みたい。

1. 《ヨブ》の成立史

1.1. 創作の動機

1.2. 台本

1.3. スケッチ

1.4. ピアノ・ヴォーカル・スコア（作曲譜）

1.5. オーケストラ編曲

1.6. ピアノ・ヴォーカル・スコアの出版

2. 《ヨブ》の演奏史

2.1. 部分初演（1966年1月27日）

2.2. 全曲初演（1967年5月21日）

2.3. 抜粋演奏（1967年6月24日）

2.4. 管弦楽版初演（1969年5月25日）

2.5. オルガン伴奏による《ヨブ》再演（1969年6月14日）

2.6. オルガン伴奏による《ヨブ》再々演（1975年6月28日）

2.7. レクチャーコンサート（2012年11月17日）

2.8. 《ヨブ》室内楽版初演（2015年2月15日）

3. まとめ

1. 《ヨブ》の成立史

実際の議論に移る前に、その前提となるべき資料の状況を確認しておきたい。まず《ヨブ》の創作に関する安部正義自身の言説としては、（1）1965（昭和40）年に刊行された《ヨブ》の出版譜の「はしがき」⁽¹⁾、（2）安部正義が1966（昭和41）年に執筆した回顧録「我が思出」⁽²⁾、（3）

(1) 安部正義「はしがき」『“JOB” ORATORIO』（基督教音楽学校、初版、1965年）、III頁。

(2) 安部正義「我が思出」『明治学院歴史資料館資料集』（明

治学院歴史資料館）第2集（2005年）、3-5頁。これは『明治学院九十年史』（明治学院、1967年）の刊行準備のために書かれた回顧録である。

1967（昭和42）年の《ヨブ》全曲初演の演奏会プログラムに掲載された挨拶文⁽³⁾、以上の3点が確認されている⁽⁴⁾。

現存する《ヨブ》の音楽資料に関しては『明治学院歴史資料館資料集』第9集に報告されている⁽⁵⁾。ただし、成立史を考察するうえで有効な資料となるのは、作曲の過程で生じた資料であり、自筆によるスケッチ、草稿譜、総譜、そして作曲の最終的な結論となる出版譜である。

《ヨブ》の楽曲番号は出版の際、初版では全10曲とされたが、再版時に全31曲へとさらに細分化された。混乱をさけるために、以下の記述ではすべての資料に対し、特定の楽曲について言及する際には、原則として再版の楽曲番号を使用する。

1. 1. 創作の動機

オラトリオ《ヨブ》の作曲開始の時期、およびその創作の動機に関して、出版譜の「はしがき」には、次のように書かれている。

此の書を出版するに当り聊か所感を述べます。1930年に逆のぼりオラトリオ“ヨブ”を作曲しようと決意しました。

動機、自分は幼少時代より物質精神的方面に於て深刻な苦難の経験をなめて来ました。当時ヨブ記を繰り返し熟読するにつれ、ヨブの苦しみと比較するなら自分のそれ等は物の数にもならない。せめて彼の信仰の万分の一でも得られたら今後も経験するかも知れぬ苦難とも勇敢に闘い抜け希望の光は〔が〕全身に満ち溢れる様な感激に打たれました。ヨブの信仰の万分の一でも持てる様にと祈り願う事切実でありました。如何に長年月を費やし

てもヨブの信仰を音楽に表現し度いと決意しました⁽⁶⁾。

この序文によれば、《ヨブ》の作曲開始は「1930（昭和5）年」である。また、作曲の「動機」となったのは、幼少期から経験してきた「深刻な苦難」のなかで、くり返し共感しながら読んできた『ヨブ記』の主人公ヨブの信仰を、音楽で表現したいと決意したことにあるという。

安部正義が幼少時代に北海道の北見で、経済的に苦しい生活を送っていたことは、自身の言葉で語っている。たとえば、安部正義が明治学院の学内誌に寄稿した記事「慈愛の母」で「僕の母は終始、困苦・赤貧・悲痛の生涯を果した」と述べていることから、この母のもとで幼少期を過ごした安部正義自身も「赤貧」のなかにあったわけである⁽⁷⁾。

その後、安部正義はボストンに留学するが、ここでも厳しい現実が待っていた。安部正義は、ニューハンプシャー州のコンコードでアメリカ人一家の奉公人となり、学資を稼ぎながら、妻・雨柳、そして1921（大正10）年6月2日には息女・歌子も誕生し、ともに生活していた。当時の様子を息女の前田歌子氏は「本当の貧乏生活そのもの」だったと表現している。

前田歌子氏によれば、幼少時の断片的な記憶として覚えているのは、部屋は日の当たらない地下の一室のみで、両親は朝から晩まで、いわば下男・下女として働き、そして自分はいつも歩行器のなかに置かれ、あまり面倒を見てもらえなかったことだという。それから少し成長したあとも、やはり両親にはかまってもらえず、紙とハサミを与えられ、ひとりで遊んでいたところ、誤って自

(3) 安部正義「ごあいさつ」、安部正義作曲オラトリオ『ヨブ』初演演奏会プログラム（明治学院大学グリーンクラブ主催）、東京、明治学院チャペル、1967年5月21日。
 (4) 安部正義に関する資料を収集して実感することは、安部正義の言説資料の数が限られているという印象である。そのため、あまり自分のことを自ら語りたがる性格の人物ではなかったように思われる。

(5) 拙稿「安部正義オラトリオ『ヨブ』の資料について」『明治学院歴史資料館資料集』第9集（明治学院歴史資料館、2012年）、11-34頁。
 (6) 安部正義、前掲「はしがき」。
 (7) 安部正義「慈愛の母」『白金乃丘』（明治学院中学部報国団）第84号（1944年）28-29頁。

分のスカートの裾を切っけてしまい、叱られてしまうと思っけ手で隠していたことがあつたそうだ。また両親が畑で収穫作業をするときは、一緒に連れてゆかれ、笛を持たされたという。アメリカの畑は広大なので、両親を探すときはその笛を吹いて、自分の居場所を知らせるためのものだった。

こうしたエピソードが示すように、安部夫妻は、実子の面倒を見る余裕すらほとんどない状態にあつたため、原田歌子氏は強い孤独感を覚えたそうである。それでも経済的に貧困を極め、学費納入が滞り、音楽院を卒業するのに「人の倍の時間がかつた」と、生前の安部正義はもらしていたという⁽⁸⁾。

こうした状況が、安部正義がいう「自分は幼少時代より物質精神的方面に於て深刻な苦難の経験をなめて来ました」の一文のなかに込められているのだろう。そして、妻子を養うのにも苦しい安部正義が、それでも音楽の勉強を諦めずにつづけるなかで、心の支えとしたのが、旧約聖書の『ヨブ記』であった。『ヨブ記』の主人公ヨブも、ありとあらゆる苦難を与えられるなか、自らの信仰を保とうとする。長年の貧困生活に喘いだ安部正義だからこそ、このヨブの姿に共感し、その姿に自らの信仰を重ね、是が非でもオラトリオ作品として完成させることを、自らの使命と感ずることができたのである。

1.2. 台本

1930（昭和5）年にオラトリオ《ヨブ》の作曲を決意した安部正義は、まず台本の作成から着手したことが考えられる。作曲を行う際、音楽を先

に書き、後から歌詞を旋律に当てはめる手法もないわけではないが、台本の性格を考えると、聖句を引用・編集しただけのものなので、台本の方が楽曲より先に完成したとみて間違いないだろう。ただし、現在のところ、自筆台本や歌詞の草稿などの資料は見つかっていない。おそらく安部正義は『ヨブ記』から必要な聖句を抜き書きし、手書きの台本のようなものを作成し、作曲作業を進めていたと考えられる。

《ヨブ》には日本語と英語の歌詞があり、安部正義によれば両方とも『ヨブ記』の聖句をもとに「脚色」したという⁽⁹⁾。聖句の出典としては、英語の方は欽定訳聖書を、日本語の方は1888（明治21）年に出版された委員会訳（元訳）の『舊約全書』の文語聖句をもとにしたと推定される。

1.3. スケッチ

台本が完成すると作曲家は次に、その歌詞をもとにスケッチ作業に入る。安部正義は、《ヨブ》の作曲のために多くのスケッチを行った。1965（昭和40）年の出版譜の「はしがき」によると「作曲スケッチ（各方面に於ける修養会、教会音楽研究会 [で]）或は野に山に川に森に、時には夢に於いてもスケッチは絶え間なく続けられた」と述べており、また1966（昭和41）年の回顧録のなかでも「（明治学院の思い出のなかで）一番深く残るのは（中略）オラトリオ「ヨブ」の構想スケッチは明学在職中に型造られた事実である。あの十七年間一日として小さい五線ノートブックを身から離した事はなかつた。（中略）戦争中もこの脚本とスケッチブックは防空壕の中でも外で

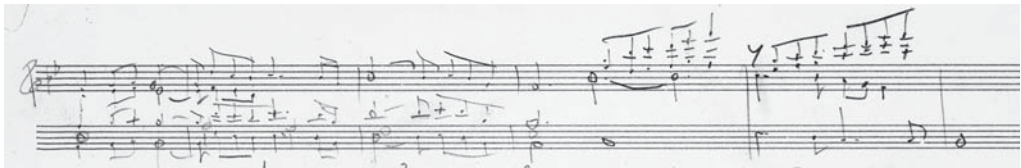


図1 《ヨブ》第2曲のスケッチ

(8)安部正義の息女・原田歌子氏へのインタビューによって得た情報をもとにしている。

(9)安部正義、前掲「はしがき」。

もしっかりと身につけていた」と振り返っている⁽¹⁰⁾。

安部正義の在職年数は1928（昭和3）～45（昭和20）年の17年ではあるが、《ヨブ》の作曲は1930（昭和5）年に開始しているので、実際にスケッチや作曲が進められたのは1930～45の約15年となる。この15年の間に書かれたと思われる《ヨブ》のスケッチは、現在のところ19点の存在が確認されている。

確かにスケッチは、作曲作業の初期に行われることが多いが、作曲譜をまとめたあとからでも書かれる可能性はある。つまり、作曲作業のどの時期に書かれたのか、断定することがむずかしいため、これらの19点のスケッチから、作品の成立過程を明確に示す情報を引き出すことは、残念ながら簡単ではない。

安部正義は出版譜の序文で「邦文英文を同時に作曲したので一方だけを最初に作曲して後に他方を不自然にあてはめたやり方とは全々趣きを異にする点を指摘します」と書いている⁽¹¹⁾。現存するスケッチを見ると、確かに日本語と英語の歌詞を併記して作曲を進めているものがあり、「同時に作曲」を進めていたことが確認できる（図2）。

1. 4. ピアノ・ヴォーカル・スコア（作曲譜）

ある程度、スケッチの分量がたまると、作曲家はそのアイデアをもとにして具体的な作曲を行う。安部正義が《ヨブ》全31曲をどのような順

番で作曲していったのか、それを詳細に明らかにすることはできないが、現存している資料や情報から、いくつかのヒントは得られる。

まず、最終合唱曲である第31曲は、かなり早い段階で作曲が進められていたことは確実である。なぜならば、第31曲の旋律が《ヨブ》全曲の完成を待たずに、1931（昭和6）年に出版された『讚美歌』に掲載されたからだ。実は、由木康（1896～1985）の作詩による讚美歌『馬槽のなかに』が、この新しい讚美歌集に採用されることとなり、安部正義にその作曲の依頼がなされた。そこで、安部正義は、作曲中の《ヨブ》から最終合唱曲の主題旋律を、由木康の讚美歌の歌詞にあてはめることで、この依頼に応えたのである⁽¹²⁾。つまり、安部正義は1930（昭和5）年のうちに早々と第31曲の作曲に取りかかっていたことになる（あるいは旋律だけは1930年以前にすでに考案されていた可能性も考えられる）。

第31曲以外の楽曲の成立に関しては、現存する《ヨブ》の声乐と鍵盤楽器伴奏からなる自筆の作曲譜を考察することで、いくつかの情報を引き出すことができる。安部正義は出版譜の「はしがき」のなかで「学校及び個人教授其他種々なる雑用の為まとまった時間を得る事が出来ず、誠に僅かな時間を利用して書き続けました。ピアノスコアは終戦間もなくまとめ上げ、オーケストラ編曲も大部分は書き上げたのです⁽¹³⁾」と述べており、ここで言及されている「ピアノスコア」とは、この作曲譜のことを指していると考えられる。

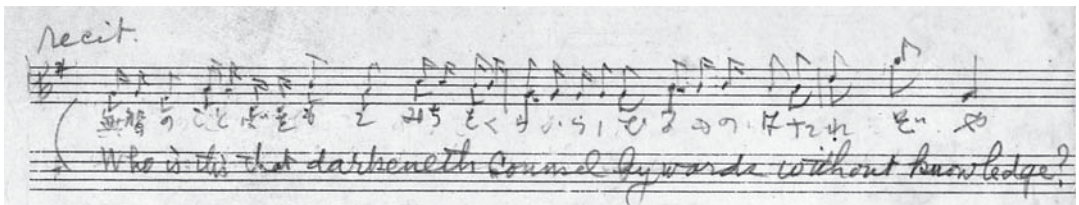


図2 《ヨブ》第24曲のスケッチ

(10) 同前、および安部正義、前掲「我が思出」。

(11) 安部正義、前掲「はしがき」。

(12) 由木康『主題説教集 この人を見よ——福音・思想・文化』（1984年）、107-110頁。

(13) 安部正義、前掲「はしがき」。

作曲譜をみると、楽曲の記入は、曲順通りに整然と行われており、一見すると作品完成に近い段階にある資料のように見える。しかし、使用されている五線紙を見ると、55頁までは16段五線紙が使用され、56頁以降は12段五線紙に切り替わっている。つまり、2種類の五線紙が使われていることから、おそらく1～55頁が記入された時期と、

56～106頁が記入された時期が異なっている可能性が想定される。そして異なる時期に書かれた2つの楽譜の束を最終的にひとつにしたことになるだろう。

この作曲譜は(1)資料冒頭の頁番号のない4頁分、(2)「序曲と第2曲の前奏のみ」のあとの頁番号のない1頁、(3)22頁、(4)64頁、(5)

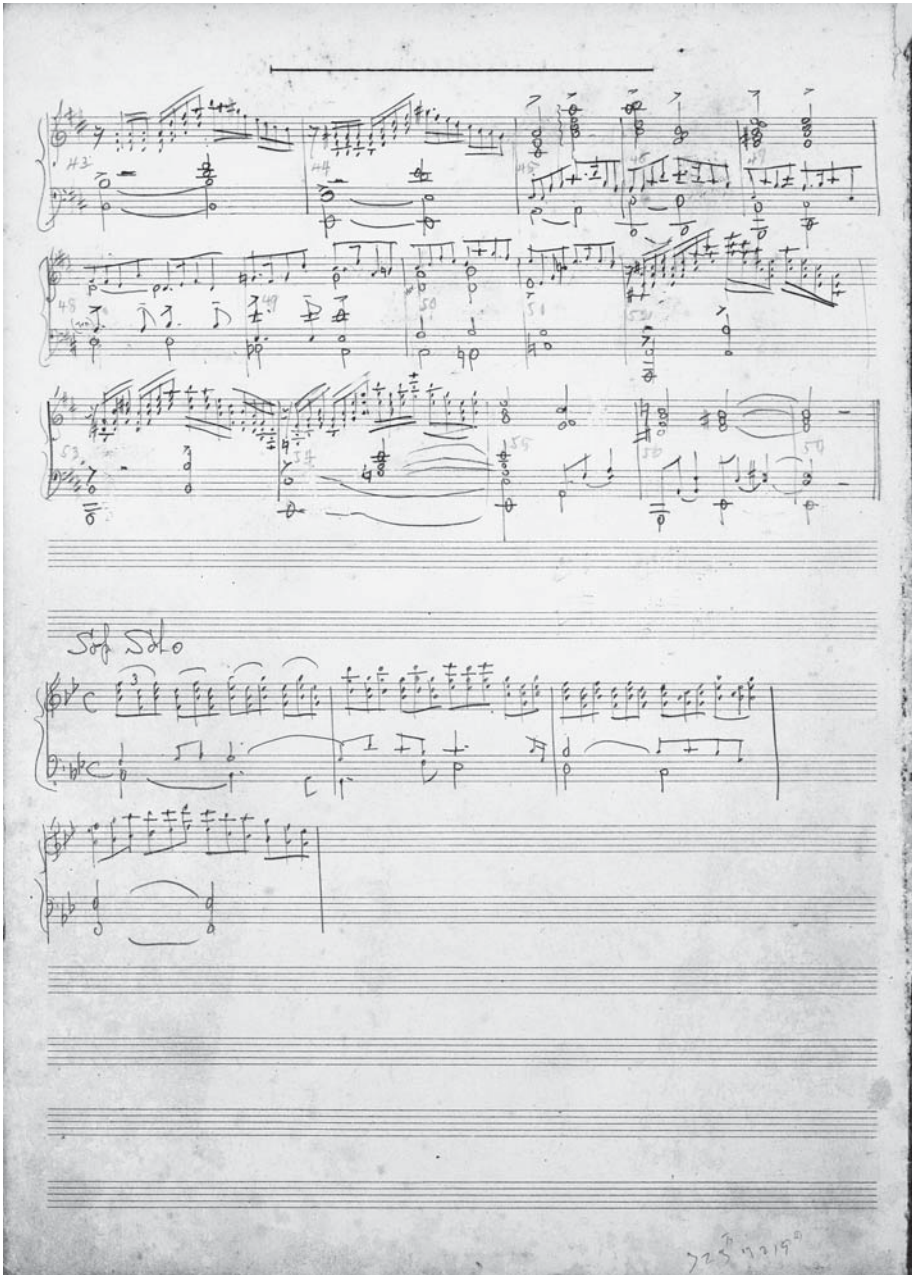


図3 作曲譜の序曲と第2曲の前奏

資料末尾の頁番号のない5頁分と、計5箇所て空白のページが生じている。冒頭と末尾の空白のページは一冊に製本する際に生じた遊びであるが、他の3箇所は、創作の過程で生じたものと推測される。つまり、序曲と第2曲の前奏、間奏曲II、第24曲の前奏のあとに空白ページがあるということは、これら4つの器楽音楽が、創作の終わりの段階で作曲されたことを示唆している（図3）。特に序曲と間奏曲IIは、後続のいくつかの楽曲の主題をもとにして書かれているので、創作の順番からしてそうならざるをえなかったであろう。間奏曲Iの直前の6頁下部にある7小節の空白も、同様の理由で生じたものと見られる。

同様に第15曲の前奏、第17曲の前奏、第18曲の前奏も、前後に空白が存在するため、あとから記入された様子がうかがえる。なぜ、このような前奏の部分が、あとから作曲されたのだろうか。おそらく安部正義は《ヨブ》の各楽曲を個別に作曲し、あとになってそれらを台本にそって順番に組み合わせたのだろう。そして、組み合わせた段階ではじめて、各楽曲の前後をつなぐ器楽の前奏部分の作曲に取り組んだ。したがって、その前奏部分をあとから書き込めるように、あらかじめ一定の空白を楽譜の当該箇所に残しておいたのである。

ほかにも作曲譜では4箇所において大幅な推敲の跡が認められる。1箇所目は第6曲の四重唱「皆ほろびぬ」で、別の16段五線紙2枚、4頁分が挿入され、新しい稿が書き込まれている。2箇所目の推敲は、第7曲のヨブ独唱曲「我裸にて母の胎を出でたり」と第9曲の女声3部合唱「或日神の子等きたりて」の箇所で、ここにB5版の12段五線紙1枚が挿入され、赤鉛筆で「(此の後に一一二のコーラルを入れる)」と注釈があり、『ヨ

ブ』のメインテーマ、第8曲のコーラル「エホバ与え、エホバ取り給う」の楽譜が記載されている。注釈で言及されている「一一二のコーラル」とは、1931（昭和6）年に出版された『讚美歌』112番の《馬槽のなかに》のことにほかならない。この推敲の様子から、当初の安部正義の作品構想では、第7曲と第9曲は直接連続するかたちであったが、興味深いことに創作のかなり遅い段階になって、第8曲の追加を思い立ったことになる⁽¹⁴⁾。少なくとも第8曲の成立は1931（昭和6）年の『讚美歌』が出版されたあとになることは注釈の内容から確実である。

3箇所目の推敲箇所は、第13曲の合唱と独唱「ヨブ土瓦の破片を取り」と第15曲のソプラノ独唱「ヨブの友三人」の間に、4頁の五線紙が挿入され、第14曲の二重唱「汝の言う所は」があとから書き加えられている。最初は第13曲末尾のバリトン独唱後、第15曲のソプラノ独唱へとつづくプランが予定されていたが、あとからここに第13曲の歌詞を反復する二重唱曲（第14曲）を追加するという着想を得て、推敲が行われた。

4箇所目は第16曲の合唱と四重唱「目をあげて遙かに觀しに」で、当初は1～16小節と59～82小節のみで完結する、より短い楽曲であったが、それをあとから中間部の四重唱（17～58小節）を追加して楽曲を拡大することにしたため、五線紙を挿入し、その四重唱を書き足しているのである。

以上の作曲譜の考察から、次のような見解が導かれるだろう。全曲中、第31曲はかなり早い段階から作曲が行われたことが指摘しうる。その反面、序曲と間奏曲IとIIの純粋器楽曲、第2、15、17、18、24曲の前奏部分、あとから追加で作曲された第8、14曲、そして改作が行われた第6曲と第16曲と、以上の楽曲は創作のかなり終わりの段

(14) オラトリオ『ヨブ』の前半では、サタンへの1回目の試み（第2～7曲）と2回目の試み（第9～14曲）で、6曲ずつの対置構造が築かれている。これに対し、対応する楽曲をもたない第8曲のコーラルは、この対置構造に馴染んでいない。これは、やはり第8曲

を後から追加したことに理由が求められる。第2～14曲の対置構造の詳細については、安積道也「安部正義オラトリオ『ヨブ』の楽曲分析」『明治学院歴史資料館資料集』第9集、48-69頁参照。

階になって成立したものと判断される。

1. 5. オーケストラ編曲

出版譜の「はしがき」によれば、安部正義は終戦直後までに前述の作曲譜をまとめ、それをもとに「オーケストラ編曲」を行ったとしている。しかし、現存する総譜は浄書譜で、1964（昭和39）年に成立したものである。したがって、この浄書の総譜は、終戦直後に書かれた「オーケストラ編曲」ではなく、残念ながらこの古い総譜はすでに失われてしまったようである。ただし、1964（昭和39）年の浄書の総譜が存在するという事は、この総譜を作成するうえで手本となった、古い総譜が存在したことは確実と言える。この古い総譜が「はしがき」で言及されている「オーケストラ編曲」である可能性がある。

1964（昭和39）年の総譜は、155ページと173ページに別の五線紙が貼られてはいるが、これは、のちに追加で作曲された間奏曲IIIを155～173頁として挿入するために行われた処置であって推敲の跡ではない。

1. 6. ピアノ・ヴォーカル・スコアの出版

安部正義は、1965（昭和40）年12月25日に《ヨブ》のピアノ・ヴォーカル・スコアを出版した。その前年の1964（昭和39）年に浄書の総譜がまとめられていることから、おそらく同時に作曲譜を清書したピアノ・ヴォーカル・スコアも作成されたはずである。そして、このピアノ・ヴォーカル・スコアの浄書譜を、出版の版下に使用したと推測するが、残念ながら版下は現存していないため、確認することはできない。

1968（昭和43）年2月25日にはピアノ・ヴォーカル・スコアの再版がなされたが、これは単なる再版ではなく、初版と比べて内容に相違が生じている。特に重要なのは、楽曲番号が大幅に変更されたことと、間奏曲IIIが追加されたことである。初版で全10曲とされた楽曲番号は、再版において全31曲へとさらに細かく分けられた。これは合唱

の練習などで、楽曲を特定しやすくするための配慮と思われる。また、間奏曲IIIは1966（昭和41）年1月27日に行われた《ヨブ》の部分初演のときに、すでに追加されたものと思われる。部分初演に参加した内山功氏の使用した楽譜には「間奏曲あり」と手書きの書き込みが確認されているからである（図4）。ただし、このときの間奏曲IIIの楽譜は確認されていないため、再版楽譜に追加されたものと同一かどうか、厳密には判断ができない。1967（昭和42）年5月の明治学院礼拝堂における全曲初演の際には、演奏された間奏曲IIIは、再版楽譜のものと同一楽曲である⁽¹⁵⁾。



図4 1966（昭和41）年1月27日の《ヨブ》部分初演で使用された楽譜（内山功氏所蔵）

2. 《ヨブ》の演奏史

《ヨブ》は戦後直後に完成したが、出版は遅れ、安部正義が74歳となった1965（昭和40）年12月25日に《ヨブ》のピアノ・ヴォーカル・スコアの刊行が実現した。いわばお蔵入りとなりかけていた《ヨブ》は、出版をきっかけに演奏の機会を得るようになる。

2. 1. 部分初演（1966年1月27日）

《ヨブ》を出版した安部正義は、すぐに楽譜を教え子のひとりで、当時、東京女子大学教授をつとめていた池宮英才（1924～2003）に贈呈した。すると池宮は翌月の1966（昭和41）年1月27日に

(15)『明治学院歴史資料館資料集』第9集の付録に1967年の《ヨブ》全曲初演の録音音源（CD）があるので、確認することができる。

楽譜からいくつか楽曲を抜粋し、自らの指揮を執って、合唱とピアノ伴奏で部分的な初演を行った。具体的な曲目と会場は不明だが、合唱は池宮が指導していた東京Y.M.C.A.合唱団とオラトリオ合唱団が歌ったことは判明している⁽¹⁶⁾。

2. 2. 全曲初演（1967年5月21日）

安部正義は1965（昭和40）年の時点で、池宮英才が常任指揮者をつとめていた明治学院大学グリークラブに《ヨブ》の全曲初演を依頼した⁽¹⁷⁾。それに対しグリークラブは、明治学院創立90周年（1967年）に合わせて全曲初演を約束した。そして1967（昭和42）年5月21日、明治学院大学グリークラブの主催公演として、オラトリオ《ヨブ》の初めての全曲演奏が実現した。

演奏会の企画にあたって明治学院（武藤富男学院長）の全面的な援助のもと、会場には学院の礼拝堂（チャペル）が選ばれた。指揮は池宮英才が執り、独唱は北野寛子（ソプラノ）、吉場万利子（メゾ・ソプラノ）、藤田みどり（アルト）、唐津東流（テノール）、佐伯雅巳（バリトン）、芳野靖夫（バリトン）、合唱は明治学院大学グリークラブ、そして伴奏は、本来の管弦楽ではなく、1966（昭和41）年に礼拝堂に設置されたばかりのヴァルカー社製のパイプオルガンで行われ、奏者は学院オルガニストの園部順夫（1935～2000）がつとめた。オルガン伴奏用の楽譜には、ピアノ・ヴォーカル・スコアをもとに園部が編曲したものが使われた。

オルガン伴奏という演奏形態に関して安部正義は「フルオーケストラスコアは既に完備して

ありましたが、この度はM.G.（注：明治学院の略記）チャペルにふさわしいパイプオルガン伴奏を選びました⁽¹⁸⁾」と述べており、意図的にこの形態をとったとしている。確かに「合唱とパイプオルガン」の組み合わせは、T.デュボワ（Théodore Dubois, 1837～1924）の《キリストの最後の7つのことば》（1867年）やJ.ステイナー（John Stainer, 1840～1901）の《磔刑》（1887年）といった宗教曲の先例がすでに知られていたため、チャペルの雰囲気合った「代案」として十分に理解されるべきものと言えた。1969（昭和44）年の再演、1975（昭和50）年の再々演でも礼拝堂のパイプオルガン伴奏で演奏が行われている。

初演に立ち会った安部正義は「意外にも反響が大きく感激共鳴された方々が数多かった事に私は新たな激励と輝かしき希望を与えられ、今更ながら此の企てが無意義ではなかった事に限りなき喜びと感謝に満たされました」という感想を残している⁽¹⁹⁾。また、演奏会の最後には、《ヨブ》のメインテーマである「エホバ与え、エホバ取り給う」のコーラルを聴衆全員で唱和し、黙祷をもって締めくくられた⁽²⁰⁾。

2. 3. 抜粋演奏（1967年6月24日）

《ヨブ》の全曲初演をはたした明治学院大学グリークラブは、翌月の1967（昭和42）年6月24日、文京公会堂で開催した第19回定期演奏会でも、《ヨブ》から7曲を抜粋して演奏した。指揮は池宮英才、オルガン伴奏は園部順夫がつとめた⁽²¹⁾。

曲目は《ヨブ》から「エホバ与え、エホバ取り

(16) 部分初演に参加した内山功氏にご教示いただいた。また安部正義作曲オラトリオ『ヨブ』（管弦楽版初演）演奏会プログラム（日本基督教文化協会主催）、東京、東京文化会館、1969年5月25日に、安部正義による解説が掲載されており、そこに「本曲は1965年ピアノスコア出版の折にピアノ伴奏によって（中略）演奏された」という記述がある。

(17) 安部正義作曲オラトリオ『ヨブ』初演演奏会プログラム（明治学院大学グリークラブ主催）、東京、明治学院チャペル、1967年5月21日に掲載されている明治学

院グリークラブの団体紹介文を参照。

(18) 安部正義「オラトリオ『ヨブ』再版に当りて」、安部正義『“JOB AN ORATORIO”』（基督教音楽学校、再版、1968年）、Ⅲ頁。

(19) 同前。

(20) 『明治学院歴史資料館資料集』第9集、前掲、録音音源（CD）を参照。

(21) 演奏会プログラム（明治学院大学グリークラブ第19回定期演奏会）、東京、文京公会堂、1967年6月24日。

給う」(第8曲)、「目をあげて遥かに観しに」(第16曲)、「嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし」(第23曲)、「淵をして鼎の如く」(第25曲)、「海の水流れいで」(第28曲)、「我汝の事を耳にて聞いたりしが」(第30曲)、「エホバ与え、エホバ取り給う」(第31曲)の7曲が選ばれ、合唱とオルガン伴奏で演奏されたが、その際、曲間をオルガンによる即興的な「間奏」でつなぎ、連続して演奏した。これは一種の「カンタータ」を思わせるような趣向になっており、この方法は、独唱者がいない状況で、《ヨブ》の合唱曲の魅力聴衆に伝えようとするときに有効な工夫と評価できる。

2. 4. 管弦楽版初演 (1969年5月25日)

《ヨブ》オリジナルの管弦楽編成による全曲演奏は1969(昭和44)年5月25日に東京文化会館で行われた⁽²²⁾。この演奏会は日本基督教文化協会が主催し、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団、キリスト新聞の各社後援を受けて開催された。

演奏者は池宮英才の指揮のもと、独唱は中沢桂(ソプラノ)、川村悦子(メゾ・ソプラノ)、木村宏子(アルト)、藤沼昭彦(テノール)、田島好一(バリトン)、平野忠彦(バス)、オルガンは吉田実、合唱は東京混声合唱団・東京女子大学クワイヤ・オラトリオ合唱団・二期会合唱団の4団体合同、そして管弦楽は東京管弦楽協会が参加した大規模なものであった。

管弦楽は19世紀ロマン派時代の2管編成のオーケストラに準じ、フルート×2、オーボエ×2、クラリネット×2、ファゴット×2、ホルン×4、トランペット×2、トロンボーン×2、ティンパニ、チャイム、ハープ、弦楽5部で構成される。東京文化会館のときの弦楽器奏者の数は「5

-4-3-3-2」プルトの34名で、管・打楽器奏者と合わせるとオーケストラは総勢53名であった。

2. 5. オルガン伴奏による《ヨブ》再演 (1969年6月14日)

オリジナル管弦楽版初演の翌月にあたる1969(昭和44)年6月14日、明治学院大学グリークラブ第21回定期演奏会において、オルガン伴奏による《ヨブ》の再演が行われた⁽²³⁾。会場は明治学院礼拝堂、演奏は池宮英才(指揮)、大月早苗(ソプラノ)、川村悦子(メゾ・ソプラノ)、北村幸子(アルト)、唐津東流(テノール)、佐伯雅巳(バリトン)、持田篤(バス)、オルガンは園部順夫、合唱は明治学院大学グリークラブ(合唱)らによって行われた。

2. 6. オルガン伴奏による《ヨブ》再々演 (1975年6月28日)

1974(昭和49)年6月4日に83歳で逝去した安部正義を追悼し、1年後の1975(昭和50)年6月28日に明治学院大学グリークラブ第27回定期演奏会として《ヨブ》(オルガン伴奏版)が、明治学院礼拝堂で演奏された⁽²⁴⁾。出演者は指揮者に池宮英才、独唱は寿円真知子(ソプラノ)、三上和子(メゾ・ソプラノ)、塚本邦江(アルト)、唐津東流(テノール)、芳野靖夫(バリトン)、森野信生(バス)、オルガンは園部順夫、合唱は明治学院大学グリークラブであった。

2. 7. レクチャーコンサート(2012年11月17日)

2010(平成22)年12月に《ヨブ》の自筆総譜が発見され、それを受けて《ヨブ》を特集した『明治学院歴史資料館資料集』第9集(2012年)が刊行された。そして、第9集で得られた学術成果を

(22)安部正義作曲オラトリオ『ヨブ』(管弦楽版初演)演奏会プログラム(日本基督教文化協会主催)、東京、東京文化会館、1969年5月25日。

(23)安部正義作曲オラトリオ『ヨブ』演奏会プログラム(明治学院大学グリークラブ第21回定期演奏会)、東

京、明治学院チャペル、1969年6月14日。

(24)安部正義作曲オラトリオ『ヨブ』演奏会プログラム(明治学院大学グリークラブ第27回定期演奏会)、東京、明治学院チャペル、1975年6月28日。

広く一般の方々に還元すべく明治学院歴史資料館は《ヨブ》のレクチャーコンサートを開催した(図5)。



図5 レクチャーコンサートの様子

《ヨブ》は鑑賞に約2時間を要する大作であり、歌詞は文語で、内容も神学的で格調高いため、予備知識のない聴衆にとって必ずしも「取っ付きやすい」作品とは言えない。そこで、主要な場面を抜粋し、講師による解説を施したうえで、実際に演奏を聴いてもらうというレクチャーコンサート形式を選んだのである⁽²⁵⁾。

演奏曲として選ばれたのは《ヨブ》の第2、3、4、7、8、12、13、14、21、23、24、26、30、31曲と、計14曲で、全曲の約半分に相当する。出演者は安積道也(解説/指揮)、佐野千春(ソプラノ)、金田久美子(メゾ・ソプラノ)、石川洋人(テノール)、小藤洋平(バリトン)、小田桐貴樹(バス)、寺嶋千紘(ピアノ)の諸氏で、会場は明治学院大学白金校舎パレットゾーン・アートホールであった。伴奏楽器にはピアノが使用された。

抜粋演奏ではあったが、1975(昭和50)年の明治学院大学グリークラブによる演奏から、実に37年ぶりに《ヨブ》の楽曲が鳴り響いた点で、意義深い機会であったと思われる。このときの様子は、『キリスト新聞』のコラム「望楼」でも紹介されている⁽²⁶⁾。

(25) 当日の映像資料は明治学院歴史資料館が所蔵している。

(26) 岩井健作「望楼」『キリスト新聞』2012年12月8日付。

(27) 当日の録音と録画映像は明治学院歴史資料館が所蔵している。

2. 8. 《ヨブ》室内楽版初演(2015年2月15日)

2015(平成27)年2月15日、明治学院歴史資料館主催のもと、筆者が演奏会実施責任者となって《ヨブ》(室内楽版)演奏会が行われた(図6)⁽²⁷⁾。つまり、《ヨブ》を室内楽アンサンブルで演奏できるように編曲を施したのである。



図6 《ヨブ》(室内楽版)演奏会

演奏会の出演者は、安積道也(指揮)、柳沢亜紀(ソプラノ)、穴澤ゆう子(アルト)、櫻田亮(テノール)、萩原潤(バリトン)、山田大智(バス)、Oratorio JOB Memorial Choir(合唱)、東京バツハ・カンタータ・アンサンブル(室内楽)の諸氏で、明治学院礼拝堂を会場として行われた。入場希望者が多く、公演の1か月前に満席となり、当日は300名を超える来場者に恵まれた。また当日の様子は『クリスチャン・トゥデイ』紙でも報告された⁽²⁸⁾。

室内楽版は、編成をコンパクトにしている点で、2管編成オーケストラの持つスケールの大きさに及ばないことは確かである。しかし、逆の意味で利点もある。室内楽のアンサンブルは、より緊密な響きの音楽を可能にしてくれる。緊密なアンサンブルによる安部正義の音楽は、21世紀の礼拝堂にふさわしい、より敬虔な響きと新しい可能性を指し示してくれると確信している。

(28) 坂本直子「埋もれた歴史資料から 日本初のオラトリオ『ヨブ』、40年ぶりの全曲演奏」『クリスチャン・トゥデイ』2015年2月17日付 (<http://www.christiantoday.co.jp/articles/15336/20150217/oratorio-job-meiji-gakuin.htm>)。

3. まとめ

本稿ではオラトリオ《ヨブ》の成立史と演奏史を辿った。作品の成立過程で、様々な資料が生じているが、考察の結果、(1) 自筆の台本資料、(2) ピアノ・ヴォーカル・スコアの版下、(3) 1964年以前の古い総譜、以上3点の資料が失われていることが判明した。

各楽曲の成立を特定することはできなかったが、第31曲の作曲がすでに1930年に行われていたことは確かである。それから序曲と間奏曲ⅠとⅡの純粋器楽曲、第2、15、17、18、24曲の前奏部分、あとから追加で作曲された第8、14曲、そして改作が行われた第6曲と第16曲、以上の楽曲に関しては、創作のかなり終わりの段階になって成立したものと判断できる。《ヨブ》は終戦直後に完成しているので、おそらくは終戦前後にこれらの作曲が行われたのではないだろうか。しばしば讚美歌《馬槽のなかに》の原曲は、簡素な4声コーラルである第8曲とする解説も見受けられるが、以上のような資料学的な見地から、それは誤

りと言わねばならない。そして、《ヨブ》の楽曲中でもっとも遅くに成立したのは、間奏曲Ⅲで、1965年の終わりから1966年1月までの間に作曲された楽曲である。間奏曲Ⅲの成立は、他の楽曲と比べて極端に時期が遅く、作品出版後に書かれたことから追加的性格が明確に認められる。したがって、《ヨブ》の作品全体は終戦直後に完成していたという、安部正義の言説をもとに1945年を作品の成立年と考える。

演奏史を辿ったところ、近年、明治学院歴史資料館が企画した演奏会やイベントを除くと、《ヨブ》はこれまで4回の全曲演奏と、2回の部分演奏が確認された。20世紀以降に作曲された芸術的音楽作品は一般に「現代音楽」と呼ばれるが、一部の限られた名作は除くとして、こうした現代音楽が初演に次いで再演の機会を得るのは、なかなか難しい状況がつづいている。そうしたなかで、4回の全曲演奏の機会を得た《ヨブ》は、むしろかなり幸運な作品と考えてよいだろう。

解説 オラトリオ《ヨブ》の聴き方 ——ウィリアム・ブレイクの『ヨブ記』の挿絵とともに

加藤 拓未

オラトリオ《ヨブ》の題材は、旧約聖書『ヨブ記』に拠っており、歌詞は安部正義が自ら委員会訳（元訳）の『舊約全書』（1888年）の文語聖句を編纂したものである。その聖句の選択には作曲者の個性が表れており、特に『ヨブ記』のプロローグ（1～2章）と、神とヨブの対話（38～42章）に比重が置かれた構成となっている。

オラトリオの登場人物は、天使（ソプラノ）、神（テノール）、サタン（バス）、ヨブ（バリトン）、ヨブの妻（アルト）の5名のほかに、混声四部合唱（女声三部合唱を含む）が加わる。作品は全31曲の1部構成で、純粋な器楽曲として序曲と3つの間奏曲がある。全曲演奏には約2時間を要する。

オラトリオ《ヨブ》の序曲は、高らかなファンファーレ風の響きで開始する。この作品には器楽曲として、序曲のほかに3つの間奏曲が含まれているが、いずれも後続の楽曲の旋律やモチーフが使用されており、物語の内容を先取りして示す役割を担っている。この序曲では、堂々たる開幕のあと、第2曲の「天使」や「神」の歌の旋律が現れ、天上界を象徴する牧歌的雰囲気音楽が鳴り響く。やがて雰囲気を一変させるようなシンコペーションのリズムが登場し、主人公「ヨブ」に降り注ぐ災難を暗示し、さらに安部正義が作曲した讃美歌《馬槽のなかに》と、同じ旋律である本作のメインテーマが断片的に聴こえてくるところで序曲は閉じる。

ヨブ（バリトン）は神を畏れる正しい人で、悪から遠ざかる信仰深い人であった。彼には息子7人、娘3人がおり、羊7,000頭、ラクダ3,000頭、

牛500頭を所有し、多くの働き人を従えていた。彼は東の国一番の富豪であった。



図1 ヨブと家族

■サタンの試み①

物語は天上の世界から始まる。ナレーター役の天使（ソプラノ）が登場し、伴奏の連続する三連符の牧歌的雰囲気を背景に、ある日、神のもとに



図2 神の御前に現れたサタン

天使たちに混じってサタンがやってきたと語り、そのままの雰囲気ですべての登場人物の登場を導く。神(テノール)は、サタン(バス)がこれまで地上を遍歴してきたことを知ると、神はヨブのことを話題に出す。そして、ヨブの「信仰の深さ」と「正しさ」をサタンに語る。

これに対してサタンは「ヨブが神を畏れるのは、神がヨブを祝福していることで、幸福な暮らしと財産を得たからだ」と語る。そしてアリアを通して、試しにヨブの全財産を奪ってみたら、きっとヨブは神を呪うに違いないという提案を歌い上げる。サタンが、ヨブのすべての所有物を「撃ち給え」と叫ぶところの伴奏には、序曲に登場したシンコペーションのリズムが轟く。そこで神は「ヨブの体に危害を加えない」という条件で、サタンがヨブの財産と家族を奪うことを許す(第2、3曲)。

間奏曲I(第4曲)は、これまでの曲想から一変して、サタンがやってくる行進曲風の音楽で始まる。このことから、場面はこれまでの光にあふれた天上界から、「この世」へと移ったことを示している。この曲は、簡潔なA-B-A'構成のアレグロ部分と、アリア風の短調のレント部分の2部で構成されている。前半のアレグロ部分は、サタンの試みによって苦難に次々と襲われ、翻弄されるヨブの姿を表現し、後半のレント部分で



図3 ヨブの息子と娘らの破滅

は、第7曲でヨブが歌う旋律と第8曲のメインテーマの、2つの旋律が美しく交わる。

突然、ヨブのもとに4人の使者たち(合唱)がやってきた。第5曲の合唱は、テノール、バス、アルトそしてソプラノの順にパート・ソロで、それぞれが4人の「使者」の役を受け持ち、ヨブに事件を告げる。報告によれば、シバ人が襲ってきて家畜と番人を斬り殺し、「神の火」が天から降ってきて羊と若者を焼き滅ぼし、カルデヤ人がラクダを襲って奪い、若者を皆殺しに、そして、集まって食事を楽しんでいたヨブの息子や娘たちのところに、突然の大風が吹き、建物がつぶれて、全員が下敷きになって死んだという。



図4 ヨブの災難を告げる使者

つづくソリストによる四重唱(第6曲)は、直前の合唱曲の「みなほろびぬ」の旋律を第1主題とし、またテノール独唱の「我、これを汝に告げんと」の旋律を第2主題とし、この2つの旋律を組み合わせたフーガ風の楽曲になっている。4人のソリストたちは、4人の使者の役である。

急迫した四重唱を受けて、ヨブが信仰告白を切々と歌う(第7曲)。すべてを与えてくださるのが神であるなら、すべてを取っていかれるのも神。神(エホバ)は讃えるものであると、ヨブは葛藤のなか、すべてを失った悲しみとともに、神を恨むこともなく自らの信仰を告白する。

試練を乗り越えて信仰を保ったヨブを、本作のメインテーマである信仰告白のコラール(讃美

歌)が受けとめる(第8曲)。このコラールは2回歌われ、1回目はアカペラの独唱者による四重唱で、2回目はアカペラの合唱で歌われる。この旋律は、安部正義が作曲した讚美歌《馬槽のなかに》と同じである。

■サタンの試み②

女声三部合唱(第9曲)が、ヨブの財産と家族を奪ったサタンが、ふたたび天使たちとともに、神の前に現れたことを歌って知らせる。和声や旋律に若干の変化はあるものの、音楽も歌詞も基本的に天使の独楽曲(第2曲)のくり返しである。合唱に導かれて登場した神は、サタンに向かって「ヨブほど、正しく、神を畏れ、悪から遠い者は、この世にいないと気付いたか」と満足げに語り、アリアを通して、サタンの計略にも屈せず、ヨブは固く信仰を守ったと、褒める。

ならばと、サタンは次の提案を主張する。生命が危険にさらされれば、人はなんでも捨ててしまいうちがいないと。そしてアリアでは、ヨブといえども、骨と肉に深刻なダメージを受ければ、きっとあなたのことを呪うはずだと、堂々とした緊張感あふれる歌声で訴える(第10曲)。そこで、神はヨブの命を取らないことを条件に、サタンがヨブの肉体を侵すことを許す。第10曲は第3曲と対応しており、双方の各所において旋律の動機が



図5 神の前から立ち去るサタン

共通している。

間奏曲II(第11曲)は、A-B-A'の自由な三部形式で書かれている。A部分は、これから、ヨブを襲う試練を暗示するような曲想で、まるで苦しみさまようヨブの歩みのような音楽である。中間部のB部分では、次曲の天使の独楽曲の旋律が示されたのち、短縮されたA部分となる。

ナレーター役の天使の独唱(ソプラノ)は、サタンがヨブの全身を悪性の皮膚病で侵したことを伝える(第12曲)。その際、「その足のうらより、頂きまでに」の歌詞は、上行する旋律の動き(1点二音から2点ト音まで)によって音画的に歌い上げられ、印象深い。



図6 腫れ物でヨブを打つサタン

天使の歌を合唱(第13曲)が引き継ぐが、この合唱曲の冒頭旋律は第7曲のヨブの独楽曲のそれと同じで対応している。合唱は、ヨブが痒みから土器の破片で、体中を搔いて苦しむ様子を伝える。その途中で「嗚呼!」と3回叫ぶが、これは聖書にはない記述であり、作者の脚色で、ヨブの苦しみを劇的に表現している。

それを見かねた「ヨブの妻」(アルト)は、信仰など捨てて、神を呪って死になさいと、苛立ちながら主張する。しかしヨブは決然と、妻の愚かさを嘆き、「幸せ」も「災い」も神から与えられるものだと主張する。

ヨブとその妻のやり取りは、二重唱へと発展し、短調の旋律を歌うヨブの妻と、長調の旋律を歌うヨブ——両者の声は交錯し、微妙な陰影を作り出す（第14曲）。この移ろうような、揺らいだ音楽は、まるで「ヨブの信仰の揺らぎ」を暗示しているかのようである。

第7曲では、不幸に直面しても毅然と信仰を告白したヨブだったが、ここでは、むしろ自分の妻を説得することに追われている。つまり、ヨブの意識は、もはや神ではなく妻の方に向いており、またその妻によって神への信仰が動揺させられている。そして、このように信仰の揺らいだヨブに対して、メインテーマであるコラル（第8曲）は沈黙し、歌われることはない。

誰も話しかけることさえできなかつたと、寂しそうに歌う（第15、16曲）。

ヨブは、度重なる苦しみに耐えかね、落ち込み、神への信仰を失い、死すら望むようになる。その苦しみを吐露する独唱曲（第17曲）の冒頭旋律は、前曲の合唱曲の冒頭旋律を踏襲している。さらに「なにとて」「いかなれば」すなわち「なぜ」という問いの歌詞は、同じ音型で歌われ、いわれのない苦難に対するヨブの問いがくり返される。曲の後半では3拍子の長調に転じ、曲調が明るくなる。ただし、これは夢想的で、死への憧憬を思わせる。独唱の末尾で冒頭旋律が再現され、それによって調は短調となり、ヨブが現実に戻されて、嘆く様子が表現される。

■ヨブの苦難、友人の来訪と対話

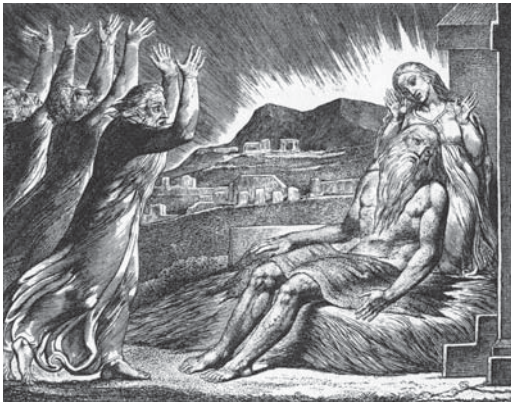


図7 友人たちの見舞い

天使が、ヨブの受難を聞きつけ、3人の友人が彼を慰めるためにやってきたことを伝える。天使の語りを合唱が引き継ぐ。この合唱曲は「合唱—四重唱—合唱」の3部構成になっており、最初はホモフォニックな合唱で、事情を知らない友人たちが、遠方よりやってきて、ヨブの姿を見て悲痛な面持ちになる様子を歌う。中間部の独唱者による四重唱は、第1部の冒頭部分の旋律を主題としたフーガ風の音楽。さらに再度、ホモフォニックな合唱に回帰し、友人たちがヨブの苦難のひどさを知って、7日間、ヨブとともに座っていたが、



図8 ヨブの絶望

沈黙を守っていた神が、ヨブに言葉をかける（第18曲）。「かつてあなたは多くの人を教えさとし、力づけてきた。ところが、いざ自分に災難が降りかかると、耐えることができず、恐れおののいているではないか」と、苦言を呈する。神の歌唱は「三連符」を基調とする器楽伴奏に支えられ、神の存在が聖なる数「3」と固く結びついていく。三連符は第24、27、29曲でも、神の象徴としてふたたび立ち現れる。



図9 エリパスのヴィジョン

前曲の神の旋律がそのままり返され、五重唱(第19曲)へと発展し、「神」「ヨブの妻」「3人の友人たち」と「ヨブ」による対話の場面となる。「神」は第18曲と同じ内容を「ヨブ」に語り続け、「ヨブの妻」は「ヨブ」に神を呪って死んだほうがましだとふたたび迫る。「3人の友人たち」のうち、1人(アルト)は、物事にはすべてに原因があるのだから、ヨブの苦しきもヨブ自身に原因があるとし、1人(バス)は、もしすべての罪が神によって罰せられていたのなら、この程度では済まなかったとヨブに悔い改めを迫り、そして、もう1人(ソプラノ)は、神は自らの知恵に奢る者を救うことはない悔い改めを迫る。これら声にかき消されそうになりながらも、ヨブは「エホバ与え、エホバ取り給う」と、かろうじて神への信仰を唱える。



図10 ヨブを責める友人たち

■ヨブの嘆き

間奏曲III(第20曲)は、自由な再現部をもつ3部形式の器楽曲。牧歌的な曲想で始まり、ワルツのようなリズムも聴かれることから、家族とともに幸せであった日々をヨブが懐古している様子が描かれている。しかし、時折、現実の暗さが織り込まれ、夢と現実を行き来するような印象も受ける。提示部後半のレジオーソ部分で聴こえるコラル風の旋律は、次曲のヨブ独唱曲の旋律を拡大したものである。



図11 サタンのヴィジョンを見るヨブ

妻や友人たちと対立したヨブは、彼らと決別し、独りで長大な嘆きの歌(レチタティーヴォとアリア)を歌う(第21、22曲)。過去の良かった頃を思い出して歌うヨブに対し、合唱はヨブのことばを木霊(エコー)のようにくり返す。特に『ヨブ記』29章2節のことば「嗚呼過ぎにし年月のごとくならまをし。神の我を護り給える日の如くならまをし。」は、ヨブの独唱および合唱を通して、何度もくり返されながら、第23曲の合唱曲へと収斂する。

アリアとなって、ヨブは「苦境にある人と共に泣かなかつたろうか。貧しい人のために、心を痛めなかつたろうか」と、単に昔の自分を懐かしむだけでなく、他者のために苦しんだことにも言及し、もう一度、自分の人生を肯定的にとらえようとする。

さらに第22曲では、自らを襲った不幸に対する

怒り・悩みを訴え、病魔の苦しさを嘆く。すべてを吐き出し終わったあと、ヨブの想いは第23曲「嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし」の合唱に託される。このことばは、第21曲の冒頭で歌われた29章2節のことばと同じだが、ヨブがアリアを歌うなかで「他者に愛を注いだ」記憶を思い出したことによって、新しい意味を帯びている。ヨブが取り戻したいのは、神に護られた贅沢な暮らしではなく、他者に愛を注いだ日々、その生き様の回復を祈っているのである。



図12 エリフの激怒

■神とヨブの対話①



図13 つむじ風のなかからヨブに答える神

ヨブの嘆きに応じて、神が現れ、ヨブに語りかける（第24曲）。まずレチタティーヴォでは「無知の言葉で、神の秩序を暗くするのはいったい誰か」と、厳しいことばを投げかけ、神が天地を創造したそのとき「お前は、どこにいたというのか」と、圧倒的な高みからヨブを叱責する。さら

にアリアでは、「星」や「海」や「天気」など、天の下にあるものはすべて、神が作ったと歌う。



図14 天地創造

つづく合唱曲（第25曲）も、海を沸騰させることができるという神話上の海の怪物・大蛇「レビヤタン」を引き合いに出し、この地上でこの怪物を支配できる者はいないが、これを創造したのも神であると、神の歌に同調する。



図15 ビヒモスとレビヤタン

ヨブは、神の圧倒的なことばの前に、なにも反論できないと悟り、レチタティーヴォを通して「この口に手を置きます。もう申しません。」と、自らの発言を悔いる。さらにアリアでは「わたしは、ちり灰の上に伏し、悔い改めます」と歌う（第26曲）。



図16 サタンの失脚

■神とヨブの対話②

神の独楽曲（第24曲）とヨブの独楽曲（第26曲）で歌われたそれぞれの旋律が、つづく第27曲から第29曲までの3曲で「二重唱」→「女声三部合唱」→「二重唱」のかたちでくり返される。

第27曲は第24曲の一部の旋律（神）と、第26曲の一部の旋律（ヨブ）が用いられ、二重唱というかたちで、神とヨブの対話が再現される。ただし、二重唱と言いつつも、両者はほとんど別々に歌い、実際に重なるところは最後の1節に限られている。それはヨブが「我にこたえたまえ」と神に呼びかけるところで、ここで初めて両声部が重なることは、実に印象的な瞬間である。

つづく合唱曲（第28曲）では、第24曲の神のことばが、女声三部合唱で復唱され、天使たちによって、もう一度、神の創世の業が確認される。

ふたたび神とヨブの二重唱（第29曲）となり、今度は第27曲と異なって、大部分において両者は同時に歌い、本当の意味での「二重唱」のかたちとなっている。ただし、実際の聖書の『ヨブ記』42章では「神」と「ヨブ」それぞれの独白を綴っているだけとなっていることから、この二重唱の部分は安部正義による演出であり、聴く者に、両者が同一地平に立っている情景を思い描かせる。

■最終合唱



図17 「今、わたしは目であなたを拝見いたします」

こうしたヨブの体験を受けて最終合唱曲では、神の御姿を見た信仰的感動、そして、創造主への感謝と賛美が歌われる。導入として「今、わたしは目であなたを拝見いたします」（ヨブ記42:5）というヨブの感動が、清々しい合唱の声で歌われる（第30曲）。さらにアツカで、第8曲のコラール旋律を主題とした壮大な合唱フーガとなる。

まず4人の独唱者が四重唱でこの主題を歌い、つぎに合唱が主題を引き継ぎ「女声合唱→男声合唱→混声四部合唱」のかたちで歌ってゆく。そこへヨブが登場し、主題の旋律を歌うことで、神に対する悔い改めと、彼の信仰の高まりが示される。すると合唱は、第30曲の合唱を歌い、ヨブの歌声に応える。

最後は、混声四部合唱のみのかたちとなり、各声部が主題を拡大したり、短縮したりすることで、人間の声によるアラベスク文様を紡ぎながら、フォルティッシモの頂点へと至る。その後、静かな「アーメン」が唱和され、神への最大の賛美と心からの感謝の念が示されて、感動の内に全曲が結ばれる。

* * *

■後日談

オラトリオ《ヨブ》はここで終わり、ヨブのその後については触れていないので、簡単にそれ

を記す。

神は、ヨブの3人の友人に対して「神についてヨブのように正しく語らなかつた」という理由で怒っていた。そこで、ただちに雄牛と雄羊を7頭ずつ、ヨブのところに引いて行き、自分のためにいけにえを捧げれば、ヨブはお前たちのために祈り、わたしはそれを受け入れるので、友人たちに罰を与えないと語った。

3人の友人はすぐにそれを実行し、神はヨブの祈りを受け入れた。ヨブが友人たちのために祈ったとき、神はヨブを元の境遇に戻し、さらに財産を2倍にした。



図18 ヨブの捧げもの

かつての親族や知人たちがこぞって彼のもとを訪れ、食事をともにし、主が下されたすべての災いについていたわり慰め、それぞれ銀一ケシタと金の環一つを贈った。



図19 贈り物を受けるヨブ

神は、その後のヨブを以前にもまして祝福された。ヨブは、羊1万4,000頭、ラクダ6,000頭、牛1,000頭、雌ロバ1,000頭を持つことになった。また7人の息子と3人の娘をもうけ、ヨブの娘たちのように美しい娘は国中を探してもどこにもいなかった。



図20 ヨブと娘たち

ヨブはその後、140年生き、子、孫、四代の先まで見る事ができた。ヨブは長寿を保ち、老いて死んだ。



図21 繁栄を回復したヨブと妻

安部 正義
オラトリオ《ヨブ》
室内楽版

堀内 貴晃 編曲
総 譜

解説 オラトリオ《ヨブ》室内楽版について

加藤 拓未

安部正義のオラトリオ《ヨブ》は本来、1969（昭和44）年の東京文化会館で行われた演奏会のように2管編成のオーケストラで演奏される作品である。ところが、この本来の編成で演奏されたのは、現在のところこの一度きりのことであって、そのほかの機会では独自の工夫を施した演奏となっている。

演奏の際、各種の工夫が行われた主な理由として、すぐに思いあたるのは、本来の編成では予算的な負担が大きいことだろう。歴史資料館が《ヨブ》の室内楽編曲を企画したのは、この負担を軽減することで、将来的な作品の普及につながるのではないかと考えたからである。

■礼拝堂の環境の変化

編成の縮小によって予算の軽減をはかるのであれば、明治学院大学グリークラブが過去3回の全曲演奏で行ったように、パイプオルガンによる伴奏で演奏することが最適ではないかという意見が聞こえてきそうだが、これは企画段階で検討した結果、現在の明治学院礼拝堂では不可能という結論に達した。その理由は、かつて《ヨブ》の伴奏で使用されたヴァルカー社製のパイプオルガンは、その使命をはたし、もはや礼拝堂に存在しないからである。

旧オルガンは、礼拝堂入口から入って正面に設置されていたのに対し、2009（平成21）年に新しく設置されたヘンク・ファン・エーケン作のパイプオルガンは、2階のバルコニーに設置された。そのため合唱団が立つステージとパイプオルガンの間に距離が生じ、長時間のアンサンブルは非常に難しい環境となった。また、新しいパイプオルガンは17～18世紀のバロック様式の楽器であるため、楽器の特性上、20世紀の音楽である《ヨブ》には合わないことも理由の一つとなった。つまり、《ヨブ》が最後に演奏された1975（昭和50）年から40年が過ぎ、礼拝堂の環境が変わったことで、以前のような演奏はできなくなったのである。

■室内楽編曲の必要性

明治学院礼拝堂とオラトリオ《ヨブ》は、浅からぬ縁で結ばれている。学院の音楽主任であった安部正義は、職務上、礼拝堂で過ごす時間が多かったことから、おそらくこ

の礼拝堂で《ヨブ》の作曲を行っていたことは間違いないだろう。つまり、《ヨブ》はこの礼拝堂で誕生したと言っても過言ではない。《ヨブ》の全曲初演もこの礼拝堂で行われた。そして、この礼拝堂で再演もくり返され、この礼拝堂で作品は育まれたのである。

歴史資料館では、こうした学院の文化的遺産である《ヨブ》が、この礼拝堂で演奏できなければ、この作品を未来の学院へと伝えることは叶わないと考え、議論を積み重ねた。そして、オルガン伴奏でもなく、2管編成のオーケストラ伴奏でもなく、礼拝堂で演奏できる形態として《ヨブ》の「室内楽版」編曲が必要であるという答えに至ったのである。

■室内楽版の特徴

オラトリオ《ヨブ》の室内楽編曲は、作曲家の堀内貴晃氏に依頼した。編曲の結果、器楽伴奏は12名の室内楽で演奏できるようになった。編成の内訳は、フルート×1、オーボエ×1、クラリネット×1、ファゴット×1、ホルン×2、トランペット×1、第1ヴァイオリン×1、第2ヴァイオリン×1、ヴィオラ、チェロ、コントラバスである。これは、東京文化会館の公演に参加した器楽奏者数53名に比べるなら、20%程度の規模となっている。

もう一箇所、原曲から変わったのは「メゾソプラノの独唱者」の扱いである。原曲ではメゾソプラノの独唱者が指定されているが、この歌手は第19曲の「六重唱」しか登場せず、それ以外の出番はない。したがって費用対効果の観点からすれば、予算上の負担となってしまうことは確かである。そこで、メゾソプラノの歌唱部分をアルト独唱者に委ねることで、室内楽版ではこの「六重唱」を「五重唱」に編曲した。これによって、原曲では「6名」を必要とする独唱者が「5名」で間に合うようになった。

* * *

こうして完成した《ヨブ》室内楽版は、明治学院歴史資料館の新しい所蔵資料のひとつとなった。その報告および紹介をかねて、ここに2015年2月15日に明治学院礼拝堂で行われた演奏会のために準備された《ヨブ》室内楽版の総譜全曲を示す。《ヨブ》室内楽版の演奏を希望する団体があれば、当館にご連絡いただければ幸いです。

《ヨブ》という独自の宗教芸術作品が明治学院で産声を上げ、現在に伝わっているのは、明治学院が音楽を重んじるキリスト教主義教育を掲げ、150年の長き伝統を積み重ねてきたからこそである。こうした独自の音楽遺産を所有していることに誇りを持ち、大切に未来へと受け継がれてゆくことを願っている。

ヨブ

作曲 安部正義
編曲 堀内貴晃

1. 序奏

Maestoso

The score is for a 4/4 time signature with a key signature of one sharp (F#). It is divided into two sections: **Maestoso** and **Moderato espressivo**. The **Maestoso** section (measures 1-10) features woodwinds (Flute, Oboe, Clarinet in A, Bassoon, Horn I in F, Horn II in F, Trumpet in C) and strings (Violin I, Violin II, Viola, Violoncello, Double Bass). Dynamics range from *f* to *mf*. The **Moderato espressivo** section (measures 11-18) features the same string section. Dynamics range from *f* to *mf*.

Flute *f* *mf*

Oboe *f* *mf*

Clarinet in A *f* *mf*

Bassoon *f* *mf*

Horn I in F *f* *mf*

Horn II in F *f* *mf*

Trumpet in C *f* *mf*

Moderato espressivo

Violin I *f* *mf*

Violin II *f* *mf*

Viola *f* *mf*

Violoncello *f* *mf*

Double Bass *f* *mf*

Score / 1. 序奏

8

Fl. *f* *mf*

Ob. *f* *mf*

Cl. *f* *mf*

Bn. *f* *mf*

Hr. I *mf* *mf*

Hr. II *mf* *mf*

Tp. *mf* *mf*

Vn. I *f* *mf*

Vn. II *f* *mf*

Va. *f* *mf*

Vc. *f* *mf*

D.B. *f* *mf*

14

Fl. *cresc.* *f*

Ob. *cresc.* *f*

Cl. *cresc.* *f*

Bn. *cresc.* *f*

Hr. I

Hr. II

Tp.

Vn. I *cresc.* *f*

Vn. II *cresc.* *f*

Va. *cresc.* *f*

Vc. *cresc.* *f*

D.B. *cresc.* *f*

Score / 1. 序奏

20 *rit.* **A Andantino**

Fl. *mp*

Ob. *mp*

Cl. *mp*

Bn. *mp*

Hr. I *mf*

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf* pizz.

25

Fl. *f* *p*

Ob. *f* *p*

Cl. *f* *p*

Bn. *f* *p*

Hr. I *p*

Hr. II *f* *p*

Tp. *mf*

Vn. I *f* *mp* *p*

Vn. II *f* *mp* *p*

Va. *mf* *mp* *p*

Vc. *f* *mp* *p*

D.B. *mf* *mp* *p*

Score / 1. 序奏

30

Fl. *mp*

Ob. *mp*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. I *mp*

Hr. II *mp*

Vn. I *mp* *mf*

Vn. II *mp* *mf*

Va. *cresc.* *arco*

Vc. *mp* *mf* *arco*

D.B. *mp* *mf*

35 **B**

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *cresc.* *mf*

Hr. II *cresc.* *mf*

Tp. *mf*

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

Score / 1. 序奏

39

Bn. *sfz sfz sfz sfz*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Vn. I *sfz sfz sfz sfz* *f*

Vn. II *sfz sfz sfz sfz* *f*

Va. *sfz sfz sfz sfz* *f*

Vc. *sfz sfz sfz sfz* *f*

D.B. *sfz sfz sfz sfz* *f*

43

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

Score / 1. 序奏

47

Fl. *mf* *cresc.* *f*

Ob. *mf* *cresc.* *f*

Cl. *mf* *cresc.* *f*

Bn. *f*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Vn. I *cresc.*

Vn. II *cresc.*

Va. *cresc.*

Vc.

D.B.

52

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Tp.

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc.

D.B.

Score / 1. 序奏

55

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Tp.

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

sfz

dim.

p

pp

pizz.

2. 或る日神の子立ち来りて

Andante moderato

Flute *mp*

Oboe *mf*

Clarinet in B *mp* in B

Horn I in F *p*

Horn II in F *p*

Andante moderato

Violin I *mp*

Violin II *mp*

Viola *mp*

Violoncello *mp* arco

Double Bass *mp* pizz.

5

Fl.

Cl.

Sop. (solo)
あ る - ひ - か み の こ た - ち - き た り て エ

Vn. I *mp*

Vn. II *mp*

Va. *mp*

Vc. *mp*

D.B. *mp*

Score / 2. 或る日神の子立ち来りて

9

Sop. (solo)
ホバーのまえーにーたつサタンもーきたりてその

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B. arco

13

Fl.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Sop. (solo)
なかーにーあり

Ten. (solo)
なん

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B. pizz. mp

A

Score / 2. 或る日神の子立ち来りて

23

Cl.

Bas. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

27

Fl.

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)

Bas. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 2. 或る日神の子立ち来りて

31

Fl. *mp*

Cl. *mp*

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)
ヨ プを-み -³し や か れ の ご と - く - ま っ た く か つ た だ - し く

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

35

Cl.

Ten. (solo)
し - て か み - を お そ - れ あ - く に と を - ざ か -

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 2. 或る日神の子立ち来りて

39

Cl.

Bn.

Ten. (solo)

る - ひ と - よ に あ ら - ぎ - る な り

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

p

42

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

p

mp

cresc.

cresc.

cresc.

cresc.

cresc.

cresc.

arco

cresc.

attaca

Score / 3. ヨブもとむることなくして神をおそれんや

3. ヨブもとむることなくして神をおそれんや

Andante moderato

Oboe
 Clarinet in B
 Bassoon
 Horn I in F
 Horn II in F
 Bass (solo)
 Violin I
 Violin II
 Viola
 Violoncello
 Double Bass

ヨブ あに もとむ る こーとなくーして かみを

Andante moderato

Fl.
 Ob.
 Cl.
 Bn.
 Hr. I
 Hr. II
 Bas. (solo)
 Vn. I
 Vn. II
 Va.
 Vc.
 D.B.

お それ ーん や なんじ かれと その いえ およ びー そのすべーの もちもの の

Score / 3. ヨブもとむることなくして神をおそれんや

12

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Tp. *p*

Bas. (solo)

まわりにまがきをもうけたもうにあーーらざーや なんじかれがて

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

B

17

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Tp.

Bas. (solo)

になすところをことごとくーじょうじゆせしむるがゆえにそのーもちものに

Vn. I *p* *cresc.*

Vn. II *p* *cresc.*

Va. *p* *cresc.*

Vc. *p* *cresc.*

D.B.

B

Score / 3. ヨブもとむることなくして神をおそれんや

22 **C**

Fl. *mf*

Hr. I *mp*

Bas. (solo)

あ --- ま ね し

Vn. I *mp*

Vn. II *mp*

Va. *mp*

Vc. *mp*

D.B. *mp*

27 **D Andante**

Fl. *mp*

Ob. *mf*

Hr. I *mp*

Bas. (solo)

されど されど なんじ

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

Score / 3. ヨブもとむることなくして神をおそれんや

32

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Bas. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

の てをーのべ て かれの す べてーのー も ち も のを う ち た まー

f

cresc.

f

f

f

cresc.

f

cresc.

f

37

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Bas. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

え なんじ の てをーのべ て かれの すべてーの も ち も のを う ち

mp

mp

mp

E

E

Score / 3. ヨブもとむることなくして神をおそれんや

43

Ob.

Cl.

Bn.

Bas. (solo)
-たま-え う ち たま -え -さらば さらば かなら ずなんじの か

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

48

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Bas. (solo)
おにむかいてな んじを の -ろ--- わん のろ --- わ-ん

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 3. ヨブもとむることなくして神をおそれんや

53 F

Hr. I

Hr. II

Tpt.

Ten. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

みよ みよ かれの - すべてのもちものを - - なんじの て に - まかす

58

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Ten. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

ただ ただ かれの みに なんじの てを つく - る - な か

Score / 3. ヨブもとむることなくして神をおそれんや

62

G

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)

れ

G

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

66

Hr. I

Hr. II

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

pizz.

pp

pizz.

pp

Score / 4. 間奏曲 I

4. 間奏曲 I
Allegro

Musical score for the first system of '4. 間奏曲 I'. The score is in 4/4 time and features the following instruments and parts:

- Flute:** *ff* (fortissimo)
- Oboe:** *ff* (fortissimo)
- Clarinet in B:** *ff* (fortissimo)
- Bassoon:** *ff* (fortissimo)
- Horn I in F:** *f* (forte)
- Horn II in F:** *f* (forte)
- Trumpet in B:** *f* (forte)
- Violin I:** *ff* (fortissimo)
- Violin II:** *ff* (fortissimo)
- Viola:** *ff* (fortissimo), *arco* (arco)
- Violoncello:** *ff* (fortissimo), *arco* (arco)
- Double Bass:** *ff* (fortissimo)

Musical score for the second system of '4. 間奏曲 I'. This system includes a first ending bracket labeled 'A' at the end of the piece. The instruments and parts are:

- Fl. (Flute):** *f* (forte)
- Ob. (Oboe):** *f* (forte)
- Cl. (Clarinet):** *f* (forte)
- Bn. (Bassoon):** *f* (forte)
- Hr. I (Horn I):** *f* (forte)
- Hr. II (Horn II):** *f* (forte)
- Trp. (Trumpet):** *f* (forte)
- Vn. I (Violin I):** *ffz* (fortissimo z)
- Vn. II (Violin II):** *ffz* (fortissimo z)
- Va. (Viola):** *ffz* (fortissimo z)
- Vc. (Violoncello):** *ffz* (fortissimo z)
- D.B. (Double Bass):** *ffz* (fortissimo z)

Score / 4. 間奏曲 I

28

Fl.
Ob.
Cl.
Bn.
Hr. I
Hr. II
Tp.
Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

32

Fl.
Ob.
Cl.
Bn.
Hr. I
Hr. II
Tp.

Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

Score / 4. 間奏曲 I

37

Fl. *mf* *ff*

Ob. *mf* *ff*

Cl. *mf* *ff*

Bn. *mf*

Hr. I *mf* *ff*

Hr. II *mf* *ff*

Tp. *mf* *ff*

Vn. I *mf* *ff*

Vn. II *mf* *ff*

Va. *mf* *ff*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

41

E

Fl. *ff* *ff*

Ob. *ff* *ff*

Cl. *ff* *ff*

Bn. *ff*

Hr. I *ff* *ff*

Hr. II *ff* *ff*

Tp. *ff* *ff*

E

Vn. I *ff* *ff*

Vn. II *ff* *ff*

Va. *ff* *ff*

Vc. *ff* *ff*

D.B. *ff* *ff*

Score / 4. 間奏曲 I

46 **Lento** F

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *mf*

D.B. *pizz.* *p*

53 G

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf* arco

Score / 4. 間奏曲 I

59

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

mf

Detailed description: This system of musical notation covers measures 59 through 64. It features ten staves for different instruments: Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), Bassoon (Bn.), Horn I (Hr. I), Violin I (Vn. I), Violin II (Vn. II), Viola (Va.), Violoncello (Vc.), and Double Bass (D.B.). The music is written in a key signature of two flats and a common time signature. The Flute part begins with a melodic line that is repeated and varied across the measures. The Oboe and Violin I parts have a similar melodic character. The Clarinet and Viola parts provide harmonic support with more rhythmic patterns. The Bassoon and Double Bass parts play sustained notes, while the Horn I part has a more active melodic line. A dynamic marking of *mf* (mezzo-forte) is present in the Oboe and Violin I staves.

65

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

mf

Detailed description: This system of musical notation covers measures 65 through 70. It features the same ten instruments as the previous system. The Flute part continues its melodic development. The Oboe part has a more active role with eighth-note patterns. The Clarinet and Viola parts continue their rhythmic accompaniment. The Bassoon and Double Bass parts maintain their sustained bass line. The Horn I and Violin I parts have melodic lines that mirror the Flute's. A dynamic marking of *mf* (mezzo-forte) is present in the Flute and Violin I staves.

Score / 4. 間奏曲 I

71

Fl. *cresc.*

Ob. *cresc.*

Cl. *cresc.*

Bn. *cresc.*

Hr. I

Vn. I *cresc.*

Vn. II *cresc.*

Va. *cresc.*

Vc. *cresc.*

D.B. *cresc.*

H

Detailed description: This system of musical notation covers measures 71, 72, and 73. It features ten staves for various instruments: Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), Bassoon (Bn.), Horn I (Hr. I), Violin I (Vn. I), Violin II (Vn. II), Viola (Va.), Violoncello (Vc.), and Double Bass (D.B.). The key signature has two flats (B-flat and E-flat), and the time signature is 4/4. A dynamic marking of *cresc.* (crescendo) is present in the right margin of each staff from Flute to Viola. A rehearsal mark **H** is placed above the first measure of measure 72. The Flute part has a long slur over measures 71-73. The Viola part has a complex rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes.

74

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Detailed description: This system of musical notation covers measures 74, 75, and 76. It features the same ten staves as the previous system. The key signature and time signature remain the same. The Flute part has a long slur over measures 74-76. The Viola part continues with its complex rhythmic pattern. The Bassoon part has a steady eighth-note accompaniment.

5. 或日ヨブのむすこむすめら

Allegretto non troppo

Flute

Clarinet in B_b

Bassoon

Horn I in F

Horn II in F

Soprano (chorus)

Alto (chorus)

Tenor (chorus)

Bass (chorus)

Violin I

Violin II

Viola

Violoncello

あるひ ヨブのむすこむすめら その

あるひ ヨブのむすこむすめら - その

あるひ ヨブのむすこむすめら - その

あるひ ヨブのむすこむすめら - その

7

Fl.

Cl.

Bn.

Hr. I

Sop. (cho.)

Alt. (cho.)

Ten. (cho.)

Bas. (cho.)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

だ い い ち - の あ に の い え に て も の く い さ け の み い た る と

だ い い ち - の あ に の い え に て も の く い さ け の み い た る と

だ い い ち - の あ に の い え に て も の く い さ け の み い た る と

だ い い ち - の あ に の い え に て も の く い さ け の み い た る と

Score / 5. 或日ヨブのむすこむすめら

13

Fl. *p cresc.* *mf* *f*

Ob. *p cresc.* *mf* *f*

Cl. *p cresc.* *mf* *f*

Bn. *mf* *f*

Hr. I *pp* *cresc.* *mf*

Hr. II *mf* *mf*

Tp. (B) *mf* *mf* *f*

Sop. (cho.) *p cresc.* *mf* *f*

Alt. (cho.) *p cresc.* *mf* *f*

Ten. (cho.) *p cresc.* *mf* *f*

Bas. (cho.) *p cresc.* *mf* *f*

Vn. I *cresc.* *mf cresc.* *ff*

Vn. II *cresc.* *mf cresc.* *ff*

Va. *cresc.* *mf cresc.* *ff*

Vc. *cresc.* *mf cresc.* *ff*

D.B. *pp* *cresc.* *mf cresc.* *ff*

つ かい ヨ ブ の も と に き た り て つ ぐ

19 **A** Moderato

Ob. *f* *mf*

Bn. *mf*

Ten. (cho.) *mf*

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

う し た が え し お り め ろ ぼ そ の か た わ ら に く さ く い お

Score / 5. 或日ヨブのむすこむすめら

24

Ob.

Bn.

Ten. (cho.)

りーしに シバびとおそいて これを うばい やいばをもて わかものを う

29

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

B

f

cresc.

Hr. I

Hr. II

Tp. (B)

f

Sop. (cho.)

Alt. (cho.)

Ten. (cho.)

Bas. (cho.)

f

やいばをもて わかものを うち ころ せ

ち ころ せり やいばをもて わかものを うち ころ せ

やいばをもて わかものを うち ころ せ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

B

f

Score / 5. 或日ヨブのむすこむすめら

34

[C]

Fl. *mf*

Ob. *f* *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *ff*

Hr. II

Tp. (B)

Sop. (cho.) *ff*

Alt. (cho.) *ff*

Ten. (cho.) *ff*

Bas. (cho.) *ff* *f* 3 *mf*

り かみのひ てん より くだりて ひつじとわかもの

[C]

Vn. I *ff* *mf*

Vn. II *ff* *mf*

Va. *ff* *mf*

Vc. *ff* *f* 3

D.B. *ff* *f* 3

Detailed description: This is a page of a musical score for a symphony orchestra and choir. The score is in 3/4 time and features a key signature of one flat (B-flat). The page is numbered 34. A rehearsal mark [C] is placed above the first measure of the woodwind section. The woodwind parts include Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), Bassoon (Bn.), Horn I (Hr. I), Horn II (Hr. II), Trumpet (Tp.), and Trombone (B). The string section includes Violin I (Vn. I), Violin II (Vn. II), Viola (Va.), Violoncello (Vc.), and Double Bass (D.B.). The vocal parts include Soprano (Sop.), Alto (Alt.), Tenor (Ten.), and Bass (Bas.), all performing as a choir (cho.). The vocal line includes the lyrics 'り かみのひ てん より くだりて ひつじとわかもの'. The score uses various dynamics such as *ff* (fortissimo), *f* (forte), *mf* (mezzo-forte), and *mf* (mezzo-forte). There are also accents and triplets indicated throughout the score.

Score / 5. 或日ヨブのむすこむすめら

37

Fl. *mf* *f* *ff*

Ob. *mf* *f* *ff*

Cl. *mf* *f* *ff*

Bn. *f* *ff*

Hr. I *mf*

Sop. (cho.) *ff*

Alt. (cho.) *ff*

Ten. (cho.) *ff*

Bas. (cho.) *ff*

Vn. I *ff*

Vn. II *ff*

Va. *ff*

Vc. *ff*

D.B. *ff*

やき - ほろ - ぼ せり
 やき - ほろ - ぼ せり
 やき - ほろ - ぼ せり
 を や き ほ ろ ほ せ り や き ほ ろ - ぼ せ り

41

Fl. *mf*

Alt. (cho.) *mf* *cresc.*

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

カルデヤびとみく みにわかれきて らくだをおそい これをうばい やいばをもて

Score / 5. 或日ヨブのむすこむすめら

46

Fl.

Sop. (cho.)

Alt. (cho.)

Ten. (cho.)

Bas. (cho.)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

う ち こ ろ せ り

わ か も の を う ち こ ろ せ り

う ち こ ろ せ り

う ち こ ろ せ り

う ち こ ろ せ り

dim.

dim.

dim.

dim.

dim.

51

Sop. (cho.)

Alt. (cho.)

Ten. (cho.)

Bas. (cho.)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

なんじのむすこむすめらそ の だ い い ち の あ に の い え に て も の く い さ け の み お り し

Hum.

Hum.

Hum.

Hum.

mp

p

p

p

p

p

p

cresc.

E

E

Score / 5. 或日ヨブのむすこむすめら

54 *mf*

Sop. (cho.) *mf* に あれ の の かたよりお お かぜふきき たりて いえの よすみを う

Alt. (cho.) *sf* *mf* Oh

Ten. (cho.) *cresc.* *mf* Oh

Bas. (cho.) *mf* Oh

59

Bn. *ff*

Sop. (cho.) *cresc.* *ff* ち - け - れ - ば かの わ かきひとひとの - うえにつぶれおち てみなほろ び ぬ

Alt. (cho.) *p cresc.* *f* *ff* Ah

Ten. (cho.) *p cresc.* *f* *ff* Ah

Bas. (cho.) *p cresc.* *f* *ff* Ah

Vn. I *ff*

Vn. II *ff*

Va. *ff*

Vc. *ff*

D.B. *ff*

attacca

Score / 6. "我これを汝に告んとて只一人逃れ来れり"

6. "我これを汝に告んとて只一人逃れ来れり"

Flute *ff*

Oboe *ff*

Clarinet in B *ff*

Bassoon *ff*

Horn I in F *f* *mf*

Horn II in F *f* *mf*

Trumpet in B *f* *mf*

Soprano (solo) *ff*
 みなほろ びぬ みなほろ びぬ みなほろ び

Alto (solo) *ff*
 みなほろ びぬ みなほろ びぬ みなほろ びぬ -ほろ び

Tenor (solo) *ff*
 みなほろ びぬ みなほろ びぬ -みなほろ びぬ

Bass (solo) *ff*
 みなほろ びぬ みなほろ びぬ -みなほろ びぬ み-なほろ-び-

Violin I *ff*

Violin II *ff*

Viola *ff*

Violoncello *ff*

Double Bass *ff*

Score / 6. "我これを汝に告んとて只一人逃れ来れり"

B

14

Fl. *f*

Ob. *f*

Cl. *f*

Bn. *f*

Hr. I *f*

Hr. II *f*

Tp. *f*

Sop. (solo) *ff*
 れのが れ みなほろびぬ

Alt. (solo) *ff*
 みなほろびぬほろびぬ

Ten. (solo) *ff*
 みなほろびぬみなほろびぬ

Bas. (solo) *ff*
 ぬみなのほろびぬ

B

Vn. I *mf* *f*

Vn. II *mf* *f*

Va. *mf* *f*

Vc. *mf* *f*

D.B. *mf* *f*

Score / 6. "我これを汝に告んとて只一人逃れ来れり"

18

Fl.
Ob.
Cl.
Bn.
Hr. I
Hr. II
Tp.
Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

21

C **Meno mosso**

Fl.
Ob.
Cl.
Bn.
Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

pizz.
p
pizz.
p
pizz.
p
pizz.
p
attacca

Score / 7. "我裸にて母の胎を出でたり"

7. "我裸にて母の胎を出でたり"

Molto espressivo

Flute *in B*

Clarinet in B *p*

Bassoon *p*

Bariton (solo) *mf*

われ はだかに て は は の たいを いでたり

Molto espressivo

Violin I *arco p*

Violin II *arco p*

Viola *arco p*

Violoncello *p*

Double Bass *pizz. p*

6

Fl. *p* *cresc.* *f*

Ob. *p* *cresc.* *f*

Cl. *p* *cresc.* *f*

Bn. *p* *cresc.* *f*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Bar. (solo) *mf*

また はだかに て かしこに ーかえー ら ん

Vn. I *cresc.* *f*

Vn. II *cresc.* *f*

Va. *cresc.* *f*

Vc. *cresc.* *f*

D.B. *cresc.* *f*

pizz. p

Score / 7. "我裸にて母の胎を出でたり"

11 **A**

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bar. (solo) *mp* *p*

エホバ あ た え エホバ と り た も う エホバ の み な は ほ む べ

A

Vn. I

Vn. II

Va. *p*

Vc. *pizz.*

D.B. *p*

16

Fl.

Ob.

Cl.

Bar. (solo) *mf*

き -- か -- な エホバ あ た え -- エホバ と り た -- も

Va.

Vc.

D.B.

21 **B**

Fl. *cresc.*

Ob. *cresc.*

Cl. *cresc.*

Bar. (solo)

う あ た え と り た も う -- エホバ の -- み な は ほ む

Va. *cresc.*

Vc. *cresc.*

D.B. *cresc.*

Detailed description: This is a page of a musical score for a symphony orchestra and a solo baritone. The score is in 3/4 time and features a key signature of two flats (B-flat major or D-flat minor). The first system (measures 11-15) is marked with a box 'A' and includes dynamics *p* and *mp*. The second system (measures 16-20) includes dynamics *mf* and *pizz.*. The third system (measures 21-25) is marked with a box 'B' and includes dynamics *cresc.*. The baritone part has lyrics in Japanese. The orchestration includes Flute, Oboe, Clarinet, Bassoon, Violin I and II, Viola, Violoncello, and Double Bass.

Score / 7. "我裸にて母の胎を出でたり"

25

Fl. *mf* *cresc.*

Ob. *mf* *cresc.*

Cl. *cresc.* *mf* *cresc.* *f*

Bar. (solo)

Va. *mf* *cresc.*

Vc. *mf* *cresc.*

D.B. *mf* *cresc.*

べ きーか な エホバ の ーみなは ほ むーべー

29

Fl. *f* *dim.* *mp* *p*

Ob. *f* *dim.* *mp* *p*

Cl. *f* *dim.* *mp* *p*

Bn. *p* *p*

Bar. (solo)

Va. *f* *dim.* *p* (pizz.)

Vc. *f* *dim.* *p* (pizz.)

D.B. *f* *dim.* *p*

き ーか な ー

8. "エホバ与えエホバ取り給う"

1st time: Quartet
2nd time: Chorus

Soprano (solo & chorus)
Alto (solo & chorus)
Tenor (solo & chorus)
Bass (solo & chorus)



エホバあ た ーえ エホバと り たもう エホバの

エホバあ た ーえ エホバと り たもう エホバの

エホバあ た え エホバと り たもう エホバの

エホバあ た え エホバと り たもう エホバの

6
Sop.
Alt.
Ten.
Bas.



みなは ほむべーきかな エホバあ た ーえ エホバと

みなは ほむべきかな エホバあ た え エホバと

みなは ほむべきかな エホバあ た え エホバと

みなは ほむべきかな エホバあ た え エホバと

12
Sop.
Alt.
Ten.
Bas.



り たもう エホバの みなは ほむべーきかな

り たもう エホバの みなは ー ほむべーきかな

り たもう エホバの みなは ー ほむべーきかな

り たもう エホバの みなは ー ほむべーきかな

9. 或日神の子等きたりて

Moderato

Flute
Oboe
Bassoon
Horn I in F
Horn II in F
Violin I
Violin II
Viola
Violoncello
Double Bass

mf
mf
mf
mp
mp
mf
mf
mf
arco
mf
arco
mf

Fl.
Ob.
Bn.
Hr. I
Hr. II
Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

5

9 A

Fl. *mp*

Ob. *mp*

Bn. *p*

Sop. (cho.) *p*
あ る ひ かみのこ たち きたりて エ

Mez. (cho.) *p*
あ る ひ かみのこ たち きたりて エ

Alt. (cho.) *p*
あ る ひ かみのこ たち きたりて エ

Vn. I *p* A

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *pizz.* *p*

13

Bn.

Sop. (cho.)
ホ バの まえ に た つサタンも きたーり その

Mez. (cho.)
ホ バの まえ に た つサタンも きたーり その

Alt. (cho.)
ホ バの まえ に た つサタンも きたーり その

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

17

Bn.

Sop.
(cho.)
なかにありてエホバのまえにたつ

Mez.
(cho.)
なかにありてエホバのまえにたつ

Alt.
(cho.)
なかにありてエホバのまえにたつ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

21

Fl.

Cl.
in B
p

Bn.
p

Ten.
(solo)
なんじいずこよ

Vn. I
mp

Vn. II
mp

Va.
mp

Vc.

D.B.
pizz.
mp

Score / 9. 或日神の子等きたりて

25

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Ten. (solo)

Bas. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

り - - き た - - り - ³し や

ち を

C

pizz.
p

p

29

Ob.

Bas. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

ゆ き - め ぐ - り - こ こ か し - こ へ あ る き - - て

Score / 9. 或日神の子等きたりて

33

Fl. *mp*

Ob.

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Ten. (solo)

Bas. (solo)

nanji kokoro o mochi i-
sita re - - - ri

Vn. I *D*

Vn. II

Va.

Vc. *arco mp*

D.B. *mp*

37

Fl. *mp*

Cl. *mp*

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)

te waga shimo yo bu o mi - 3 shi ya kare no goto ku -

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

The image shows a page of a musical score for a symphony. It features multiple staves for various instruments and a vocal soloist. The score is in a key with two flats (B-flat and E-flat) and a common time signature. The first system starts at measure 33 and includes parts for Flute, Oboe, Horns I and II, Tenor soloist, Bass soloist, Violins I and II, Viola, Violoncello, and Double Bass. The second system starts at measure 37 and includes parts for Flute, Clarinet, Horns I and II, Tenor soloist, Violins I and II, Viola, Violoncello, and Double Bass. The vocal soloist has lyrics in Japanese. There are dynamic markings such as *mp* and *p*, and a section marked *arco* for the cello. A 'D' symbol is present above the violin staves in both systems.

Score / 9. 或日神の子等きたりて

41



Cl.

Ten. (solo)
ま っ た く か つ - た だ し く し - て か み - を お - そ - れ あ - く に

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

45



Cl.

Bn.

Ten. (solo)
と お - ざ か - る - ひ と - よ に あ ら - ざ - る な り

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 9. 或日神の子等きたりて

49 E

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf* *p*

Bn. *mf*

Hr. I

Hr. II *pp*

Tp. (B) *mf*

Ten. (solo)

Vn. I *mf* *p*

Vn. II *p*

Va. *p* *p*

Vc. *p* *mf*

D.B. *p*

なん - われを すすめて

53

Hr. I

Ten. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

ゆ え-な -き- に かれを うち な や まさ-し-

Score / 9. 或日神の子等きたりて

57

Hr. I

Ten. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

め -- し か - ど か れ な お - お の れ -

61

Hr. I

Ten. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

を ま っ と - - - - - う し て み ず か

64

Hr. I

Ten. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

ら か た く す -

attacca

Score / 10. 皮をもて皮にかうるなれば
 10. 皮をもて皮にかうるなれば
 Allegretto

Flute *ff* *sfz* *sfz* *sfz*

Oboe *ff* *sfz* *sfz* *sfz*

Clarinet in A *ff* *sfz* *sfz* *sfz*

Bassoon *ff* *sfz* *sfz* *sfz*

Horn I in F *ff* *sfz* *sfz* *sfz*

Horn II in F *ff* *sfz* *sfz* *sfz*

Trumpet in C *ff* *sfz* *sfz* *sfz*

Bass (solo) *f*

Andante moderato

Violin I *ff* *p*

Violin II *ff* *p*

Viola *ff* *p*

Violoncello *ff* *p*

Double Bass *ff* *p*

かわをもて かわにかうる な

6

Fl. *sfz*

Ob. *sfz*

Cl. *sfz*

Bn. *sfz*

Hr. I *sfz*

Hr. II *sfz*

Tp. *sfz*

Bas. (solo) *f* *p* *cresc.*

Vn. I *f* *p* *cresc.*

Vn. II *f* *p* *cresc.*

Va. *f* *p* *cresc.*

Vc. *f* *p* *cresc.*

D.B. *f* *p* *cresc.*

れ - ば ひ と は そ の す べ - て - の も ち も の を も て お の れ の い の ち に

Score / 10. 皮をもて皮にかうるなれば

A Moderato

11

Fl. *f*

Ob. *p*

Cl. *mf* *p*

Bn. *mf* *p*

Hr. I *pp*

Hr. II *pp*

Tp. *pp*

Bas. (solo) か う べ し **A** Moderato さ れ ど い ま

Vn. I *mf* *p*

Vn. II *mf* *p*

Va. *mf* *p*

Vc. *mf* *p*

D.B. *mf* *p*

15

Fl. *f*

Ob. *cresc.*

Cl. *cresc.*

Bn. *cresc.*

Hr. I *cresc.*

Hr. II *cresc.*

Tp. *cresc.*

Bas. (solo) なん じ の て を の べ て か れ の ほ ね と に く と を う

Vn. I *cresc.*

Vn. II *cresc.*

Va. *cresc.*

Vc. *pizz.*

D.B. *p*

Score / 10. 皮をもて皮にかうるなれば

19

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Hr. I *mp*

Hr. II *mp*

Tp. *mp*

Bas. (solo) *f*

ち た ま - え さ ら ば さ ら ば か な - ら ず な ん じ の

Vn. I *f* *cresc.*

Vn. II *f* *cresc.*

Va. *f* *cresc.*

Vc. *cresc.*

D.B. *cresc.*

B

23

Fl.

Ob.

Cl.

Hr. I

Hr. II

Tp.

Bas. (solo)

お も に - む か い て な ん じ を の - ろ わ ん

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 10. 皮をもて皮にかうるなれば

27 **C**

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Ten. (solo)

か れ を ー な ん じ の て に ま か す た だ た だ か れ の い の ち を

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf* arco pizz.

D.B. *mf*

31

Cl.

Bn.

Ten. (solo) *ff*

そ こ ー な う ー な ー ー か れ

Vn. I *f* *cresc.*

Vn. II *f* *cresc.*

Va. *f* *cresc.*

Vc. *f* arco *cresc.*

D.B. *f* *cresc.*

Score / 10. 皮をもて皮にかうるなれば

Musical score for measures 34-37, featuring instruments: Fl., Ob., Cl., Bn., Hr. I, Hr. II, Tpt., Vn. I, Vn. II, Va., Vc., and D.B. The score includes dynamic markings such as *f* and *ff*, and articulation marks like accents and slurs. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 4/4. The score is written in a system with 12 staves. The first four staves (Fl., Ob., Cl., Bn.) are woodwinds, the next three (Hr. I, Hr. II, Tpt.) are brass, and the last five (Vn. I, Vn. II, Va., Vc., D.B.) are strings. The music begins at measure 34, marked with a rehearsal sign. The woodwinds and brass play chords and melodic lines, while the strings provide a rhythmic accompaniment. The score concludes at measure 37 with a final chord and a *pizz.* marking for the double bass.

11. 間奏曲 II
Andante

Musical score for the first system of '11. 間奏曲 II'. The score is in 4/4 time and B-flat major. The instruments and their parts are:

- Flute:** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Oboe:** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Clarinet in B:** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Bassoon:** Bass clef, starting with a *p* dynamic.
- Horn I in F:** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Horn II in F:** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Trumpet in B:** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Double Bass:** Bass clef, starting with a *p* dynamic and marked *arco*.

Musical score for the second system of '11. 間奏曲 II'. The score continues from the first system. The instruments and their parts are:

- Fl. (Flute):** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Ob. (Oboe):** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Cl. (Clarinet in B):** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Bn. (Bassoon):** Bass clef, starting with a *p* dynamic.
- Hr. I (Horn I in F):** Treble clef, starting with a *p* dynamic.
- Vn. I (Violin I):** Treble clef, starting with a *mf* dynamic.
- Vn. II (Violin II):** Treble clef, starting with a *mf* dynamic.
- Va. (Viola):** Bass clef, starting with a *mf* dynamic.
- Vc. (Violoncello):** Bass clef, starting with a *p* dynamic.
- D.B. (Double Bass):** Bass clef, starting with a *p* dynamic.

Score / 11. 間奏曲 II

12 **A**

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

mf

mf

17

Cl.

Bn.

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

mf

mf

22 **B**

Cl.

Bn.

Hr. I

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

cresc.

f

mp *cresc.* *mf*

p

cresc. *f* *p*

p

cresc. *f* *p*

cresc. *f*

Score / 11. 間奏曲 II

28

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Tp. *p*

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

attacca

12. "サタンやがてエホバの前より出行き"

Andante moderato

Recit.

Flute *mf*

Oboe *mf* *p*

Clarinet in B in B *mf* *p*

Soprano (solo) *mf*

サタン やがてエ ホバ の ーまえよ

Andante moderato

Recit.

Violin I *mf*

Violin II *mf*

Viola *mf*

Violoncello *mf*

Double Bass *mf* pizz.

Fl. 5 *mf*

Sop. (solo) *mf*

り いでゆきヨブを ーうちて うちて そのあし--の ーうらーよ り

Vn. I *simile*

Vn. II *simile*

Va. *simile*

Vc.

D.B. arco

13. ヨブやきもの(土瓦)のくだけを取り、
其をもて身をかき

Molto espressivo

The score is for a vocal quartet and a string ensemble. The vocal parts (Soprano, Alto, Tenor, Bass) are in a 4/4 time signature with a key signature of one flat. The lyrics are in Japanese. The string ensemble (Violin I, Violin II, Viola, Violoncello, Double Bass) is also in 4/4 time with one flat. The tempo/mood is 'Molto espressivo'. Dynamics include *mp* (mezzo-piano) and *cresc.* (crescendo). The vocal parts have lyrics: ヨブ やきもの の くだけをと り それをも て みをか き はいの. The string parts provide a harmonic accompaniment.

Flute

Oboe

Clarinet in B

Bassoon

Horn I in F

Horn II in F

Trumpet in B

Soprano (chorus) *mp* *cresc.*

Alto (chorus) *mp* *cresc.*

Tenor (chorus) *mp* *cresc.*

Bass (chorus) *mp* *cresc.*

ヨブ やきもの の くだけをと り それをも て みをか き はいの

Molto espressivo

Violin I *mp* *cresc.*

Violin II *mp* *cresc.*

Viola *mp* *cresc.*

Violoncello *mp* *cresc.*

Double Bass *mp* *arco* *cresc.*

Score / 13. ヨブやきもの(土瓦)のくだけを取り、其をもて身をかき

6

Fl. *f* *cresc.* *ff*

Ob. *f* *cresc.* *ff*

Cl. *f* *cresc.* *ff*

Bn. *f* *cresc.* *ff*

Hr. I *mf* *cresc.* *f*

Hr. II *mf* *cresc.* *f*

Tr. (B) *mf* *cresc.* *f*

Sop. (cho.) *f* *ff*

Alt. (cho.) *f* *ff*

Ten. (chor.) *f* *ff*

Bas. (cho.) *f* *ff*

Vn. I *f* *cresc.* *ff*

Vn. II *f* *cresc.* *ff*

Va. *f* *cresc.* *ff*

Vc. *f* *cresc.* *ff*

D.B. *f* *cresc.* *ff*

Lyrics:
 なかにすわりぬ ああ ああ ああ ああ
 なかにすわりぬ ああ ああ ああ ああ
 なかにすわりぬ ああ ああ ああ ああ
 なかにすわりぬ ああ ああ ああ ああ

Score / 13. ヨブやきもの(土瓦)のくだけを取り、其をもて身をかき

11 **A**

Fl. *f*

Ob. *f*

Cl. *f*

Bn. *f*

Hr. I *sfz*

Hr. II *sfz*

Tp. (B) *sfz*

Sop. (cho.) *f*
 ああ ああ ああ ああ - - ああ -

Alt. (cho.) *f*
 ああ ああ ああ ああ ああ -

Ten. (chor.) *f*
 ヨブ やきもの の くだけをと り それをも て みを かき はい の

Bas. (cho.) *f*
 ヨブ やきもの の くだけをと り それをも て みを かき はい の

A

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

Score / 13. ヨブやきもの(土瓦)のくだけを取り、其をもて身をかき

21

Fl. *f* *cresc.*

Ob. *f* *cresc.*

Cl. *f* *cresc.*

Bn. *f* *cresc.*

Sop. (cho.) *cresc.*
 それをもて みを かき はい の なかに すわりぬ ああ ああ

Alt. (cho.) *cresc.*
 と りそれをも てみを かき はい の なかに すわりぬ ああ ああ

Ten. (chor.) *cresc.*
 れ を も てみを かき はい の なかに すわりぬ ああ ああ

Bas. (cho.) *cresc.*
 れ を も てみを かき はい の なかに すわりぬ ああ ああ

Vn. I *f* *cresc.*

Vn. II *f* *cresc.*

Va. *f* *cresc.*

Vc. *f* *cresc.*

D.B. *f* *cresc.*

Score / 13. ヨブやきもの(土瓦)のくだけを取り、其をもて身をかき

♩ Moderato

29

Ob. *dim.* *mf*

Cl. *dim.* *mf* *p*

Bn. *dim.* *mf* *p*

Hr. I *dim.* *mp*

Hr. II *dim.* *mp*

Tp. (B) *dim.* *mp*

Alt. (solo)

なんじはなおも おのれを

♩ Moderato

Vn. I *dim.* *p*

Vn. II *dim.* *p*

Va. *dim.* *p*

Vc. *mf dim.* *p*

D.B. *p*

33

Ob. *p*

Cl.

Bn.

Alt. (solo)

まつとうして みずから かたくする や かみをのろい

Vn. I

Va.

Vc.

D.B.

Score / 13. ヨブやきもの(土瓦)のくだけを取り、其をもて身をかき

38

Ob. *dim.*

Cl. *dim.*

Bn. *dim.*

Alt. (solo)
てのろいて しぬるにしかずー

Vn. I *dim.*

Va. *dim.*

Vc. *dim.*

D.B.

44 **D**Allegro

Ob. *pp*

Cl. *pp*

Bn. *pp*

Hr. I *pp*

Hr. II *pp*

Bar. (solo)
なんじのゆ う ところはおろ かなる おんなのゆ う ところ に たーり

DAllegro

Vn. I *pp*

Vn. II *pp*

Va. *pp*

Vc. *pp*

D.B. *pp*

Score / 13. ヨブやきもの(土瓦)のくだけを取り、其をもて身をかき

E Andante espressivo

50

Cl. *mf*

Trp. (B) *mf*

Bar. (solo)

Vn. II *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

われらかみよりさ

53

Cl.

Trp. (B)

Bar. (solo)

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc.

D.B.

い わい を う く る な

56

Cl.

Trp. (B)

Bar. (solo)

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc.

D.B.

れ ば わ

14. 二重唱 (バリトン、アルト)

Allegro

in B

Clarinet in B
Horn I in F
Trumpet in B

Bariton
(solo)

なん じのゆ う ところはお ろ か なる お んなのーゆ う ところ に に たー

Allegro

Violin I
Violin II
Viola
Violoncello
Double Bass

6
Fl.
Cl.
Hr. I
Alt.
(solo)
Bar.
(solo)
Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

p **A** *mp* *poco a poco cresc.*

なん じは なを も お の れを ー まっ とう して ー み ず か ら

り われ ら か み よ り さ い ー わ い ー

p **A** *p* *simile* *poco a poco cresc.*

p *simile* *poco a poco cresc.*

p *simile* *poco a poco cresc.*

pizz. *p* *pizz.* *p*

Score / 14. 二重唱 (バリトン、アルト)

11

Fl.

Cl.

Alt. (solo)
かた く す る や — — — か み — を の ろ — い — て

Bar. (solo)
を — う く — る な れ — — — ぼ — — — わ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

16

Fl.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Alt. (solo)
— の ろ — い て 死 — ぬ る に し か —

Bar. (solo)
さ — お い — も ま た — う け — ぎ る — を え ん

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 14. 二重唱 (バリトン、アルト)

21

The score consists of 11 staves for measures 21 through 25. The instruments and their parts are as follows:

- Fl.**: Flute, starts with a half note G4 (piano) in measure 21, then rests.
- Ob.**: Oboe, rests until measure 22, then plays a half note G4 (piano) in measure 22, followed by a melodic line: A4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (half).
- Cl.**: Clarinet, starts with a half note G4 (piano) in measure 21, then rests.
- Bn.**: Bassoon, starts with a half note G4 (piano) in measure 21, then rests.
- Hr. I** and **Hr. II**: Horns I and II, both start with a half note G4 (piano) in measure 21, then rest.
- Alt. (solo)**: Alto solo, rests throughout.
- Bar. (solo)**: Baritone solo, rests throughout.
- Vn. I**: Violin I, plays a rhythmic pattern of eighth notes: G4 (quarter), A4 (quarter), B4 (quarter), A4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), then rests.
- Vn. II**: Violin II, plays a rhythmic pattern of eighth notes: G4 (quarter), A4 (quarter), B4 (quarter), A4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), then rests.
- Va.**: Viola, plays a rhythmic pattern of eighth notes: G4 (quarter), A4 (quarter), B4 (quarter), A4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), then rests.
- Vc.**: Violoncello, plays a half note G4 (piano) in measure 21, then rests.
- D.B.**: Double Bass, plays a half note G4 (piano) in measure 21, then rests.

Dynamic markings: *p* (piano) is used for the Flute, Oboe, Clarinet, Bassoon, Horns I & II, Violin I & II, Viola, and Double Bass. The Alto and Baritone parts are marked as solo.

15. ヨブの友三人

Andante moderato

Musical score for the first system, featuring five instruments: Flute, Oboe, Clarinet in B, Bassoon, and Violoncello. The music is in 4/4 time with a key signature of two flats (B-flat and E-flat). The tempo is marked 'Andante moderato'. The Flute part begins with a rest followed by a melodic line starting on a half note G4. The Oboe, Clarinet in B, and Bassoon parts have similar melodic lines, with the Clarinet in B part marked 'in B' and 'p'. The Violoncello part has a lower melodic line, also marked 'p'. Dynamics include 'p' (piano) and 'p' (piano) throughout.

Musical score for the second system, featuring nine instruments: Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), Bassoon (Bn.), Soprano (Sop. (solo)), Violin I (Vn. I), Violin II (Vn. II), Viola (Va.), and Violoncello (Vc.). The music continues in 4/4 time with a key signature of two flats. A section marker 'A' is placed above the Flute staff at measure 5. The Soprano part has lyrics: ヨブのとも みたりにこ. The Violin I part has a melodic line starting on a half note G4, marked 'p'. The Violin II, Viola, and Violoncello parts have similar melodic lines, with the Violoncello part marked 'p'. Dynamics include 'p' (piano) and 'p' (piano) throughout.

Score / 15. ヨブの友三人

9

Sop. (solo)

の ず べ て の わ ざ わ い の か れ に の ぞ ー め る ー を き

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

14

Fl.

Bn.

Sop. (solo)

き ヨ ブ を い た ー わ ー り な く さ め ー ん と て は

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

19

Fl.

Sop. (solo)

る ば ー る た が ー い に や く し て ー き た れ り

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

attacca

16. 目をあげて遙かに観しに
Andante moderato

Flute *mf*

Bassoon *mf*

Soprano (chorus) *mf*
めをあげて はるかにみし

Alto (chorus) *mf*
めをあげて はるかにみし

Tenor (chorus) *mf*
めをあげて はるかにみし

Bass (chorus) *mf*
めをあげて はるかにみし

Andante moderato

Violin I *mf*

Violin II *mf*

Viola *mf*

Violoncello *mf*

Double Bass *mf*

Score / 16. 目をあげて遥かに観しに

7

Bn. *mf*

Sop. (cho.)
に - その ヨブ なるを みしりがたきほど なりけれ

Alt. (cho.)
に - その ヨブ なるを みしりがたきほど なりけれ

Ten. (chor.)
に - その ヨブ なるを みしりがたきほど なりけれ

Bas. (cho.)
に - その ヨブ なるを みしりがたきほど なりけれ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc. *mf*

D.B.

13

Sop. (cho.) *pp*
ば - ひ と し く こえを あげ て な き

Alt. (cho.) *pp*
ば - ひ と し く こえを あげ て な き

Ten. (chor.) *pp*
ば - ひ と し く こえを あげ て な き

Bas. (cho.) *pp*
ば - ひ と し く こえを あげ て な き

Vn. I *pp*

Vn. II *pp*

Va. *pp*

Vc. *pp*

D.B. *pp*

Score / 16. 目をあげて遥かに観しに

19 A

Fl. *mp*

Cl. *mp* in B

Bn. *mf*

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Sop. (solo) *mf*
めをあげて — はる — か — に みし —

Alt. (solo) *mf*
めをあげて — はる — か — に みし —

Sop. (cho.)
ぬ

Alt. (cho.)
ぬ

Ten. (chor.)
ぬ

Bas. (cho.)
ぬ

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

Score / 16. 目をあげて遥かに観しに

44

Hr. I

Hr. II

Sop. (solo)
ぬ こえを あげ て な き ぬ ー こ

Alt. (solo)
て な ー き ー ぬ こえを あげ て な

Ten. (solo)
く こ え を あ げ ー

Bas. (solo)
に ー そ の ヨブ ー な ー る を みしりがたきほど なり ー けれ

Vc.

50

Hr. I

Hr. II

Sop. (solo)
え を あ げ ー て こえを あげ て な き

Alt. (solo)
き ー ー ぬ こ ー え を

Ten. (solo)
て ー ー こえを あげ て な き ぬ こえを あ

Bas. (solo)
ば ひ と し く こえ ー を ー あ ー げ て こえを

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

Score / 16. 目をあげて遥かに観しに

56

Sop. (solo) ぬ こえを あげ て なき ぬ

Alt. (solo) あ げ て こえを あげ て なき ぬ

Ten. (solo) げ て なき ぬ こえを あげ て なき ぬ

Bas. (solo) あげ て なき ぬ こえを あげ て なき ぬ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B. Violoncello pizz. mf

63

E

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Sop. (cho.) *p* な の か - な な - よ か れ と と も に ち に ざ し い て ひ と こ と も - か れ に

Alt. (cho.) *p* な の か - な な よ か れ と と も に ち に ざ し い て - ひ と こ と - も - か れ に

Ten. (chor.) *p* な の か - な な - よ か れ と と も に ち に ざ し い て ひ と こ と も - か れ に

Bas. (cho.) *p* な の か - な な よ か れ と と も に ち に ざ し い て - ひ と こ と - も - か れ に

Score / 16. 目をあげて遥かに観しに

71

F

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Sop. (cho.)
- いいかく るもの - なかりき かれが - くるし - み - の

Alt. (cho.)
- いいかく るもの - なかりき かれが - くるし - み - の

Ten. (chor.)
- いいかく るもの - なかりき かれが - くるし - み - の

Bas. (cho.)
- いいかく るもの - なかりき かれが - くるし - み - の

78

Fl. *sfz*

Ob. *sfz*

Cl. *sfz*

Bn. *sfz*

Sop. (cho.)
- いとも おおinar を みたれ ば なり

Alt. (cho.)
- いとも おおinar を みたれ ば なり

Ten. (chor.)
- いとも おおinar を みたれ ば なり

Bas. (cho.)
- いとも おおinar を みたれ ば なり

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p* arco

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

17. 我が生れし日亡びうせよ

Molto energico

Flute *f* *sfz*

Oboe *f* *sfz*

Clarinet in B *f* *sfz*

Bassoon *f* *ff*

Horn I in F *f* *sfz*

Horn II in F *f* *sfz*

Trumpet in B *f* *sfz*

Andante moderato

Violoncello *f* *pizz.* *arco*

Double Bass *f* *arco*

6

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn.

Hr. I

Hr. II

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc.

D.B.

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

A

10

Fl. *sfz* *mp*

Ob. *sfz* *mp*

Cl. *sfz* *mp*

Bn. *sfz* *mf*

Hr. I

Hr. II

Bar. (solo)

A

わ が うまれしー ひ ほろ びう せ よ

Vn. I *sfz*

Vn. II *mf*

Va. *sfz* *mf*

Vc. *sfz* *mf pizz.*

D.B. *sfz* *mf pizz.*

15

Fl.

Ob.

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Bar. (solo)

な にとて わ れーは は らより し に て い で

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

20

Cl.

Bn.

Bar. (solo)
りしや なにとて はらより いでしと -

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

24

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Bar. (solo)
きにいききたえりしや

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc.

D.B.

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

28 **B**

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *mp*

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Bar. (solo) *p*

Vc. *mp*

いかなれば ひざありて われをうけしや いかなれば ちぶざありて

34

Cl. *p*

Bar. (solo) *p*

Vc. *p*

われをやしな いしや しからずば いまはわれ

39 **C**

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf* *dim.* *p* *mf*

Bn. *mf*

Bar. (solo) *mf*

Vc. *mf*

ふして やすん じねむら ーん いかなれば なやみに

C

Vn. I *p* *mf cresc.*

Vn. II *p* *mf cresc.*

Va. *p* *mf cresc.*

Vc. *mf cresc.* arco

D.B. *mf cresc.* arco

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

45

Fl. *cresc.* *f* *dim.*

Ob. *cresc.* *f* *dim.*

Cl. *cresc.* *f* *dim.*

Bn. *cresc.* *f* *dim.*

Bar. (solo) *f* *dim.*

Vn. I *ff* *dim.*

Vn. II *ff* *dim.*

Va. *ff* *dim.*

Vc. *ff* *dim.*

D.B. *ff* *dim.*

おるもの-に ひかりを たま-い ころ- くるしむ ものに-い の

51

Fl. *f*

Ob. *f*

Cl. *cresc.* *f*

Bn. *mf* *f*

Hr. I *mf* *f*

Hr. II *mf* *f*

Tp. *mf* *f*

Bar. (solo) *f*

Vn. I *mf* *cresc.* *f*

Vn. II *mf* *cresc.* *f*

Va. *mf* *cresc.* *f*

Vc. *mf* *cresc.* *f*

D.B. *mf* *cresc.* *f*

ちを たま-いしや

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

57 **D**

Fl. *mp*

Cl. *mp*

Bar. (solo)

D かか る もの は し を のぞ む な れ ど も き た ら

Vn. I *mp*

Vn. II *mp*

Vc. *mp*

D.B. *pizz.* *mp*

63

Fl.

Cl.

Bar. (solo)

ず これを も と む る は か く れ た る た か ら を ほ る

Vn. I

Vn. II

Vc.

D.B.

69

Fl.

Cl.

Bar. (solo)

よ り も は な は だ し も し は か - を た ず ね て え

Vn. I

Vn. II

Vc.

D.B.

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

74

Fl.

Cl.

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Vc.

D.B.

ぼよろこびたのしむな-り

80

Fl.

Cl.

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

わがなげきわがうめ

84

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

きはみずのながれそ

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

88

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

そぐ に に た り われ

92

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

は や す ら か な ら ず た だ な や - み

f

96

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

の み き た る

mf

arco

mf

dim.

dim.

dim.

Score / 17. 我が生れし日亡びうせよ

100

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

pizz.

pizz.

Detailed description: This is a page of a musical score for strings, measures 100 through 103. The score is written for five parts: Violin I (Vn. I), Violin II (Vn. II), Viola (Va.), Violoncello (Vc.), and Double Bass (D.B.). The key signature is B-flat major (two flats). The tempo marking '100' is at the top left. Measures 100 and 101 feature rapid sixteenth-note passages in the upper strings, with a slur over the first two measures. In measure 102, the strings play a sustained chord. In measure 103, the Cello and Double Bass parts have a 'pizz.' (pizzicato) marking above a single note. The score ends with a double bar line.

18. さきに汝は多くの人をおしえ諭せり

Moderato

Flute *mf* 3 3 *p* **A**

Clarinet in B *mf*

Bassoon *mf* *tr* *p*

Horn I in F *mp* *p*

Horn II in F *mp* *p*

Tenor (solo)

Moderato

Violin I *mp* **A**

Violin II *mf* *mp*

Viola *mf* *mp*

Violoncello *arco* *mf* *tr* *mp*

Double Bass *pizz.* *mf* *mp*

6 Fl. *mp*

Ten. (solo) に なんじは おおくの ひとをおし え さとせ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 18. さきに汝は多くの人をおしえ諭せり

11

Fl. *mp*

Ten. (solo)

Vn. I *mp*

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

り ての た れ た る - も の を ば - つ よ く

16

Fl.

Ten. (solo)

Vn. I *mp*

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

し - つ ま ず く も の を ば - た す け お - こ - し

21

Fl. *mp*

Ten. (solo)

Vn. I *mp*

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

ひ ぎ の よ わ り た - - る も の - を つ よ く せ -

B

Score / 18. さきに汝は多くの人をおしえ諭せり

27 C

Fl.

Cl.

Ten. (solo)
り - されど - いま このこと なんじに のぞめ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

33

Ten. (solo)
ば なんじも だ え - このこと なんじにくわ - わ - れ - ば - なんじお

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

39

Bn.

Ten. (solo)
じ ま ど う

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 19. 五重唱

19. 五重唱
Andante moderato

Soprano (solo)

Alto (solo) *mf*
なんじは ーなおーも おのれ をまつ とう し

Tenor (solo) *mf*
さきに なんじは おおくの ひとをおし

Bariton (solo)

Bass (solo)

19. 五重唱
Andante moderato

Violin I *mp*
mf

Violin II *mp*

Viola *mp*

Violoncello *mp*
arco

Double Bass *mp*
arco

6

Sop. (solo) *mf*
かみは なやめる ものを なやみ

Alt. (solo)
て みずから かたく する ーや

Ten. (solo)
え さとせり ての たれ たるものをば

Bar. (solo) *mf*
エホバ あた

Bas. (solo) *mf*
ちえの ひみつを なんじにしめして その

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

Score / 19. 五重唱

11

Sop. (solo) に より て す ぐ い こ れ が み み を し え た げ に

Alt. (solo) か み を の ろ い て し ぬ る に し か ず

Ten. (solo) 一 つ よ く し つ ま ず く も の を ぼ た す け お

Bar. (solo) え エ ホ バ と り た も う

Bas. (solo) ち し き を あ い ば い す る を あ ら わ 一 し た

Vn. I *poco a poco cresc.*

Vn. II *poco a poco cresc.*

Va. *poco a poco cresc.*

Vc. *poco a poco cresc.*

D.B. *poco a poco cresc.*

16

Sop. (solo) よ り て ひ ら き た も う か み に は お そ る べ

Alt. (solo) あ し い か で ど ろ な く し て の び 一 ん

Ten. (solo) こ 一 し 一 ひ ぎ の よ わ り た 一 る も の

Bar. (solo) エ ホ バ の み な 一

Bas. (solo) ま わ ん こ と を な ん じ し れ か み は な ん じ

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

B

Score / 19. 五重唱

21

Sop. (solo) き い こ ー う あ り か れ は ー み ず か ら ー

Alt. (solo) や お ぎ い か で み ず な く し て そ だ

Ten. (solo) を つ よ く せ り さ れ ど い

Bar. (solo) は ほ む べ き か な

Bas. (solo) の つ み よ り も か ろ く な ん じ を さ ば き た も う な

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

26

Sop. (solo) か し こ し と す る も の を か え り み *cresc.*

Alt. (solo) た ん や こ は そ の あ お く し て い ま だ か ら ざ *cresc.*

Ten. (solo) ま こ の こ と な ん じ に の ぞ め ば な ん じ だ え *cresc.*

Bar. (solo) エ ホ バ の み な は ほ む ー *cresc.*

Bas. (solo) り か み ほ な ん じ の つ み よ り も *cresc.*

Vn. I *poco a poco cresc.*

Vn. II *poco a poco cresc.*

Va. *poco a poco cresc.*

Vc. *poco a poco cresc.*

D.B. *poco a poco cresc.*

Score / 19. 五重唱

31

Sop. (solo) *f*
 た ま わ - ぎ - る - な - り か え り み た ま わ ぎ る な

Alt. (solo) *f*
 る と き に も た の く さ よ り は は や く か -

Ten. (solo) *cresc.* *f*
 こ の こ と な ん じ に く わ - わ - れ - ば *f* な ん じ お じ ま ど

Bar. (solo)
 べ き か な ほ む べ き か

Bas. (solo) *f*
 か ろ く な ん じ を さ ば き た も う な

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

36

Sop. (solo) 1. 2.
 り り -

Alt. (solo) る る -

Ten. (solo) う う -

Bar. (solo) な な -

Bas. (solo) り り -

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

20. 間奏曲 III

Moderato
in B

Clarinet in B *mf*

Violin I *p*

Violoncello *pizz.*
cresc.

6

Fl. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf* arco

D.B. *mf*

A

11

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 20. 間奏曲 III

B
16 ♩ = ♩.

Fl. *mp*

Ob. *mp*

Hr. I *mp* *mf*

Hr. II *mp* *mf*

B
16 ♩ = ♩.

Vn. I *pizz.* *p* *mf*

Vn. II *pizz.* *p* *mf*

Va. *pizz.* *p* *mf*

Vc. *pizz.* *p* *mf*

D.B. *pizz.* *p* *mf*

25

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Hr. I

Hr. II

Vn. I *arco* *mf*

Vn. II *arco* *mf*

Va. *arco* *mf*

Vc. *arco* *mf*

D.B. *arco* *mf*

34

Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

C Religioso

43

Fl.
Ob.
Cl.
Bn.
Hr. I
Hr. II
Tpt.

p *cresc.*
p *cresc.*
p *cresc.*
p *cresc.*
p *cresc.*
p *cresc.*
p *cresc.*

tr. in B

C Religioso

Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

Score / 20. 間奏曲 III

50

Fl. *f* *cresc.* *sfz* *sfz*

Ob. *f* *cresc.* *sfz* *sfz*

Cl. *f* *cresc.* *sfz* *sfz*

Bn. *f* *cresc.* *sfz* *sfz*

Hr. I *mf* *cresc.* *sfz* *sfz*

Hr. II *mf* *cresc.* *sfz* *sfz*

Tp. *mf* *cresc.* *sfz* *sfz*

Vn. I *f* *sfz* *sfz*

Vn. II *f* *sfz* *sfz*

Va. *f* *sfz* *sfz*

Vc. *f* *sfz* *sfz*

D.B. *f* *sfz* *sfz*

55 **D** Adagio **Tempo I**

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Tp. *p*

Vn. I *ff*

Vn. II *ff*

Va. *ff* *p*

Vc. *ff* *p*

D.B. *ff* *p*

Musical score for measures 60-63. The score is for a woodwind section (Flute, Oboe, Clarinet, Bassoon, Trumpet) and a string section (Violin I, Violin II, Viola, Violoncello, Double Bass). The woodwinds play a melodic line with long notes and slurs, starting at measure 60. The strings play a rhythmic accompaniment of eighth notes. A dynamic marking *p* (piano) is present in the string parts starting at measure 63. A rehearsal mark **E** is located at the beginning of measure 63.

Musical score for measures 64-67. The score is for a string section (Violin I, Violin II, Viola, Violoncello, Double Bass). The strings play a rhythmic accompaniment of eighth notes. A dynamic marking *p* (piano) is present in the string parts starting at measure 64. A rehearsal mark **E** is located at the beginning of measure 64.

Score / 20. 間奏曲 III

69

Fl. *p*

Cl. *p*

Vn. I *pizz.* *p*

Vn. II *pizz.* *p*

Va. *pizz.* *p*

Vc. *pizz.* *p*

D.B. *pizz.* *p*

74

Ob. *mf*

Vn. I *arco* *mf*

Vn. II *arco* *mf*

Va. *arco* *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

78

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f* *arco*

D.B. *f*

Score / 20. 間奏曲 III

83 G $\text{♩} = \text{♩}$.

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

91

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Vn. I *mf* *cresc.*

Vn. II *mf* *cresc.*

Va. *mf* *cresc.*

Vc. *mf* *cresc.*

D.B. *mf* *cresc.*

Score / 20. 間奏曲 III

99

Fl. *f*

Ob. *f*

Hr. I *f*

Hr. II *f*

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

H Religioso

106

Fl. *p* *cresc.*

Ob. *p* *cresc.*

Cl. *p* *cresc.*

Bn. *p* *cresc.*

Hr. I *p* *cresc.*

Hr. II *p* *cresc.*

Tp. *p* *cresc.*

H Religioso

Vn. I

Vn. II

Vc.

D.B.

Score / 20. 間奏曲 III

114

Fl. *f* *cresc.* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Ob. *f* *cresc.* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Cl. *f* *cresc.* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Bn. *f* *cresc.* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Hr. I *mf* *cresc.* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Hr. II *mf* *cresc.* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Tp. *mf* *cresc.* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Vn. I *f* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Vn. II *f* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Va. *f* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Vc. *f* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

D.B. *f* *sfz* *sfz* *p* *sfz* *pp*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

Allegretto non troppo

Oboe

Clarinet in B *in B*

Bassoon

Horn I in F

Horn II in F

Baritone (solo)

わがとはは — わがのぞみ をみたさざる こと たにがわ—

Moderato

Violin I

Violin II

Viola

Violoncello

Double Bass

f *pp*

6

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

p *pp*

の ごとく たに—が わ— の ごとく に す ぎ さ — る

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

12 A

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

18 B

Bar. (solo)

Sop. (cho.)

Alt. (cho.)

Ten. (chor.)

Bas. (cho.)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

22

Bar. (solo) *p*
かみの われを ま も り た ー ま える ひ の ご と く な

Sop. (cho.) *p*
し ああ - - -

Alt. (cho.) *p*
し ああ - - -

Ten. (chor.) *p*
し ああ - - -

Bas. (cho.) *p*
し ああ - - -

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

27

Bar. (solo) *p* [C]
ら ま を し か の と き に は

Sop. (cho.) *p*
- - かみのわれをまもりたまえるひのごとくならまをし

Alt. (cho.) *p*
- - かみのわれをまもりたまえるひのごとくならまをし

Ten. (chor.) *p*
- - かみのわれをまもりたまえるひのごとくならまをし

Bas. (cho.) *p*
- - かみのわれをまもりたまえるひのごとくならまをし

Vn. I *p* [C]

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

31

Bar. (solo) *mp*
 かれのともしび わがかしらのうえにかがやーき

Sop. (cho.) *mp*
 かみのわれをまもりたまえる

Alt. (cho.) *mp*
 かみのわれをまもりたまえる

Ten. (chor.) *mp*
 みのわれをまもりたまえる

Bas. (cho.) *mp*
 かみのわれをまもりたまえる

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

36

Bar. (solo) *p*
 かれのひかりにーよりてわれくらーやーみをあゆめー

Sop. (cho.) *p*
 ひのごとくならまをし

Alt. (cho.) *p*
 ひのごとくならまをし

Ten. (chor.) *p*
 ひのごとくならまをし

Bas. (cho.) *p*
 ひのごとくならまをし

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

41 **D**

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Bar. (solo)

Sop. (cho.) *mf*
 り
 かのときにはかれのともしびわがかしらのうえにかがやき

Alt. (cho.) *mf*
 かのときにはかれのともしびわがかしらのうえにかがやき

Ten. (chor.) *mf*
 かのときにはかれのともしびわがかしらのうえにかがやき

Bas. (cho.) *mf*
 かのときにはかれのともしびわがかしらのうえにかがやき

44 **E**

Bar. (solo) わがさか

Sop. (cho.) *mf*
 5
 かれのひかりによりてわれくらやみをあゆめり

Alt. (cho.) *mf*
 5
 かれのひかりによりてわれくらやみをあゆめり

Ten. (chor.) *mf*
 5
 かれのひかりによりてわれくらやみをあゆめり

Bas. (cho.) *mf*
 5
 かれのひかりによりてわれくらやみをあゆめり

E

Vn. I *mp* *p*

Vn. II *mp* *p*

Va. *mp* *p*

Vc. *mp* *p*

D.B. *mp* *p*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

48

Bar. (solo) *p* ーりなりしーひのごとくならまをしならまを

Sop. (cho.) か れ の ー ー ひ か ー

Alt. (cho.) *p* か れ ー の ー ー ー ひ か ー

Ten. (chor.) *p* か れ ー の ー ー ー ひ か ー

Bas. (cho.) *p* か れ ー の ー ー ー ひ か ー

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

53

Bar. (solo) し かのときにーは かみのめぐみ わがまくやーのう

Sop. (cho.) り *p* ー よ ー り て

Alt. (cho.) *p* り に よ ー り て ー

Ten. (chor.) *p* り に ー よ ー り て

Bas. (cho.) *p* り に ー よ ー り て ー

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

F

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

58

Bar. (solo) えにあーりーき かのときにーは ぜんの うしやなわれと
cresc. *mf*

Sop. (cho.) われーくーらーやー
cresc. *mf*

Alt. (cho.) わーれーくーらーやー
cresc. *mf*

Ten. (chor.) われーくーらーやー
cresc. *mf*

Bas. (cho.) わーれーくーらーやー
cresc. *mf*

Vn. I *cresc.* *mf*

Vn. II *cresc.* *mf*

Va. *cresc.* *mf*

Vc. *cresc.* *mf*

D.B. *cresc.* *mf*

63

Bar. (solo) とも に い まーし わがこども われの まわりに
cresc. *f* *dim.*

Sop. (cho.) みーをーあーゆーめー
cresc. *f* *dim.*

Alt. (cho.) みーをーあーゆーめー
cresc. *f* *dim.*

Ten. (chor.) みーをーあーゆーめー
cresc. *f* *dim.*

Bas. (cho.) みーをーあーゆーめー
cresc. *f* *dim.*

Vn. I *cresc.* *f* *dim.*

Vn. II *cresc.* *f* *dim.*

Va. *cresc.* *f* *dim.*

Vc. *cresc.* *f* *dim.*

D.B. *cresc.* *f* *dim.*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

68

G

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Bar. (solo) *mf*
ありき

Sop. (cho.) *mf* *pp*
— り わがさかりなりしひのごとく ならま

Alt. (cho.) *mf* *pp*
— り わがさかりなりしひのごとく ならま

Ten. (chor.) *mf* *pp*
— り わがさかりなりしひのごとく ならま

Bas. (cho.) *mf* *pp*
— り わがさかりなりしひのごとく ならま

Vn. I *mf* *p*

Vn. II *mf* *p*

Va. *mf* *p*

Vc. *mf* *p*

D.B. *mf* *p*

G

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

71

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf* in B

Sop. (cho.) *mf* *p*
を し かのときにはかみのめぐみわがまくやのう えに

Alt. (cho.) *mf* *p*
を し かのときにはかみのめぐみわがまくやのう えに

Ten. (chor.) *mf* *p*
を し かのときにはかみのめぐみわがまくやのう えに

Bas. (cho.) *mf* *p*
を し かのときにはかみのめぐみわがまくやのう えに

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf* *f*

Vc. *mf* *f*

D.B. *mf* *f*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

73

Sop. (cho.) *p*
あ - - - り き

Alt. (cho.) *p*
あ - - - り き

Ten. (chor.) *p*
あ - - - り き

Bas. (cho.) *p*
あ - - - り き

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

76 **H**

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Sop. (cho.) *pp*
かのときにはぜんのうしやおわれとともに い - - - ま

Alt. (cho.) *pp*
かのときにはぜんのうしやおわれとともに い - - - ま

Ten. (chor.) *pp*
かのときにはぜんのうしやおわれとともに い - - - ま

Bas. (cho.) *pp*
かのときにはぜんのうしやおわれとともに い - - - ま

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

79

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Sop. (cho.) *p cresc.*
し わがこどもわれのまわりにあーり

Alt. (cho.) *p cresc.*
し わがこどもわれのまわりにあーり

Ten. (chor.) *p cresc.*
し わがこどもわれのまわりにあーり

Bas. (cho.) *p cresc.*
し わがこどもわれのまわりにあーり

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *f* *p*

Vc. *f* *p*

D.B. *f* *p*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまし

82 I

Bar. (solo) *mf* ち ち な が - れ - て - わ が - あ し - あ と を

Sop. (cho.) *mf* き

Alt. (cho.) *mf* き

Ten. (chor.) *mf* き

Bas. (cho.) *mf* き

Vn. I *mf* *mf* *cresc.*

Vn. II *mf* *mf* *cresc.*

Va. *mf* *mf* *cresc.*

Vc. *mf* *mf* *cresc.*

D.B. *mf*

86

Bar. (solo) -- あ - ら - -- い わ が か た わ ら - な - る

Vn. I *mf* *p*

Vn. II *mf* *p*

Va. *mf* *p*

Vc. *mf* *p*

D.B. *p*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

90

Bar. (solo) い わ あ ぶ ら を そ そ ー ぎ い だ せ

Vn. I *cresc.* *mf*

Vn. II *cresc.* *mf*

Va. *cresc.* *mf*

Vc. *cresc.* *mf*

D.B.

93

Bar. (solo) り あ あ す ぎ に し と し つ

Sop. (cho.) *mp* あ あ す ぎ に し と し つ き の ご と く な ら ま を し

Alt. (cho.) *mp* あ あ す ぎ に し と し つ き の ご と く な ら ま を し

Ten. (cho.) *mp* あ あ す ぎ に し と し つ き の ご と く な ら ま を し

Bas. (cho.) *mp* あ あ す ぎ に し と し つ き の ご と く な ら ま を し

Vn. I *mp* *J*

Vn. II *mp* *J*

Va. *mp* *J*

Vc. *mp* *J*

D.B. *mp* *J*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

97 K

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Bar. (solo) きのごとくならまをし

Sop. (cho.) かみのわれをまもりたまえるひのごとく

Alt. (cho.) かみのわれをまもりたまえるひのごとく

Ten. (chor.) かみのわれをまもりたまえるひのごとく

Bas. (cho.) かみのわれをまもりたまえるひのごとく

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

K

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

101

Bar. (solo) く る し み て ひ を お く る も の の た め に わ れ な か ぎ

Sop. (cho.) な ら ま を し

Alt. (cho.) な ら ま を し

Ten. (chor.) な ら ま を し

Bas. (cho.) な ら ま を し

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

106

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Bar. (solo) *mf*
り し - や ますしきもの の た め に わ が こ こ - - ろ - う れ

Sop. (cho.) *mf*
ああ

Alt. (cho.) *mf*
ああ

Ten. (chor.) *mf*
ああ

Bas. (cho.) *mf*
ああ

Vn. I *mf* pizz.

Vn. II *mf* pizz.

Va. *mf* pizz.

Vc. *mf* pizz.

D.B. *mf* pizz.

L

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

111

M

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Bar. (solo)

Sop. (cho.) *p* *pp* *cresc.*

Alt. (cho.) *p* *pp* *cresc.*

Ten. (chor.) *p* *pp* *cresc.*

Bas. (cho.) *p* *pp* *cresc.*

Vn. I *pp* *arco* *cresc.* *mf*

Vn. II *pp* *arco* *cresc.* *mf*

Va. *pp* *arco* *cresc.* *mf*

Vc. *pp* *arco* *cresc.* *mf*

D.B. *pp* *arco* *cresc.* *mf*

え ーざりし や
 ー すぎにしとしつきのごとく な ら ま を し
 ー すぎにしとしつきのごとく な ら ま を し
 ー すぎにしとしつきのごとく な ら ま を し
 ー すぎにしとしつきのごとく な ら ま を し

Score / 21. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

116

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf* *p* *cresc.*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Sop. (cho.) *mf*
かみのわれをまもりたまえるひのごとく ならまをし

Alt. (cho.) *mf*
かみのわれをまもりたまえるひのごとく ならまをし

Ten. (chor.) *mf*
かみのわれをまもりたまえるひのごとく ならまをし

Bas. (cho.) *mf*
かみのわれをまもりたまえるひのごとく ならまをし

Vn. I *mf* *cresc.*

Vn. II *mf* *cresc.*

Va. *mf* *cresc.*

Vc. *mf* *cresc.*

attacca

Score / 22. われよきことをのぞみしに

22. われよきことをのぞみしに

Allegro

Flute *mp*

Oboe *mp* in A

Clarinet in A *mp*

Bassoon *mf* C

Trumpet in C *p*

Baritone (solo) *f*

われ よ き こ と を のぞみしに あしき こと --- き た り

Allegro

Violin I *f*

Violin II *f*

Viola *f*

Violoncello *f* arco

Double Bass *f* arco

Fl. *f*

Ob. *f*

Cl. *f*

Bn. *f*

Tp. *f*

Bar. (solo) *f*

ひ か り を ま ち し に --- く ら や み --- き た れ り

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

Score / 22. われよきことをのぞみしに

14 **A Lamentando**

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Tp.

Bar. (solo)

A Lamentando

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

20

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 22. われよきことをのぞみしに

25

Cl. *mf* *p* in B **B**

Hr. I *mf* *p*

Hr. II *mf* *p*

Bar. (solo) *mf* *p*

き - - ぬ わ れはひの

Vn. I *mf* *p* **B**

Vn. II *mf* *p*

Va. *mf* *p*

Vc. *mf* *p*

D.B. *mf*

30

Bar. (solo) ひ かーりーを こう むら ずしてか な し み つ あ る き こうかいのなかに

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

Score / 22. われよきことをのぞみしに

36

Bar. (solo)

た ち て た す ー け を よ ー び も と ー む

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

41

Bar. (solo)

わ が かわ は くろく になりて はげ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

mf *p*

46

Bar. (solo)

お ー ー ち わ が ほね は あ つ ー さ ー

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 22. われよきことをのぞみに

51

Bar. (solo) に - よ り て や け わ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

55

Fl. *mf*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Tp. *p*

Bar. (solo) が こ と は か な し み の ね と な り わ が ふ え

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

D

23. 嗚呼過ぎにし年月の如くならまをし

Oboe

Soprano (chorus)
あ あ す ぎ に し と し つ き の ご と く な ら ま を し か み

Alto (chorus)
あ あ す ぎ に し と し つ き の ご と く な ら ま を し か み

Tenor (chorus)
あ あ す ぎ に し と し つ き の ご と く な ら ま を し か み

Bass (chorus)
あ あ す ぎ に し と し つ き の ご と く な ら ま を し か み

Violin I

Violin II

Viola

Violoncello

Double Bass

8 A

Sop. (cho.)
の わ れ を ま も り た ま え る ひ の ご と く な ら ま を し か み の

Alt. (cho.)
の わ れ を ま も り た ま え る ひ の ご と く な ら ま を し か み の

Ten. (chor.)
の わ れ を ま も り た ま え る ひ の ご と く な ら ま を し か み の

Bas. (cho.)
の わ れ を ま も り た ま え る ひ の ご と く な ら ま を し か み の

16

Sop. (cho.)
わ れ を ま も り た ま え る ひ の ご と く な ら ま を し

Alt. (cho.)
わ れ を ま も り た ま え る ひ の ご と く な ら ま を し

Ten. (chor.)
わ れ を ま も り た ま え る ひ の ご と く な ら ま を し

Bas. (cho.)
わ れ を ま も り た ま え る ひ の ご と く な ら ま を し

Score / 24. 無智のことはもて道を暗からしむる者は誰ぞや

24. 無智のことはもて道を暗からしむる者は誰ぞや

Allegretto non troppo

Musical score for woodwinds and brass instruments. The score is in 4/4 time and G major. It includes parts for Flute, Oboe, Clarinet in A, Bassoon, Horn I in F, Horn II in F, and Trumpet in C. The tempo is marked **Allegretto non troppo**. Dynamics include *f* (forte) and *mf* (mezzo-forte). The woodwinds play a melodic line with grace notes, while the brass instruments provide a rhythmic accompaniment.

Allegretto non troppo

Musical score for string instruments. It includes parts for Violin I, Violin II, Viola, Violoncello, and Double Bass. The tempo is marked **Allegretto non troppo**. Dynamics include *f* (forte). The strings play a rhythmic accompaniment with a mix of eighth and sixteenth notes.

Musical score for woodwinds and brass instruments, continuing from the previous section. It includes parts for Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), Bassoon (Bn.), Horn I (Hr. I), Horn II (Hr. II), Trumpet (Tp.), Violin I (Vn. I), Violin II (Vn. II), Viola (Va.), Violoncello (Vc.), and Double Bass (D.B.). Dynamics include *f* (forte) and *ff* (fortissimo). The woodwinds play a melodic line with grace notes, while the brass instruments provide a rhythmic accompaniment. The strings continue their rhythmic accompaniment.

Score / 24. 無智のことはをもて道を暗からしむる者は誰ぞや

7 A

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

A

11 B

Fl. *f* *p*

Ob. *f* *p*

Cl. *f* *p*

Bn. *f* *p*

Hr. I *f* *p*

Hr. II *f* *p*

Ten. (solo)

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

むちの ことばをも て みちをく

B

Score / 24. 無智のことはをもて道を暗からしむる者は誰ぞや

15

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Ten. (solo)

らからしむるものはた れぞや なんじ こし ひきからけて ますらをの ごとくせよ

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

20

Fl. *p* *cresc.* *f* *p*

Ob. *p* *cresc.* *f* *p*

Cl. *p* *cresc.* *f* *p*

Bn. *p* *cresc.* *f* *p*

Ten. (solo)

われなんじにとわん なんじ われにこたえよ ちの もといをわが すえたり

Vn. I *p* *mf* *f*

Vn. II *p* *mf* *f*

Va. *p* *mf* *f*

Vc. *p* *mf* *f*

D.B. *mf* *f*

C

Score / 24. 無智のことはをもて道を暗からしむる者は誰ぞや

24

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)

し とき なんじは いづくにありしや なんじ もしさとらあらば いえ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

29

Fl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)

か の とき - に - は あけ の

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 24. 無智のことはをもて道を暗からしむる者は誰ぞや

34

Ten. (solo)

ほ - - - し あい と も に - う - た - い か

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

38

Ten. (solo)

み の こ - た - ち み な よろ - こ び て よ ば わ り め

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

E

42

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)

う み - の - み - ず な が - れ い - で た い ない

E

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 24. 無智のことはをもて道を暗からしむる者は誰ぞや

47

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn.

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)
よ り わ き い で し と き た が と を も て こ れ を と じ こ

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

51

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. I

Hr. II

Ten. (solo)
め - た - り - - し や あ め に ち ち あ り

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

Score / 24. 無智のことはをもて道を暗からしむる者は誰ぞや

55

Fl. *mp*

Ob. *mp*

Cl. *mp*

Bn. *mp*

Hr. I *mp*

Ten. (solo)

や つゆの たまは たが うめ るものなる や そらの し もは たが

60

Fl. *cresc.*

Ob. *cresc.*

Cl. *cresc.*

Bn. *cresc.*

Hr. I *cresc.*

Ten. (solo)

う むと ころ ー な ー るーー や みず かたまりて いし の ごとく に

65

Fl. *f*

Ob. *f*

Cl. *f*

Bn. *f*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Ten. (solo)

な りふちの おもてーこおる

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

Score / 24. 無智のことはもて道を暗からしむる者は誰ぞや

G

69

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Tp. *p*

Ten. (solo)

むねのうちのちえはたがあたえしもの。

G

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

Ten. (solo)

ぞこころのうちのさとりはたがさずけしもの。

74

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Ten. (solo)

ぞこころのうちのさとりはたがさずけしもの。

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 24. 無智のことはもて道を暗からしむる者は誰ぞや

79

Fl. *mp* *mf*

Ob. *cresc.* *mf*

Cl. *cresc.* *mf*

Bn. *cresc.*

Ten. (solo) ぞ ふて んのしたに ある -

Vn. I *cresc.* *mf*

Vn. II *cresc.* *mf*

Va. *cresc.* *mf*

Vc. *cresc.* *mf* pizz.

D.B. *cresc.* *mf* pizz.

H

83

Fl. *p* *mf* *mf*

Ob. *p* *mf* *mf*

Cl. *p* *mf* *mf*

Ten. (solo) も - の - は ことごとく わが - もの - - - - な -

Vn. I *cresc.* *f* *f*

Vn. II *cresc.* *f* *f*

Va. *cresc.* *f* *f*

Vc. *cresc.* *f* arco

D.B. *cresc.* *f* arco

H

Score / 24. 無智のことはもて道を暗からしむる者は誰ぞや

87

Fl. *dim.* *p*

Ob. *dim.* *p*

Cl. *dim.* *p*

Ten. (solo) *p*

Vn. I *dim.* *p*

Vn. II *dim.* *p*

Va. *dim.* *p*

Vc. *dim.* *p*

D.B. *dim.* *p*

25. 淵をして鼎の如く沸からしめ

Moderato

Flute *f* *mp*

Oboe *f* *mp*

Clarinet in A *f* *mp*

Bassoon *f*

Horn I in F *mf*

Horn II in F *mf*

Trumpet in C *mf*

Soprano (chorus) *mf*
ふちーをし てかなえのご

Alto (chorus) *mf*
ふちーをし てかなえのご

Tenor (chorus) *mf*
ふちーをし てかなえのご

Bass (chorus) *mf*
ふち をし てかなえのご

Moderato

Violin I *mf*

Violin II *mf*

Viola *f* *mf*

Violoncello *f* *mf*

Double Bass *f* *mf*

Score / 25. 淵をして鼎の如く沸からしめ

13 A

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Sop. (cho.) *p* *cresc.* *mf* *p* *mf*

Alt. (cho.) *p* *cresc.* *mf* *p* *mf*

Ten. (cho.) *p* *cresc.* *mf* *p* *mf*

Bas. (cho.) *p* *cresc.* *mf* *p* *mf*

Vn. I *p* *cresc.*

Vn. II *p* *cresc.*

Va. *p* *cresc.*

Vc. *p* *cresc.*

D.B. *p* *cresc.* *mf*

Lyrics:
 ご とく な ら し め お の が う し ろ に ひ か る み ち を の こ せ ば ふ ち は し
 ご とく な ら し め お の が う し ろ に ひ か る み ち を の こ せ ば ふ ち は し
 ご とく な ら し め お の が う し ろ に ひ か る み ち を の こ せ ば ふ ち は し
 ご とく な ら し め お の が う し ろ に ひ か る み ち を の こ せ ば ふ ち は し

Score / 25. 淵をして鼎の如く沸からしめ

26

Sop. (cho.)
と ならぶ も - の なし これ - は おそれ な きみにつ くら れたり

Alt. (cho.)
と ならぶ も の なし これ は おそれ な きみにつ くら れたり

Ten. (chor.)
と ならぶ も - の なし これ - は おそれ な きみにつ くら れたり

Bas. (cho.)
と ならぶ も の なし これ は おそれ な きみにつ くら れたり

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

33

Sop. (cho.) *mp*
これはすべての こうだ いなるものを か ろん ず まこと

Alt. (cho.) *mp*
これはすべての こうだ いなるものを か ろん ず まこと

Ten. (chor.) *mp*
これはすべての こうだ いなるものを か ろん ず まこと

Bas. (cho.) *mp*
これはすべての こうだ いなるものを か ろん ず まこと

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

C

Score / 25. 淵をして鼎の如く沸かしめ

38

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Sop. (cho.) *cresc.* *f*
 にもろもろの ほこりたかぶる もののおうたるな - り

Alt. (cho.) *cresc.* *f*
 にもろもろの ほこりたかぶる もののおうたるな り

Ten. (chor.) *cresc.* *f*
 にもろもろの ほこりたかぶる もののおうたるな り

Bas. (cho.) *cresc.* *f*
 にもろもろの ほこりたかぶる もののおうたるな り

Vn. I *cresc.*

Vn. II *cresc.*

Va. *cresc.*

Vc. *cresc.*

D.B. *cresc.* *f* *attacca*

26. 嗚呼われは賤しき者なり。
何んとなんじに答えまつらんや

Moderato

Flute *f*

Oboe *f*

Clarinet in A *f* in A

Bassoon *f*

Horn I in F *f*

Horn II in F *f*

Trumpet in C *f* in C

Baritone (solo)

あ あ われは いや し き も の な り なんとなんじにこた え まつらん

Moderato

Violin I *f* *p* *f*

Violin II *f* *p* *f*

Viola *f* *p* *f*

Violoncello *f* *p* *f*

Double Bass *f* *p* *f*

Score / 26. 嗚呼われは賤しき者なり。何んとなんじに答えまつらんや

8 A

Fl. *f* *mf*

Ob. *f* *mf*

Cl. *f* *mf*

Bn. *f* *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Bar. (solo) *f* *mf*

Vn. I *mf* *mf*

Vn. II *mf* *mf*

Va. *mf* *mf*

Vc. *mf* *mf*

D.B. *mf* *mf*

や ただ てを わ がくちにあてんの み われ すでに ひ

14

Fl. *mf* *p*

Ob. *mf* *p*

Cl. *mf* *p*

Bn. *mf* *p*

Hr. I *p*

Bar. (solo) *mf* *p*

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

とたびかたれり また いわ じ す で に ふたたびせーり かさねて のべじ

Score / 26. 嗚呼われは賤しき者なり。何んとなんじに答えまつらんや

B Andante

20



Fl.
Ob.
Cl.
Bn.
Hr. I
Tp.
Bar. (solo)
われ しる なんじは すべ てのこ とを な すを え た も

B Andante



Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.
Bn.
Tp.
Bar. (solo)
う こう きき た ま え わ れ い う と こ ろ あ ら ん

24



Bn.
Tp.
Bar. (solo)
う こう きき た ま え わ れ い う と こ ろ あ ら ん
Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.
cresc.

Score / 26. 嗚呼われは賤しき者なり。何んとなんじに答えまつらんや

28

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *p*

Hr. II *p*

Tp. *p*

Bar. (solo)
われ なんじに といまつらん われに こたえ た----- ま え われ なんじのこ

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

poco mosso

C

35

Fl. *f*

Ob. *f*

Cl. *f*

Bn. *f*

Hr. I *f*

Hr. II *f*

Tp. *f*

Bar. (solo)
とを みみ に て ききいた りしが いまは一めをもて なんじをー みたてまつー

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

C

Score / 27. 無智のことはをてみちをくからしむるものは誰ぞや

10 B

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Ten. (solo) *mf*

Bar. (solo) *mf*

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

くせよ われなんじにとわん
 なんとなんじにこたえ まつらんや ただてをわ

15

Fl. *p* *cresc.* *mf*

Ob. *p* *cresc.* *mf*

Cl. *p* *cresc.* *mf*

Bn. *p* *cresc.* *mf*

Ten. (solo) *p* *cresc.* *mf*

Bar. (solo) *p* *cresc.* *mf*

Vn. I *p* *mf* *cresc.*

Vn. II *p* *mf* *cresc.*

Va. *p* *mf* *cresc.*

Vc. *p* *mf* *cresc.*

D.B. *p* *mf* *cresc.*

なんじ われにこたえよ
 がくちにあてんの み われすでにひとたびかたれり

Score / 27. 無智のことはをてみちをくらからしむるものは誰ぞや

20

Fl. *f* *p*

Ob. *f* *p*

Cl. *f* *p*

Bn. *f* *p*

Ten. (solo)

Bar. (solo)

ちの もといをわが すえたり し とき なんじは いづくにありしや
また いわ じ すで に ふたたびせー

Vn. I *f* *mf*

Vn. II *f* *mf*

Va. *f* *mf*

Vc. *f* *mf*

D.B. *f* *mf*

C

25

Fl. *p*

Ob. *p* *mp*

Cl. *p*

Bn. *p* *mp*

Tp. *mp* in C

Ten. (solo)

Bar. (solo)

の べ
なんじ もしさとりあらば いえ
り かせねて の べ じ D われ する なんじは す

Vn. I *mp*

Vn. II *mp*

Va. *mp*

Vc. *mp* *pizz.*

D.B. *mp*

D

Score / 27. 無智のことはをてみちをくらしむるものは誰ぞや

30

Ob.

Bn.

Tp.

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

べ てのこ とを な すを え た も う こう き き た ま え わ

34

Fl.

Ob.

Bn.

Tp.

Ten. (solo)

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

か の と き - に - は あ け の れ い う と こ ろ あ ら ん

E

p

pizz.

p

pizz.

p

pizz.

p

pizz.

p

pizz.

p

Score / 27. 無智のことはをてみちをくからしむるものは誰ぞや

38

Fl.

Ten. (solo)

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

42

Fl.

Ten. (solo)

Bar. (solo)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

46

Bn.

Hr. I

Hr. II

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

attaca

28. 海の水流れいで
Moderato

Bassoon *mf*

Horn I in F *mf*

Horn II in F *mf*

Soprano (chorus) *mf*
う み の み ず な が ー れ

Mezzo (chorus) *mf*
う み の み ず な が ー れ

Alto (chorus) *mf*
う み の み ず な が ー れ

Moderato

Violin I *mf*

Violin II *f* *mf*

Viola *f* *mf*

Violoncello *f* *mf* pizz.

Double Bass *f* *mf* pizz.

5

Bn. *f*

Sop. (cho.) *f*
たい ない より わき い で し と き た が と を も て こ れ を と じ

Mez. (cho.) *f*
たい ない より わき い で し と き た が と を も て こ れ を と じ

Alt. (cho.) *f*
たい ない より わき い で し と き た が と を も て こ れ を と じ

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

Score₉ / 28. 海の水流れいで

Ob. *p*
 Cl. *p* in A
 Bn. *p*

Sop. (cho.)
 こ - - - - - め - た - り - - - しや

Mez. (cho.)
 こ - - - - - め た - り - - - しや

Alt. (cho.)
 こ - - - - - め た - り - - - しや

Vn. I
 Vn. II
 Va.
 Vc.
 D.B.

13 **A**

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Sop. (cho.)
 あ め に ち ち あ り や つ ゆ の た ま

Mez. (cho.)
 あ め に ち ち あ り や つ ゆ の た ま

Alt. (cho.)
 あ め に ち ち あ り や つ ゆ の た ま

Vn. I **A** *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

Score / 28. 海の水流れいで

17

Sop. (cho.) *cresc.*
 は た が う め る も の な る や そ ら の し も は た が

Mez. (cho.) *cresc.*
 は た が う め る も の な る や そ ら の し も は た が

Alt. (cho.) *cresc.*
 は た が う め る も の な る や そ ら の し も は た が

Vn. I *cresc.*

Vn. II *cresc.*

Va. *cresc.*

Vc. *cresc.*

D.B. *cresc.*

21

Sop. (cho.) *mf* *cresc.*
 う む と こ ろ - な - - - る - や み ず か た ま り て い し

Mez. (cho.) *mf* *cresc.*
 う む と こ ろ - な - - - る - や み ず か た ま り て い し

Alt. (cho.) *mf* *cresc.*
 う む と こ ろ な - - - る - や み ず か た ま り て い し

Vn. I *mf* *cresc.*

Vn. II *mf* *cresc.*

Va. *mf* *cresc.*

Vc. *arco* *mf* *pizz.* *cresc.*

D.B. *arco* *mf* *pizz.* *cresc.*

Score / 28. 海の水流れいで

25

Hr. I

Hr. II

Tp. *in C*

Sop. (cho.)
の ご と く に な り ふ ち の お も て こ お

Mez. (cho.)
の ご と く に な り ふ ち の お も て こ お

Alt. (cho.)
の ご と く に な り ふ ち の お も て こ お

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc. *arco*

D.B. *arco*

28

Fl. *f*

Ob. *f*

Cl. *f*

Bn. *f*

Hr. I

Hr. II

Tp.

Sop. (cho.) *f*
る

Mez. (cho.) *f*
る

Alt. (cho.) *f*
る

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

attaca

Score / 29. 胸のうちのちえは誰が与えし者ぞ

29. 胸のうちのちえは誰が与えし者ぞ

Moderato

Flute *ff* *p*

Oboe *ff* *p*

Clarinet in A *ff* *p*

Bassoon *ff* *p*

Horn I in F *f* *p*

Horn II in F *f* *p*

Trumpet in C *f* *p*

Tenor (solo) **Moderato** むねのうちのちえはたがあたえしもーのー

Violin I *ff* *p*

Violin II *ff* *p*

Viola *ff* *p*

Violoncello *ff* *p*

Double Bass *ff* *p*

Ten. (solo) ⁶ ぞ ころのうちのさとりはたがさずけしーもーのー

Bas. (solo) われ なんじのことをみみにて

Vn. I *ff* *p*

Vn. II *ff* *p*

Va. *ff* *p*

Vc. *ff* *p*

D.B. *ff* *p*

Score / 29. 胸のうちのちは誰が与えし者ぞ

11 A

Ten. (solo) *ぞ ふて んの - した に ある -*

Bas. (solo) *ききいたりしが いまはめを - もて な んじ - を - み た て ま つ -*

Vn. I *p* A

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *pizz.* *p*

D.B. *pizz.* *p*

15

Ten. (solo) *も - の - は ことごとく わが - もの - - - - な -*

Bas. (solo) *ろ こ こ を も て わ れ み ず か ら う ら み ち り は い の - な か に て く -*

Vn. I *cresc.* *f* *mf*

Vn. II *cresc.* *f* *mf*

Va. *cresc.* *f* *mf*

Vc. *cresc.* *f* *arco* *pizz.* *mf*

D.B. *cresc.* *f* *arco* *pizz.* *mf*

Score / 29. 胸のうちのちえは誰が与えし者ぞ

19

Fl. *mf*

Ob. *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mp*

Hr. II *mp*

Tn. (solo) *l*

Bas. (solo) *φ*

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc. arco

D.B. arco

30. 我汝のことを耳にて聞いたりしが

Grandioso

The musical score is divided into two systems. The first system includes woodwind and brass instruments, while the second system includes string instruments. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 4/4. The tempo/mood is marked **Grandioso**. Dynamics include *f* (forte) and *mf* (mezzo-forte).

Woodwind Section:
Flute: *f*, melodic line with slurs.
Oboe: *f*, melodic line with slurs.
Clarinet in A: *f*, melodic line with slurs, marked "in A".
Bassoon: *f*, melodic line with slurs.

Brass Section:
Horn I in F: *mf*, melodic line with slurs.
Horn II in F: *mf*, melodic line with slurs.
Trumpet in C: *mf*, melodic line with slurs, marked "in C".

String Section:
Violin I: *f*, melodic line with slurs.
Violin II: *f*, melodic line with slurs.
Viola: *f*, melodic line with slurs.
Violoncello: *f*, melodic line with slurs.
Double Bass: *f*, melodic line with slurs.

Score / 30. 我汝のことを耳にて聞いたりしが

8

Fl. *f*

Ob. *f*

Cl. *f*

Bn. *f*

Hr. I *f*

Hr. II *f*

Trp. *f*

Sop. (cho.) *mf*
われ - なんじ - の --- こ

Alt. (cho.) *mf*
われ なんじ - の - こ

Ten. (chor.) *mf*
われ なんじ の --- こ

Bas. (cho.) *mf*
われ - なんじ - の なんじ

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

A

Score / 30. 我汝のことを耳にて聞いたりしが

14

Fl. *mf* *cresc.*

Ob. *mf*

Cl. *mf* *cresc.*

Bn. *mf*

Sop. (cho.) *cresc.*
とをみみにてききいたりしが—いまは—めをもて—なんじ

Alt. (cho.) *cresc.*
とをみみにてききいたりしが—いまは—めをもて—な

Ten. (chor.) *cresc.*
とをみみにてききいたりしが—いまは—めをもて—なんじ

Bas. (cho.) *cresc.*
のことを—みみに—てききいた—りしが—いまは—めをもて—な

Vn. I **B**

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 30. 我汝のことを耳にて聞いたりしが

21

Fl. *f*

Ob. *cresc.* *f*

Cl. *f*

Bn. *cresc.* *f*

Hr. I *f*

Hr. II *f*

Tp. *f*

Sop. (cho.) *f*
を - み た て ま つ る い ま は め を も て な ん じ を み た て ま つ - る

Alt. (cho.) *f*
ん じ を - み た て ま - つ る め を も て な ん じ を み た て ま つ る

Ten. (chor.) *f*
を - み た て ま つ る い ま は め を も て な ん じ を み た て ま つ る

Bas. (cho.) *f*
ん じ を - み た て ま つ る め を も て な ん じ を み た て ま つ る

Vn. I *f*

Vn. II *f*

Va. *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

attacca

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

31. エホバ与えエホバ取り給う。
エホバの御名は讃むべきかな

Grandioso

Flute *f* *mf*

Oboe *f* *mf* in A

Clarinet in A *mf*

Bassoon *f* *mf*

Horn I in F *mf*

Horn II in F *mf*

Bass (chorus) *f* *mf*

エホバ あた え エホバ とり たもう エホバ の

Moderato

Violin I *f* *mf*

Violin II *f* *mf*

Viola *f* *mf*

Violoncello *f* *mf*

Double Bass *f* *mf*

Cl. *mf*

Bn. *mf*

Hr. I *mp* *f*

Alt. (cho.) *f*

Bas. (cho.) *f*

エホバ あた え
み なは ほ むべきか な わ れ な んじ

A

Vn. I *f* *mf*

Vn. II *f* *mf*

Va. *f* *mf*

Vc. *f* *mf*

D.B. *f* *mf*

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

11

Cl.
Bn.
Hr. I
Alt. (cho.)
Bas. (cho.)
Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

エホバとりたもう エホバのみなほほむべ
の --- ことをみみにてききいたりし

16

Fl.
Cl.
Bn.
Hr. I
Hr. II
Alt. (cho.)
Ten. (chor.)
Bas. (cho.)
Vn. I
Vn. II
Va.
Vc.
D.B.

きかなわれ - なんじ - - の --- ことを
エホバあたえエホバとりたもう
がいまは - めをもて - なんじ - をみたてま -

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

21

Fl. *mf*

Cl.

Bn.

Hr. II

Sop. (cho.) *f*
エホバあ

Alt. (cho.)
みみにてききいたりしがいま

Ten. (chor.)
エホバのみなはほむべきかなわれ

Bas. (cho.)
つーるいまはめをもてなんじをみたてまつる

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

26

Fl.

Sop. (cho.)
たえエホバとりたもうエホバのみなは

Alt. (cho.)
はめをもてなんじをみたてまつるいまはなんじ

Ten. (chor.)
なんじーのーこと をみみにて

Bas. (cho.)
いまはめをもてなんじをみ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

31 Violoncello **D**

Bn. *f*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf* in C

Sop. (cho.) *f*
 ほ む べ き かな いまは 一 め を も て 一 なんじ を 一 み た て

Alt. (cho.) *f*
 を み た て ま つ る いまは 一 め を も て 一 なんじ を 一 み

Ten. (chor.) *f*
 き き いた り し が いまは 一 め を も て 一 なんじ を 一 み た て

Bas. (cho.) *f*
 た て ま つ る いまは 一 め を も て 一 なんじ を 一 み

D

Vn. I *cresc.* *f*

Vn. II *cresc.* *f*

Va. *cresc.* *f*

Vc. *f*

D.B. *f*

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

36

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Tp.

Sop.
(cho.)

Alt.
(cho.)

Ten.
(chor.)

Bas.
(cho.)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

まつる み た てまつる

た てまつる まつる

まつる み た てまつる

た てまつる まつる

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

41 **E**

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Sop. (cho.)
エホバ あた - え エホバ と り たもう エホバ の

Alt. (cho.)
エホバ あた - え エホバ と り たもう エホバ の

Vn. I *p*

Vn. II *p*

Va. *p*

Vc. *p*

D.B. *p*

46 **F**

Ob.

Cl.

Bn.

Sop. (cho.)
み なは ほ むべ - きか な

Alt. (cho.)
み なは ほ むべ - きか な

Ten. (chor.) *mp*
エホバ あた - え

Bas. (cho.) *mp*
エホバ あた え

Vn. I *mp*

Vn. II *mp*

Vc. *mp*

Score / 31. エホバとエホバ取り合う。エホバの御名は讃むべきかな

51

Ten. (chor.)
 エホバと 取り たもう エホバの みなは ほむべ

Bas. (cho.)
 エホバと 取り たもう エホバの みなは ほむべ

Vn. I

Vn. II

Va. Violoncello

Vc.

D.B. Violoncello
 pizz.
 mp

56

Fl. **G**
 きかな mp

Ob. **G**
 きかな mp

Cl. **G**
 きかな mp

Alt. (cho.)
 エホバあたえ エホバと取りたも

Ten. (chor.)
 きかな エホバあたえ

Bas. (cho.)
 きかな エホバあたえ

Vn. I

Vn. II

Va. **G**

Vc. **G**
 p

D.B. **G**
 arco
 p

Score / 31. エホバとエホバ取り合う。エホバの御名は讃むべきかな

61

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. II *p*

Sop. (cho.) *f*
エホバのみなほほむべきかな

Alt. (cho.) *f*
う エホバあた

Ten. (chor.) *p*
エホバとりたもう エ

Bas. (cho.) *p*
エホバとり エホバの

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *p*

D.B. *p*

66

Bn. *cresc.*

Hr. I *mf*

Hr. II *cresc.*

Sop. (cho.) *f*
エホバのみなほほむべきかな

Alt. (cho.) *f*
エホバとりたもう ほむべきかな

Ten. (chor.) *f*
ホバあたえ ほむべきかな

Bas. (cho.) *f*
みなほほむべきかな

Vn. I *cresc.*

Vn. II *cresc.*

Va. *cresc.*

Vc. *cresc.*

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

71 **I**

Fl. *p*

Ob. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Tp. *p*

Bar. (solo) *mf*

Sop. (cho.) *p*

Alt. (cho.) *p*

Ten. (chor.) *p*

Bas. (cho.) *p*

Vn. I *pp*

Vn. II *pp*

Va. *pp*

Vc. *pp*

D.B. *pp*

エホバ あた え エホバ とり たもう

われ -

われ

われ

われ -

われ -

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

76

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Tp.

Bar. (solo)

Sop. (cho.)

Alt. (cho.)

Ten. (chor.)

Bas. (cho.)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

エホバのみなは

な ん じ - - の - - - こ と を

な ん じ - の - こ と を

な ん じ の - - - こ と を

な ん じ - の こ と - を

J

p

p

p

p

p

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

81

The score is for a choral and instrumental piece. It features a solo Baritone (Bar. (solo)) and a four-part choir (Sop. (cho.), Alt. (cho.), Ten. (chor.), Bas. (cho.)). The instrumental parts include Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), Bassoon (Bn.), Violin I (Vn. I), Violin II (Vn. II), Viola (Va.), Violoncello (Vc.), and Double Bass (D.B.). The key signature has one sharp (F#), and the time signature is common time (C). The Baritone part has lyrics in Japanese: 'ほむべきかな エホバあたいえ' (Praise be to Ehova, who takes care of me). The choir parts have lyrics: 'みみにて' (Praise to the name of Ehova).

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Bar. (solo)

ほむべきかな エホバあたいえ

Sop. (cho.)

p
みみにて

Alt. (cho.)

p
みみにて

Ten. (chor.)

p
みみにて

Bas. (cho.)

p
みみにて

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

mp

mp

mp

mp

mp

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

86 K

Fl. *p*

Cl. *p*

Bn. *p*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Tp. *mf*

Bar. (solo)

Sop. (cho.) *p* *mf*

Alt. (cho.) *p* *mf*

Ten. (chor.) *p* *mf*

Bas. (cho.) *p* *mf*

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

エホバと り たもう

き き いた り し が ー い ま は ー め を も

き き いた り し が ー い ま は ー め

き き いた り し が ー い ま は ー め を も

き き いた り し が ー い ま は ー め

K

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

91

Ob. *mf*

Hr. I

Hr. II

Tp.

Bar. (solo)

Sop. (cho.)
て - なんじを - み たて ま つる いまは め をも て なんじを

Alt. (cho.)
をも て - なんじを - み たて ま - つる め をも て なんじを

Ten. (chor.)
て - なんじを - み たて ま つる いまは め をも - て なんじ

Bas. (cho.)
をも て - なんじを - み たて ま つる め をも - て なんじ

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

96 L

Ob.

Hr. I

Hr. II

Tp.

Bar. (solo)

Sop. (cho.)
ほ む べ き かな
み た て ま つ る エ ホ バ あ た

Alt. (cho.)
み た て ま つ る エ ホ ー あ た

Ten. (chor.)
を み た て ま つ る エホバあた ーえ エホバとり たもう エホバのみ なは

Bas. (cho.)
を み た て ま つ る エホバあた ーえ エホバとり たもう エホバのみ なは

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

cresc.

f

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

101

Sop. (cho.)
え エ ホ バ ー と り た も う

Alt. (cho.)
え エ ホ バ ー と り た も う

Ten. (chor.)
ほ むべ-きかな エホバあた-え エホバとり 給う エホバのみ なは ほ むべきかな

Bas. (cho.)
ほ むべ-きかな エホバあた-え エホバとり 給う エホバのみ なは ほ むべきかな

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

106 **M**

Fl. *mf* *cresc.*

Cl. *mf* *cresc.*

Bn. *mf* *cresc.*

Sop. (cho.)
エホバあた-え エホバとり 給う エホバのみ なは ほ むべ-きかな エホバあた-え

Alt. (cho.)
エホバあた-え エホバとり 給う エホバのみ なは ほ むべ-きかな エホバあた-え

Ten. (chor.)
エ ホ バ の み な は ほ む

Bas. (cho.)
エ ホ バ の み な は ほ む

M

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

111 *rit.* **Grandioso**

Fl. *f*

Ob. *mf*

Cl. *f*

Bn. *f*

Hr. I *mf*

Hr. II *mf*

Sop. (cho.)
エホバとりたう エホバのみなほ ほむべきかな エホバあたいえ

Alt. (cho.) *mf*
エホバとりたう エホバのみなほ ほむべきかな エホバあたいえ

Ten. (chor.) *mf*
べきかな エホバあたいえ

Bas. (cho.) *mf*
べきかな エホバあたいえ

Grandioso

Vn. I *mf*

Vn. II *mf*

Va. *mf*

Vc. *mf*

D.B. *mf*

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

116

Fl. *mf* *cresc.*

Ob. *cresc.*

Cl. *mf* *cresc.*

Hr. I

Hr. II

Sop. (cho.)
エホバと り たもう エホバの み なは ほ む べー きか

Alt. (cho.)
エホバと り たもう エホバの み なは ほ む べー きか

Ten. (chor.)
エホバと り たもう エホバの み なは ほ む べー きか

Bas. (cho.)
エホバと り たもう エホバの み なは ほ む べー きか

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

121

Fl.

Ob.

Cl.

Bn.

Hr. I

Hr. II

Sop. (cho.)

Alt. (cho.)

Ten. (chor.)

Bas. (cho.)

Vn. I

Vn. II

Va.

Vc.

D.B.

O

f

mf

な エホバ あ た え エホバ と り た も う

な エホバ あ た え エホバ と り た も う

な エホバ あ た え エホバ と り た も う

な エホバ あ た え エホバ と り た も う

O

f

f

f

f

f

Score / 31. エホバ与えエホバ取り給う。エホバの御名は讃むべきかな

126

Fl. *cresc.* *ff*

Ob. *cresc.* *ff*

Cl. *cresc.* *ff*

Bn. *cresc.* *ff*

Hr. I *cresc.* *f*

Hr. II *cresc.* *f*

Tp. *mf* *cresc.* *f*

Sop. (cho.) *cresc.* *ff*
 エホバのみなはほむべきかな

Alt. (cho.) *cresc.* *ff*
 エホバのみなはほむべきかな

Ten. (chor.) *cresc.* *ff*
 エホバのみなはほむべきかな

Bas. (cho.) *cresc.* *ff*
 エホバのみなはほむべきかな

Vn. I *cresc.* *ff*

Vn. II *cresc.* *ff*

Va. *cresc.* *ff*

Vc. *cresc.* *ff*

D.B. *cresc.* *ff*

2016年3月31日 発行

明治学院歴史資料館資料集 【第11集】

編集代表 長谷川 一
発行者 小暮 修也
発行所 明治学院歴史資料館
東京都港区白金台1-2-37
電話 (03) 5421-5170
印刷所 株式会社共同印刷所
東京都府中市寿町3-13-8
